

# 研究活動報告

## Report on Research Activities

(2015年1月1日～2015年12月31日)

ここに収録された題目は、学内研究者の発表したもののうち、2015年1月1日より2015年12月31日迄の期間に学術雑誌等や学会等で発表したものを、論文の性質、発表機関などには一切制限を加えず、提供された原稿のまま掲載した。

- |    |           |
|----|-----------|
| 凡例 | ①著書：      |
|    | ②総説・原著論文： |
|    | ③報告・資料：   |
|    | ④学会発表：    |
|    | ⑤雑誌・新聞等：  |
|    | ⑥その他研究活動： |

〔スポーツ科学科〕  
 スポーツ医科学コース  
 教授  
 櫻庭 景植

①  
 金子晴香, 櫻庭景植; 「スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド—第2版—」扁平足障害, 分光堂, 2015

②  
**【原著】**  
 Yaginuma S, Sakuraba K, Kadoya H, Koibuchi E, Matsukawa T, Ito H, Yokoyama K, Suzuki Y.:  
 Early bedtime associated with the salutary breakfast intake in Japanese nursery school children.  
 Int Med J 22(1): 30-32, 2015

Yoshio Suzuki, Tomomi Shimizu, Makoto Ota, Ryuzo Hirata, Kenji Sato, Yoshifumi Tamura, Akio Imanishi, Masayuki Watanabe and Keishoku Sakuraba;  
 Different training status may alter the continuous blood glucose kinetics in self-paced endurance running.  
 Experimental and Therapeutic Medicine, 10: 978-982, 2015.

Wada Y, Sakuraba K, Kubota A. Effect of the long-term care

prevention project on the motor functions and daily life activities of the elderly. J Phys Ther Sci. 27(1): 199-203, 2015

Ishikawa K, Omori K, Obinata M, MshimaK, Osaka H, Oode Y, Kubota A, Sakuraba K, Yanagawa Y. A field survey of spinal cord injury in bodybooaders. Am J Emerg Med. 33(1): 112-113, 2015

Tominaga S, Sakuraba K. Usui F. The effects of changes in the sagittal plane alignment of running-specific transtibial prostheses on ground reaction forces. J Phys Ther Sci. 27(5): In printing, 2015.

藤田芳正, 櫻庭景植, 窪田淳之, 藤田真平, 青木和浩, 福士徳文;  
 高校男子サッカー選手における足趾把持筋力とターン動作時の測定圧分布の関係.

Relationship between toe muscle strength and plantar pressure distribution during turn in male high school soccer players.  
 整スポ会誌, 35(1): 47-51, 2015.

遠藤慎也, 内山秀一, 櫻庭景植:  
 掌握運動後の温冷刺激が筋力の回復に及ぼす影響.  
 The effect of hot and ice water immersion of the forearm on the recovery of grip strength after gripping exercise.  
 日本臨床スポーツ医学会誌, 23(3); 460-466, 2015.

**【総説】**  
 櫻庭景植:  
 特集; 健康長寿の実現を目指した身体機能障害の予防・改善. 運動器障害の予防・改善.  
 体育の科学, 65(3): 177-182, 2015.

櫻庭景植：特別企画．現場で役立つ応急処置の基礎知識．  
Sports Japan, 19: 17-21, 2015.

若松健太（著），藤田真平，櫻庭景植他；一生自分の足で  
歩く！骨筋力ストレッチ．桜庭景植監修，英和出版社，  
2015

③

櫻庭景植；ロンドンオリンピック帯同報告およびコンディ  
ションチェック．

陸上競技研究紀要，10; 172-176, 2015.

鎌田浩史，山澤文裕，鳥居 俊，櫻庭景植，向井直樹，菅  
原 誠，前澤克彦，真鍋知宏，難波 聡，田口素子，松生  
果里；

陸上競技ジュニア選手のスポーツ外傷・障害調査．イン  
ターハイ出場選手調査報告第1報（2014版）．

日本陸上競技連盟発行，株イセブ印刷，2015

④

【国際発表】

Yoshio Suzuki, Asako Maruyama-Nagao, Keishoku Sakura-  
ba, Sachio Kawai;

Milk fortified with vitamin D could reduce the prevalence of  
vitamin D deficiency among Japanese female college students.  
12<sup>th</sup> Asian Congress of Nutrition, May 14-18, Yokohama,  
2015

Endo S. Kubota A. Sakuraba K.:

THE EFFECT OF COOLING ON MUSCLE WEAKNESS  
AND MUSCLE ATROPHY CAUSED BY DETRAINING.  
ECSS (European college of Sports Science), 2015/6/24-27,  
Stckholm, Sweden, 2015.

Wakamatsu, K, Sakuraba K, Fujita S, Sanomura M, Mukai-  
moto T, Kubota A.;

Effect of Performance Characteristics on Bone Metabolism in  
Female Collegiate Athletes.

ACSM, 2015/5/26-30, SanDiego, USA, 2015.

Nakaniida, Atsuko, Jiro Shikakura, Atsushi Kubota, Keishoku  
Sakuraba

PHYSICAL ACTIVITIES FOR ELDER; NEW AP-  
PROACH FOR DAY CARE IN JAPAN.

ACSM, 2015/5/26-30, SanDiego, USA, 2015.

Endo, Shinya, Sakuraba Keishoku, Kubota Atsushi,  
Shikakura Jiro;

The effect of cooling on muscle weakness and muscle atrophy  
caused by detraining.

2<sup>nd</sup> International Academy of Sportology, Tokyo 2015/9/12  
Abstract, p58

Ryo Konno, Haruka Kadoya, Keishoku Sakuraba, Takehisa  
Matsukawa, Kazuhito Yokoyama;

Factors Influencing on the Parental Support of Children's  
Physical Activity

2<sup>nd</sup> International Academy of Sportology, Tokyo 2015/9/12  
Abstract, p35

【国内発表】

山形哲行，櫻庭景植，森寿 仁，山本正嘉，高山史徳；  
Trans Japan Alps Race 2014における尿ケトン体の検出率  
および食事摂取状況との関係．第35回日本登山医学学会，  
5月23日・24日，サンポートホール高松，2015.

富永修一，櫻庭景植；

走行用下腿義足の矢状面アライメントが加速期の地面反力  
および走行フォームに及ぼす影響．第22回日本義肢装具士  
協会学術大会．2015.6. 東京

丸山麻子，櫻庭景植，鈴木良雄，中嶽 誠；

大学男子バスケットボール選手における栄養状態と骨量お  
よび骨代謝関連マーカーとの関係．

骨粗鬆症学会，広島，2015/9/17

櫻庭景植（シンポジウム）；スポーツ整形におけるチーム  
医療；陸上（長距離・中距離・短距離）；トップアスリー  
トに対する医科学サポート．

第41回日本整形外科スポーツ医学会，京都，2015/9/11.

整スポ会誌，35(4); 472, 2015.

窪田敦之，櫻庭景植，遠藤慎也，洪 定男，梶原 一；  
血流制限下で行う他動的運動のトレーニング効果．

第41回日本整形外科スポーツ医学会，京都，2015/9/11.

整スポ会誌，35(4); 256, 2015.

杉浦雄策，佐久間和彦，櫻庭景植，佐藤 和；

短距離走のハムストリング肉ばなれ発生要因の検討  
～異なるスプリントトレーニングにおける予防プログラムの  
違いから～

第41回日本整形外科学スポーツ医学会, 京都, 2015/9/11.  
整スポ会誌, 35(4); 472, 2015.

桜庭景植 (シンポジウム), 藤田真平, 窪田淳之, 鯉川な  
つえ, 和気秀文, 鈴木良雄, 山澤文裕;

女性トップアスリートに対する医科学サポート  
～疲労骨折を中心に～

第69回日本体力医学会大会, 和歌山, シンポジウム, 2015  
/9/18.

藤田真平, 桜庭景植, 山澤文裕, 窪田淳之;

女子長距離選手における疲労骨折の発症が尿中 I 型コラー  
ゲン架橋 N テロペプチド (u-NTX) に及ぼす影響

第69回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015/9/19.

Atsuko Nakaniida, Jiro Shikakura, Atsushi Kubota, Junzo  
Tsujita, Keishoku Sakuraba:

Physical activities for elders; Its effect at day service in japan.  
第69回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015/9/19.

岸本康平, 桜庭景植, 窪田敦之, 藤田真平:

求心性収縮運動及び遠心性収縮運動による筋硬度変化の相  
違

第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 日本臨床スポーツ  
医学会誌, 23(4); s165, 2015/11/7-8.

大沢亜紀, 中尾聡子, 窪 麻由美, 藤田真平, 鯉川なつ  
え, 桜庭景植:

競技別 Female Athlete Triad の実態について.

第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 日本臨床スポーツ  
医学会誌, 23(4); s187, 2015/11/7-8.

鎌田浩史, 山澤文裕, 鳥居 俊, 桜庭景植, 向井直樹, 菅  
原 誠, 前澤克彦, 真鍋智宏, 難波 聡, 田口素子, 松生  
香里:

陸上競技ジュニア選手のスポーツ外傷・障害調査—第2報  
—

第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 日本臨床スポーツ  
医学会誌, 23(4); s278, 2015/11/7-8.

村上幸土, 桜庭景植:

超音波診断装置 Real-time Tissue Elastography を用いた腰  
部・腹部筋群の筋硬度測定

第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 日本臨床スポーツ  
医学会誌, 23(4); s259, 2015/11/7-8.

鈴木 恒, 桜庭景植, 梶原 一, 鹿倉二郎, 窪田敦之:

成長期サッカー選手におけるストレッチング実施タイミン  
グと大腿前面の柔軟性改善効果

第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 日本臨床スポーツ  
医学会誌, 23(4); s219, 2015/11/7-8.

遠藤慎也, 桜庭景植, 窪田敦之, 鹿倉二郎, 鈴木良雄:

血流制限が脱トレーニングによって生じる筋力低下および  
筋萎縮に及ぼす影響

第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 日本臨床スポーツ  
医学会誌, 23(4); s220, 2015/11/7-8.

藤田真平, 桜庭景植, 大沢亜紀, 中尾聡子, 平尾朋美, 鯉  
川なつえ;

競技の異なる大学女性アスリートの骨密度と骨代謝動態の  
調査.

第26回日本臨床スポーツ医学会, 神戸, 日本臨床スポーツ  
医学会誌, 23(4); s270, 2015/11/7-8.

今野 亮, 桜庭景植; 保護者の身体活動サポートと子ども  
の運動習慣との関連

—小学生から高校生を対象にして—

第26回日本コーチング学会, 3月7, 8日, 2015

藤田真平, 桜庭景植, 若松健太, 窪田敦之, 山澤文裕;

女子長距離選手の疲労骨折の発生要因に関する研究～骨代  
謝動態, 身体組成, 月経状況に着目して～.

第29回女性スポーツ医学研究会, 2015.12. 東京

## ⑥

### 【査読】

JOSKAS (Journal Orthopaedic Society of Knee and Ar  
throscopy and Sports Medicine)

Journal of Physical Therapy Science

日本臨床スポーツ医学会

日本整形外科学スポーツ医学会

### 【講演】

桜庭景植; スポーツ現場での救急処置～外科系～, 日本体

育協会公認スポーツドクター講習会, 東京, 1月11日, 2015

桜庭景植; スポーツ外傷・障害の基礎知識; 下肢・下腿, 日本体育協会公認アスレチックトレーナー養成講習会 1月26日 東京, 2015

桜庭景植; スポーツ外傷・障害の最新情報—下腿・足関節, 日本体育協会公認スポーツドクター講習会, 東京, 2月15日, 2015

桜庭景植; テーピング・ブレース, 日本体育協会公認スポーツドクター講習会, 東京, 2月15日, 2015

桜庭景植; マラソン・長距離ランナーと疲労骨折: 骨代謝マーカーの変動を含めて.  
滋賀県スポーツ医学会学術講演会, 大津, 2015.2.28.

桜庭景植; 疲労骨折～早期発見・骨代謝マーカーを中心に～  
第268回浦安市医師会学術講演会, 浦安, 千葉, 2015/6/15

桜庭景植; スポーツ指導者に必要な医学的知識 (外科); アスリートの外傷・障害と対策.  
日本体育協会スポーツ指導者講習会, 東京, 2015/8/24.

桜庭景植; 職域・地域や自宅にて行える筋肉トレーニング・ストレッチング, ロコモ体操について.  
東京都医師会スポーツ医学研修会, 東京, 2015/9/12.

桜庭景植; スポーツ指導者に必要な医学的知識; スポーツ外傷・障害 (外科系).  
日本体育協会公認スポーツ指導者講習会, 東京, 2015/9/28

桜庭景植; トップアスリートのランニング障害, 疲労骨折; ロンドンオリンピックを中心に  
江戸川区医師会・江戸川区ウォーキング協会主催, 2015/10/23.

桜庭景植; スポーツ現場での救急処置; 整形外科系  
日本医師会「健康スポーツ医研修会」, 東京, 11月15日, 2015

桜庭景植; 女性アスリートのスポーツ障害; 疲労骨折を中心に.

第45回 慶應スポーツ医・科学研究会, 東京 (慶應) 2015/12/1

桜庭景植; ランニング障害 ～疲労骨折の早期発見・骨代謝マーカーを中心に～  
第48回香川県スポーツ医科学フォーラム, 香川, 2015/12/4.

桜庭景植; 文京ジュニア・アスリート・アカデミー公開講座  
スポーツ傷害; 代表的なスポーツのケガ, オリリンピックと箱根駅伝など  
文京区, シビックセンタースカイホール, 2015/12/20

【そのほか】

取材; 女性セブン 3月号「ストレッチしている人は肩がこらない」, 小学館, 2015

取材; 「女性スポーツ」オムロン

Number Do v23, p67-70, 2015, スキーエスト 監修

窪田敦之, 桜庭景植. 正しいストレッチング実施のポイント. 保健ニュース. 78: 8-9, 2015

ヨネックススポーツ振興財団評議員 (2001年より現在に至る)  
東レパンパシフィック国際テニス大会ドクター (2005-2013)

【研究助成金】

科研費; 代表 桜庭景植 ほか;  
基盤研究 C 課題番号 25350899  
血流制限による骨格筋萎縮の抑制効果とそれに関連する遺伝子の解明.  
27年度156万

科研費; 共同; 代表 中新井田敦子;  
基盤研究 C 課題番号 25350900  
デイサービスでできる運動プログラム; 虚弱高齢者のQOLを改善.  
27年度65万

鈴木良雄, 桜庭景植ら; ビタミンD強化牛乳がVD栄養状態に与える効果の検討, 研究委託金; 150万円, 牛乳乳製品健康科学学術研究助成

文科省科学研究費; 共同研究; 寛 佐織, 桜庭景植, 田村好史;

不活動による筋インスリン抵抗性惹起の分子メカニズムの解明と予防法の開発

科研費 寛 (4,996,000円; 2,196,000, 1,400,000, 1,400,000円) (24, 25, 26年度)

文科省科学研究費; 共同研究; 丸山麻子, 桜庭景植;

季節変化に伴う血中ビタミンDと骨強度および体力との関連

科研費 H24; 250万, H25; 60万, H26; 40万 の計350万

スポーツ健康科学部学内共同研究. 研究種目 (B). 野球競技者の肩関節および肘関節周囲の筋や腱の形態および硬度に関する調査. 1年. 370000円

学内共同研究費. 研究種目 (C) 代表 遠藤慎也

脱トレーニング中に行う血流制限が筋力および筋断面積に及ぼす影響.

(平成27年度; 203,000円)

受託研究; ヨネックス新製品・新素材開発に関する基礎研究.

桜庭景植; ヨネックス株式会社, 300万円

受託研究; 日本コア株式会社; 骨盤底筋力訓練の開発.

桜庭景植; 日本コア株式会社, 100万円

一般財団法人日本リハビリテーション振興会研究助成金. 共同研究.

山岳におけるスポーツ活動時の生体の変化および安全性に関する検討.

1年500,000円

## 鹿倉 二郎

④

—Atsuko Nakaniida, Jiro Shikakura, Atsushi Kubota, Keishoku Sakuraba: Physical Activities for Elders; New Ap-

proach for Day Care in Japan. ACSM Annual Meeting, 2015.5, San Diego, USA

—Hideyuki “E” Izumi, Jiro Shikakura, Masaaki Tsuruike, Yoshio Nakamura: A comparison of practices by athletic training/therapy professionals between MRA countries and Japan. 6th Northeast Asia Conference of Kinesiology, 2015.7, Chiba, Japan

—渡邊裕之, 鹿倉二郎, 久保田光昭, 鳥居 俊: ビデオ分析を用いた大学アメリカンフットボール選手における脳震盪の受傷機転の特徴. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2015.11 神戸

—鈴木 恒, 桜庭景植, 梶原 一, 鹿倉二郎, 窪田敦之: 成長期サッカー選手におけるストレッチング実施タイミングと大腿前面の柔軟性改善効果. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2015.11 神戸

—遠藤慎也, 桜庭景植, 窪田敦之, 鹿倉二郎, 鈴木良雄: 血流制限が脱トレーニングによって生じる筋力低下および筋萎縮に及ぼす影響. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2015.11 神戸

⑥

—公益財団法人 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会 (第4期) 講師.

—第5回チームドクター&トレーナーミーティング: 「我が国におけるトレーナー制度の現状」について講演.

## 内藤 久士

①

1. 内藤久士, 健康長寿のためのスポーツロジック, 田城孝雄, 内藤久士編, 骨格筋と運動ほか, NHK出版 pp. 180-196, pp. 243-258, (田城孝雄他9名と分担執筆), 2015.

2. 内藤久士, ジュニアアスリートのためのスポーツ医科学・トレーニングサポート, 金岡恒治, 赤坂清和編, ジュニアスポーツの現状と課題, メジカルビュー社, (印刷中), (金岡恒治他25名と分担執筆), 2015

②

1. Sakamoto A, Naito H, Chow CM. Hyperventilation-induced respiratory alkalosis falls short of countering fatigue during repeated maximal isokinetic contractions. *Eur J of Appl Physiol*. 115: 7, 1453–1465, 2015年2月.
2. Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Kakigi R, Tsuzuki T, Sugiura T, Powers SK, Naito H. Repeated exposure to heat stress results in a diaphragm phenotype that resists ventilator-induced diaphragm dysfunction. *J Appl Physiol* (1985). 119(9): 1023–31, 2015.
3. Yoshihara T, Sugiura T, Yamamoto Y, Shibaguchi T, Kakigi R, Naito H. The response of apoptotic and proteolytic systems to repeated heat stress in atrophied rat skeletal muscle. *Physiol Rep*. 3(10), e12597, 2015.
4. Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Sugiura T, Naito H. Immobilization induces nuclear accumulation of HDAC4 in rat skeletal muscle. *J Physiol Sci*. 2016 [Epub ahead of print]
5. Shibaguchi T, Sugiura T, Fujitsu T, Nomura T, Yoshihara T, Naito H, Yoshioka T, Ogura A, Ohira Y. Effects of icing or heat stress on the induction of fibrosis and/or regeneration of injured rat soleus muscle. *J Physiol Sci*. 2016 [Epub ahead of print]
6. Kitada T, Machida S, Naito H. Influence of muscle fibre composition on muscle oxygenation during maximal running. *BMJ Open Sport Exerc Med* 2015;1:e000062.
7. Ozaki H, Abe T, Machida S, Naito H. Progressive training model for muscle hypertrophy and strength gain. *Advances in Exercise and Sports Physiology* (in press)
8. Ozaki H, Abe T, Mikesky AE, Sakamoto A, Machida S, Naito H. Physiological stimuli necessary for muscle hypertrophy. *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*. 4(1): 43–51, 2015
9. Ishihara Y, Naito H, Ozaki H, Yoshimura M. Aerobic Fitness Relation to Match Performance of Japanese Soccer Referees. *Football Science*. 12: 91–97, 2015.
10. Natsume T, Ozaki H, Saito AI, Abe T, Naito H. Effects of Electrostimulation with Blood Flow Restriction on Muscle Size and Strength. *Medicine and Science in Sports and Exercise*. 47(12): 2621–2627, 2015
11. Fuku N, He ZH, Sanchis-Gomar F, Pareja-Galeano H, Tian Y, Arai Y, Abe Y, Murakami H, Miyachi M, Zempo H, Naito H, Yvert T, Verde Z, Venturini L, Fiuza-Luces C, Santos-Lozano A, Rodriguez-Romo G, Ricevuti G, Hirose N, Emanuele E, Garatachea N, Lucia A. Exceptional longevity and muscle and fitness related genotypes: a functional in vitro analysis and case-control association replication study with SNPs THRH rs7832552, IL6 rs1800795, and ACSL1 rs6552828. *Front Aging Neurosci*. 7: 59, 2015
12. Fuku N, He ZH, Sanchis-Gomar F, Pareja-Galeano H, Tian Y, Arai Y, Abe Y, Murakami H, Miyachi M, Zempo H, Naito H, Yvert T, Verde Z, Venturini L, Fiuza-Luces C, Santos-Lozano A, Rodriguez-Romo G, Ricevuti G, Hirose N, Emanuele E, Garatachea N, Lucia A. Exceptional longevity and muscle and fitness related genotypes: a functional in vitro analysis and case-control association replication study with SNPs THRH rs7832552, IL6 rs1800795, and ACSL1 rs6552828. *Front Aging Neurosci*. 4(7): 59, 2015.
13. Kikuchi N, Miyamoto-Mikami E, Murakami H, Nakamura T, Min SK, Mizuno M, Naito H, Miyachi M, Nakazato K, Fuku N. ACTN3 R577X genotype and athletic performance in a large cohort of Japanese athletes. *Eur J Sport Sci*, 2015. [Epub ahead of print]
14. 鈴木悠太, 橋詰みどり, 石原美彦, 辻川比呂斗, 内藤久士, 杉山康司. アルペンスキー技能の違いがGPS測位軌跡と心拍数応答に及ぼす影響. *スキー研究* Vol. 12(1): 25–33, 2015.
15. 都築孝允, 篠崎昇平, 金木正夫, 内藤久士. 運動によるインスリン抵抗性の改善に関与する新たな分子メカニズム. *基礎老化研究* 37(3): 39–42. 2015.

③

1. 内藤久士, 子どもの健康・体力とスポーツ, 保健の科

- 学 57(1): 39-43, 2015.
2. 中瀧 崇, 町田修一, 内藤久土, 石島旨章, 金子和夫, LocoCure2015, 特集「ロコモティブシンドロームとは?」ロコモーショントレーニング (LocoCure vol. 1 P42-47, 5月) 2015.
  3. 平成26年度 体力・運動能力調査報告書 (内藤久土, 廣津信義, 関根紀子他). スポーツ庁 2015.
  4. 平成27年度 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査結果報告書 (平成26年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査検討委員会 浅見俊雄, 内藤久土他). スポーツ庁 2015.
- ④  
(海外)
1. Tsuzuki T, Nakamoto H, Kobayashi H, Goto S, Ichinoseki-Sekine N, Naito H. Elevated oxidative stress in type 2 diabetic OLETF rat liver. *Experimental Biology* 2015, Boston, MA. 2015年3月.
  2. Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Takamine Y, Sugiura T, Naito H. Immobilization-induced rat skeletal muscle atrophy enhances histone modification through HDAC4. *Experimental Biology* 2015, Boston, MA. 2015年3月.
  3. Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Tsuzuki T, Machida S, Naito H. Effect of long-term voluntary running on bone tissue in mice. *Experimental Biology* 2015, Boston, MA. 2015年3月.
  4. Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Yoshihara T, Takamine Y, Kobayashi H, Naito H. Effects of long-term voluntary exercise on the respiratory muscles in young type 2 diabetic rats. *Experimental Biology* 2015, Boston, MA. 2015年3月.
  5. Ozaki H, Natsume T, Abe T, Machida S, Naito H. Effect of neuromuscular electrical stimulation with blood flow restriction on muscle size and strength. The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, 2015年5月
  6. Kawanishi N, Naito H, Shuichi Machida S. Role Of Toll-like Receptor 4 In Cast Immobilization-induced Muscle Atrophy. The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, 2015年5月
  7. Kitada T, Kawai S, Nakamura A, Sakuma K, Machida S, Naito H. Lower Limb and Respiratory Muscle Oxygenation During 800-m Running. The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, 2015年5月
  8. Pengyu D, Naito H. Longitudinal change in physical activity of children in Hunan, China. The 20th Annual Congress of European College of Sports Science, Malmo, Sweden, 2015年6月
  9. Ishihara Y, Naito H, Sakamoto A, Ozaki H, Yoshimura M. Relationship between aerobic fitness and match activity profiles of Japanese young soccer referees. The 20th Annual Congress of European College of Sports Science, Malmo, Sweden, 2015年6月
  10. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  11. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H. The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  12. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Effect of exercise intervention on locomotive syndrome in Japanese elderly. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  13. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people.

- The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
14. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elderly people. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
15. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
16. Pengyu D, Ishihara Y, Naito H. Physical activity of children and adolescents in medium city in China. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
17. Shouwen Z, Naito H. Changes in the physical fitness of Taiwanese school children in Japan: A cross-sectional study. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
18. Kakigi R, Watanabe M, Naito H, Iesaki T, Okada T. A bout of acute exercise attenuates cardiac dysfunction after ischemia/reperfusion in isolated rat heart. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
19. Suzuki K, Naito H, Govindasamy BALASEKARAN, Jong Kook SONG, Yiing Mei LIOU, Dajiang LU, Bee Koon POH, Kallaya KIJBOONCHOO, Stanley Sai-chuen HUI. Japanese adolescents are the most physically fit and active in East and Southeast Asia. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
20. Naito H, Fuku N, Zenpo H, Miyamoto-Mikami E, Kikuchi N, Murakami H, Miyachi M. Polymorphism in the CNTF receptor gene is associated with elite Japanese endurance athlete status: a case-control study. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
21. Tsuzuki T, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Takamine Y, Kakigi R, Kobayashi H, Naito H. Effects of exercise before development of type 2 diabetes on glucose and lipid metabolism remain partly following exercise cessation in OLETF rats. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
22. Sakamoto A, Naito H, Chow CM. Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions able to be performed during resistance training. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
23. Takamine Y, Yoshihara T, Ichinoseki-Sekine N, Naito H. Effects of treadmill running on bone density and strength in young mice. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
24. Ozaki H, Kitada T, Machida S, Naito H, Katamoto S. Cycling inhibits age-related decreases in muscle thickness of the lower extremities and maximum oxygen uptake. 2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, 2015年10月
25. Suzuki K, Naito H, Stanley Sai-chuen Hui, FACSM3, Govindasamy Balasekaran, FACSM4, Jong Kook Song5, Yiing Mei Liou6, Dajiang Lu7, Bee Koon Poh8, Kallaya Kijboonchoo9. School Sports Club Promotion Reduces Physically Unfit and Inactive Adolescents: The Asia-fit Study. 2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, 2015年10月
26. Sakamoto A, Naito H, Chow CM. Hyperventilation-induced respiratory alkalosis increases the number of repetitions to be able to perform during resistance training. 2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, 2015年10月
27. Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Effect of a combination of increased physical activity and walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test scores in older adults. The 20<sup>th</sup> Shizuoka Forum on Health



- and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015年10月 (Poster Presentation Award)
28. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Ishihara Y, Yoshihara T, Natsume T, Machida S, Naito H. Effects of 6-month exercise intervention program on locomotive syndrome risk test scores in Japanese elderly. The 20<sup>th</sup> Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015年10月 (Poster Presentation Award)
29. Ozaki H, Ozaki M, Machida S, Naito H. The changes of muscle and subcutaneous fat thicknesses in an infant for a year after birth. International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles, Chiba, Japan, 2015年11月
30. 張 碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 不同時間点実施運動對於肌肉萎縮後恢復期的自體吞噬 (Autophagy) 的影響. 2015年體育運動學術團體聯合年會暨學術研討會, 台湾, 2015年12月.
- (国内)
1. 内藤久士. 特別講演「温熱負荷と骨格筋」. 第80回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会. 長野県, 2015年6月
2. 中瀧 崇, 町田修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久士. 日本人勤労者を対象としたロコモティブシンドロームの実態調査. 第22回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015年3月 (優秀賞受賞)
3. 吉原利典, 柿木 亮, 関根紀子, 都築孝允, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 発育期の運動がラット骨格筋のHDAC発現量に及ぼす影響. 第22回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015年3月 (奨励賞受賞)
4. 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 町田修一, 内藤久士. 月経周期に伴う卵巣ホルモンの変動が筋厚および筋力に与える影響. 第22回日本健康体力栄養学会大会, 千葉, 2015年3月
5. 石原美彦, 内藤久士, 井口祐貴, 島寄 佑, 吉村雅文. GPSを用いたサッカー教室中の身体活動量の測定に関する研究. 第13回日本発育発達学会大会, 東京都, 2015年3月
6. 鄧 鵬宇, 柳谷登志雄, 内藤久士. 日本と中国の中規都市における児童の身体活動に関する研究. 第13回日本発育発達学会大会, 東京都, 2015年3月
7. 尾崎隼朗, 棗 寿喜, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. サイクリング運動の強度の違いが細胞内シグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
8. 柿木 亮, 吉原利典, 尾崎隼朗, 関根紀子, 内藤久士. 筋収縮様式がヒト骨格筋のタンパク質合成関連シグナル伝達に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
9. 張 碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 概日リズムによるラット骨格筋における細胞内シグナル伝達の変化. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
10. 野崎理沙, 川西範明, 吉原利典, 内藤久士, 町田修一. 繰り返し温熱負荷による骨格筋萎縮抑制効果には筋線維特異性が認められる. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
11. 吉原利典, 柿木 亮, 関根紀子, 高嶺由梨, 棗 寿喜, 張 碩文, 杉浦崇夫, 町田修一, 内藤久士. 若年期の運動経験はマウス腓腹筋におけるアセチル化ヒストンH3発現を亢進させる. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
12. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木 亮, 町田修一, 内藤久士. ヒト骨格筋に対する筋電気刺激が筋肥大に関わる細胞内シグナル伝達経路に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
13. 亀岡 舞, 尾崎隼朗, 内藤久士, 町田修一. 月経周期の違いがレジスタンス運動後のコルチゾール分泌応答に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
14. 古市真也, 北田友治, 町田修一, 内藤久士. 酸素摂取動態がスプリントエコノミーに及ぼす影響—第70回日

本体力医学会, 和歌山, 2015年9月

15. 野崎理沙, 高木香奈, 内藤久土, 町田修一. 生薬の黄耆が廃用性筋萎縮に及ぼす影響—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
16. 川西範明, 野崎理沙, 内藤久土, 町田修一. ギプス固定誘導性の筋萎縮におけるTLR4の役割—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
17. 中瀧 崇, 町田修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久土. 日本人勤労者のロコモ予備軍の実態調査—新基準に基づいて—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
18. 北田友治, 町田修一, 内藤久土. 筋線維組成が最大走運動中の筋酸化に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会. 和歌山. 2015年9月.
19. 鄧 鵬宇, 石原美彦, 柳谷登志雄, 内藤久土. 日本と中国の中規模都市における児童の身体活動実態に関する研究—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
20. 石原美彦, 鄧 鵬宇, 井口祐貴, 島 寄佑, 吉村雅文, 内藤久土. 運動教室に参加する児童の身体活動量—第70回日本体力医学会大会. 和歌山. 2015年9月
21. 坂本彰宏, 内藤久土. ハイパーベンチレーションはレジスタンス運動の最大レップ数増加に有効—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
22. 石田真大, 内藤 守, 内藤久土, 杉山康司. アンチクッション付きポールがノルディックウォーキング時の運動強度に与える影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
23. 亀岡 舞, 尾崎隼朗, 内藤久土, 町田修一. 月経周期および卵巣ホルモン濃度がレジスタンス運動後の骨格筋タンパク質分解に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
24. 尾崎隼朗, 棗 喜寿, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土. サイクリング運動の強度の違いがレジスタンス運動後のシグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響—第70回日

本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月

25. 都築孝允, 吉原利典, 関根紀子, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土. 運動時の体温上昇の有無が2型糖尿病ラットの骨格筋における糖代謝シグナル伝達系に与える影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
26. 張 碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久土. 筋萎縮からの回復期における運動実施のタイミングの違いが細胞内シグナル伝達に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
27. 大野佳南子, 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 今井由佳, 内藤久土, 町田修一. 月経周期の違いが膝伸展運動時の仕事量と筋持久力に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
28. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土. 筋電気刺激がヒト骨格筋におけるオートファジーに及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
29. 吉原利典, 柿木 亮, 都築孝允, 張 碩文, 棗 寿喜, 杉浦崇夫, 内藤久土. 若年期の運動習慣がラットヒラメ筋におけるヒストン修飾に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
30. 中村智洋, 柿木 亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久土. 男性短距離走者の骨格筋におけるACTN3 タンパク質発現量—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
31. 高嶺由梨, 吉原利典, 都築孝允, 関根紀子, 内藤久土. 強制運動または高脂肪食摂取が成長期マウスの発育状態に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
32. 柿木 亮, 吉原利典, 棗 寿喜, 関根紀子, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久土. タンパク質摂取がヒト骨格筋mTOR シグナル伝達に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
33. 杉山康司, 白井友加里, 祝原 豊, 朝倉 徹, 富田

- 寿人, 辻川比呂斗, 内藤久土. スポーツ活動種目別にみた小, 中学生の体力水準の現状と課題—第70回日本体力医学会大会. 和歌山. 2015年9月
34. 芝口 翼, 杉浦崇夫, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 大平充宣, 吉岡利忠. 筋損傷後の異なる温度刺激の組み合わせが再生過程における筋衛星細胞の動態に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会. 和歌山. 2015年9月
35. 杉浦崇夫, 芝口 翼, 吉原利典, 内藤久土, 後藤勝正, 吉岡利忠. 筋損傷後のアイシングと温熱刺激の組み合わせが回復過程におけるミオシン重鎖分子種に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会. 和歌山. 2015年9月
36. 宇田宗弘, 川崎広明, 飯泉恭一, 重永綾子, 馬場猛, 内藤久土, 吉岡利忠, 山倉文幸. 骨格筋で新たに見出された分子量の異なる $\alpha$ -アクチンの細胞内局在の検討—第70回日本体力医学会大会. 和歌山. 2015年9月
37. 駒野悠太, 三浦 裕, 藤原大介, 内藤久土, 中潟崇, 島田和典, 代田浩之. ウイルス感染防御機能を制御するプラズマサイトイド樹状細胞に及ぼす運動の影響. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015年11月
38. 膳法浩史, 福 典之, 西田裕一郎, 桧垣靖樹, 内藤久土, 原めぐみ, 田中恵太郎. ミトコンドリア由来ペプチド MOTS-c アミノ酸置換 (K14Q) を生じさせる m.1382A>C 多型と2型糖尿病との関連. 第15回日本ミトコンドリア学会年会, 福井, 2015年11月19日
39. 尾崎隼朗, 北田友治, 棗 寿喜, 安部 孝, 内藤久土, 形本静夫. サイクリング運動は加齢による筋サイズと最大酸素摂取量の低下を抑制する. 第28回日本トレーニング科学大会, 鹿児島, 2015年11月
40. 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 大野佳南子, 今井由佳, 町田修一, 内藤久土. 若年女性におけるスクワットジャンプ中の動作スピード及びジャンプ高に月経周期のフェーズの違いが与える影響. NSCA ジャパンカンファレンス 2015, 東京, 2015年12月
- ⑤
1. 内藤久土, 子どもの健康習慣 2: 子どもの成長による運動, けんぼだより夏, 2015.
- ⑥  
(査読学術雑誌等)  
Behavioural Brain Research  
Diabetology & Metabolic Syndrome  
European Journal of Applied Physiology  
International Journal of Sports Medicine  
Journal of Physiological Sciences  
Journal of Physical Fitness and Sports Medicine  
Journal of Sports Science and Medicine  
Journal of Zhejiang University-Science B  
体力科学  
発育発達研究  
日本健康体力栄養学雑誌
- 先任准教授**  
**鈴木 良雄**
- ①
1. 鈴木良雄. 第1章 (1.1 スポーツ運動とは, 1.3 健康づくりのための運動, 1.4 健康づくりのための身体活動指針, 1.5 年齢, 運動の種類, 強度), 第3章 (3.1 運動, 食事と栄養素). 分担執筆; スポーツ・運動栄養学 第3版 (栄養科学シリーズ NEXT シリーズ). 加藤秀夫, 中坊幸弘, 中村亜紀編集. 講談社サイエンティフィック (東京) 2015
- ②
1. Nagpal R, Ogata K, Tsuji H, Matsuda K, Takahashi T, Nomoto K, Suzuki Y, Kawashima K, Nagata S, Yamashiro Y. Sensitive quantification of Clostridium perfringens in human feces by quantitative real-time PCR targeting alpha-toxin and enterotoxin genes. BMC Microbiol. 2015 15: 219.
2. Suzuki Y, Shimizu T, Ota M, Hirata R, Sato K, Tamura Y, Imanishi A, Watanabe M, Sakuraba K. Different training status could alter the continuous blood glucose kinetics in self-paced endurance running. Exp Ther Med 10(3): 978–982, 2015 DOI: 10.3892/etm.2015.2587
3. Yaginuma S, Sakuraba K, Kadoya H, Koibuchi E, Mat-

sukawa T, Ito H, Yokoyama K, Suzuki Y. Early bedtime associated with the salutary breakfast intake in Japanese nursery school children. *Int Med J.* 22(1): 30-32, 2015

4. 河村剛光, 村上茂樹, 越川一紀, 青木和浩, 鈴木良雄, 鯉川なつえ, 岡部正明, 田中明雄, 澤木啓祐. DHAの摂取が大学スポーツ選手の視覚機能に及ぼす影響. *日本臨床スポーツ医学会誌* 23(3): 519-527, 2015

## ④

1. 佐々木和登, 砂見綾香, 鈴木良雄, 吉崎貴大, 横山友里, 中井あゆみ, 安田 純, 日田安寿美, 多田由紀, 川野 因, 順天堂大学運動部栄養調査 (JNAS) グループ. 運動部に所属する男子大学生の栄養素摂取状況に関する研究. *日本栄養改善学会 関東・甲信越支部 第2回学術総会*. 2015年2月28日. 東京: (株)国立健康・栄養研究所
2. Suzuki Y, Maruyama-Nagao A, Sakuraba K, Kawai S. Milk fortified with vitamin D could reduce the prevalence of vitamin D deficiency among Japanese female college students. *Asian Congress of Nutrition 2015*. 2015年5月14日~17日. 横浜: パシフィック横浜
3. 宮内眞紀, 鈴木良雄. 標準 BMI で HbA1c 高値の若年女性の生活習慣病リスクに関する検討. *日本食生活学会 第50回大会*. 2015年5月30日. 東京: 東京農業大学世田谷キャンパス
4. 鈴木いづみ, 島村芳崇, 鈴木宏哉, 鈴木良雄. プロサッカー選手の体脂肪と試合中のスプリントパフォーマンスに関する研究. *日本スポーツ栄養学会 第2回大会*. 2015年7月3日(金)~5日(日). 滋賀県草津市; 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
5. 丸山麻子, 桜庭景植, 鈴木良雄, 中嶽 誠. 大学男子バスケットボール選手における栄養状態と骨量および骨代謝関連マーカーとの関係. *第17回日本骨粗鬆症学会*. 2015年9月17日(木)~19日(土). 広島; 広島国際会議場
6. 新生暁子, 鈴木良雄. バスケットボール選手のフリースロー実施前の心拍変動によりシュートの成功数が予測できるか?. *第70回 日本体力医学会大会*. 2015年9月18日~20日. 和歌山: 和歌山県民文化会館/ホテルアバ

ローム紀の国

7. 宮内眞紀, 鈴木良雄. 標準 BMI で HbA1c 高値の若年女性の生活習慣病リスクに関する検討. *第37回日本臨床栄養学会総会・第36回日本臨床栄養協会総会 第13回大連合大会*. 2015年10月2日(金)~4日(日). 東京: 都市センターホテル
8. 新生暁子, 鈴木良雄, 前田はるか. 心拍変動の周波数解析における FFT と MemCalc との比較. *第52回日本臨床生理学会総会*. 2015年10月31日(土)~11月1日(日). さいたま市; 大宮ソニックシティ
9. 遠藤慎也, 櫻庭景植, 窪田敦之, 鹿倉二郎, 鈴木良雄. 血流制限が脱トレーニングによって生じる筋力低下および筋委縮に及ぼす影響. *第26回 日本臨床スポーツ医学会学術集会*. 2015年11月7日(土)~8日(日). 神戸; 神戸国際会議場・神戸商工会議所
10. Suzuki Y, Sakuraba K, Kadoya H, Maruyama-Nagao A, Yaginuma S, Koibuchi E, Matsukawa T, Ito H, Yokoyama K. Physical activity and health in nursery and preliminary school children and their parents at City of Nagano. *International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles*. 2015年11月21日(土). 印西: 順天堂大学さくらキャンパス

## ⑥

[外部資金]

1. 「唾液アミラーゼのコピー数多型は児童の食事・栄養素摂取や健全な発育に影響を及ぼすか」, 科研費 基盤研究 (C), 代表者, 研究課題番号25350141. 2013年4月1日~2016年3月31日
2. 「食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化する次世代機能性食品開発へのグランドデザイン」, 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (次世代農林水産業創造技術), 分担者, 平成26年度~平成30年度
3. 「クリルオイルの膝関節痛改善効果に関する研究」, 三生医薬株式会社 委託研究, 分担者, 2015年4月1日~2016年3月31日
4. 「1073R-1 乳酸菌で発酵したヨーグルトの摂取による

ワクチン株特異的抗体価の増強に対する二重盲検比較試験」, 株式会社明治 委託研究, 分担者, 2015年4月1日～2016年3月31日

5. 「Effect of L-Carnitine containing combinations on muscle mass and function in elderly」, Lonza 委託研究, 代表者, 2015年12月～2017年12月

## 廣津 信義

②

Calculation of Probability of Winning and Number of Games Played for Various Tournament Formats of the World Baseball Classic. Hirotsu N, Osawa K and Miyaji C. *International Journal of Computer Science in Sport*, 14巻1号, 87-101 (2015). (査読有)

野球の試合に関する確率の Excel シートを用いた表計算の方法. 廣津信義, 大澤 清. 順天堂スポーツ健康科学研究, 6巻2号, 70-85 (2015). (査読有)

スペインにおける Fútbol 7 に関する戦術的分析: オフサイドラインの突破に着目して. 松本直也, 廣津信義, 吉村雅文. 桃山学院大学総合研究所紀要, 41巻1号, 297-310 (2015). (査読有)

③

平成26年度体力・運動能力調査報告書. 内藤久土, 廣津信義, 関根紀子 他. 文部科学省 (2015).

④

Measuring Efficiency of a Set of Players of a Soccer Team and Differentiating Players' Performances by their Reference Frequency. 廣津信義, 上田 徹. 2015年日本 OR 学会春季研究発表会 (東京). 平成27年3月26日. 2015年日本 OR 学会春季研究発表会アブストラクト集, 156-157 (2015).

Measuring Efficiency of a Set of Players of a Soccer Team and Differentiating Players' Performances by their Reference Frequency. Hirotsu N and Ueda T. 5th International Conference on Mathematics in Sport (Loughborough, UK). 平成27年6月30日. *Proceedings*, 66-71 (2015).

The Technique of Finding an Optimal Batting Order in Base-

ball with Base Running Results. Osawa K and Hirotsu N. *International Symposium on Scheduling 2015 (Kobe)*. 平成27年7月5日. *Proceedings*, 198-201 (2015).

A Method for Calculating Probability of Scores for Men's Team Competition in Artistic Gymnastics. Hirotsu N, Harada M and Kano M. 12th International Symposium on Operations Research and its Application (Luoyang, China). 平成27年8月22日. *Proceedings*, 66-69 (2015).

⑥

公開講座:  
野球の数学モデルを考えてみよう. 廣津信義. 順天堂大学スポーツ健康科学部公開講座2015. 平成27年11月1日.

論文査読:

*The International Journal of Management Science (Omega)*, 1件

*Journal of Quantitative Analysis in Sports*, 4件

順天堂スポーツ健康科学研究, 1件

順天堂国際教養学部紀要, 1件

## 町田 修一

②

1. Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Sugiura T, Naito H. Immobilization induces nuclear accumulation of HDAC4 in rat skeletal muscle. *J Physiol Sci*. 2016 [Epub ahead of print]

2. Itaka T, Agemizu K, Aruga S, Machida S. The G allele of the IGF2 ApaI polymorphism is associated with judo status. *J Strength Cond Res*. (in print)

3. Kitada T, Machida S, Naito H. Influence of muscle fibre composition on muscle oxygenation during maximal running. *BMJ Open Sport Exerc Med* 2015;1:e000062.

4. Ozaki H, Abe T, Machida S, Naito H. Progressive training model for muscle hypertrophy and strength gain. *Advances in Exercise and Sports Physiology* (in press)

5. 北岸孝之, 坂口博英, 與名本稔, 鳥居 俊, 町田修一. レジスタンストレーニング後の乳タンパク質摂取が

投擲選手の体組成に及ぼす影響. 日本健康体力栄養学会誌, 印刷中.

6. 町田修一, 船越智子. 骨格筋再生と老化制御: 筋サテライト細胞の役割. 基礎老化研究, 印刷中.
7. Ozaki H, Abe T, Mikesky AE, Sakamoto A, Machida S, Naito H. Physiological stimuli necessary for muscle hypertrophy. *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*. 4(1): 43-51, 2015

③

1. 吉原利典, 町田修一, 後藤佐多良, 柿木 亮. 筋の記憶を司るエピジェネティクス制御機構の探索—筋は若年期の運動習慣を記憶しているのか?—. 第30回若手研究者のための健康科学研究助成報告書. 公益財団法人 明治安田厚生事業団 (2015年4月)
2. 町田修一, 川西範明. サルコペニアの分子メカニズム. *神経内科*, 83(5): 355-360, 2015.
3. 中瀧 崇, 町田修一, 内藤久士, 石島旨章, 金子和夫. ロコモーショントレーニング. *Loco Cure* 1: 42-47, 2015.
4. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. The effect of the combination of in-creased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults. *Juntendo Medical Journal* (in press)
5. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H. The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults. *Juntendo Medical Journal* (in press)
6. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between physical activity and locomotive syndrome after a 3-month exercise intervention of walking and stair climbing in elderly Japanese individuals. *Juntendo Medical Journal* (in press)
7. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida

S, Naito H. Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people. *Juntendo Medical Journal* (in press)

8. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elderly people. *Juntendo Medical Journal* (in press)
9. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults. *Juntendo Medical Journal* (in press)
10. Itaka T, Agemizu K, Aruga S, Machida S. The combination of insulin-like growth factor 2, alpha-actinin-3, and angiotensin-converting enzyme gene polymorphisms in judo athletes: a pilot study. *Juntendo Med J*. (in print)

④

〈国際学会〉

1. Yoshihara T, Machida S, Kurosaka Y, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Tsuzuki T, Takamine Y, Sugiura T, Naito H. Immobilization-induced rat skeletal muscle atrophy enhances histone modification through HDAC4. *Experimental Biology 2015, Boston, USA*. 2015年3月.
2. Takamine Y, Ichinoseki-Sekine N, Yoshihara T, Tsuzuki T, Machida S, Naito H. Effect of long-term voluntary running on bone tissue in mice. *Experimental Biology 2015, Boston, USA*. 2015年3月.
3. Ozaki H, Natsume T, Abe T, Machida S, Naito H. Effect of neuromuscular electrical stimulation with blood flow restriction on muscle size and strength. *The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA*, 2015年5月
4. Kitada T, Kawai S, Nakamura A, Sakuma K, Machida S, Naito H. Lower Limb and Respiratory Muscle Oxygenation During 800-m Running. *The American College of Sports Medicine 62nd Annual Meeting, San Diego, USA*, 2015年5月

5. Itaka T, Agemizu K, Aruga S, Machida S. Association between the IGF2/ACE genotype combination and judo status. 20<sup>th</sup> annual Congress of the European College of Sports Science, Malmo, 2015年6月
6. Yao N, Itaka T, Nishimura K, Koakutsu A, Hasegawa N, Machida S, Kimura H. The relationship between exercise of intensity and blood lactate concentration in running fitness with contact and without contact. 20<sup>th</sup> annual Congress of the European College of Sports Science, Malmo, 2015年6月
7. Itaka T, Agemizu K, Aruga S, Machida S. Association between the combination of ACTN3, ACE, IGF2 gene polymorphisms and judo status. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, 2015年9月
8. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
9. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H. The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
10. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Effect of exercise intervention on locomotive syndrome in Japanese elderly. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
11. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
12. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elderly people. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
13. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
14. Kimura Y, Kohsaka M, Machida S, Yanagiya T. The relationship between toe grip strength and physical fitness in elementary school children, The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
15. Kawanishi N, Machida S. Role of pathogen sensor on inactivity-induced muscle atrophy, The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
16. Machida S. Aging skeletal muscle is associated with increased adipogenesis and impaired inflammation, The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
17. Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Effect of a combination of increased physical activity and walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test scores in older adults. The 20<sup>th</sup> Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015年10月 (Poster Presentation Award)
18. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Ishihara Y, Yoshihara T, Natsume T, Machida S, Naito H. Effects of 6-month exercise intervention program on locomotive syndrome risk test scores in Japanese elderly. The 20<sup>th</sup> Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015年10月. (Poster Presentation Award)
19. Ozaki H, Kitada T, Machida S, Naito H, Katamoto S. Cycling inhibits age-related decreases in muscle thickness of the lower extremities and maximum oxygen uptake. 2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, 2015年10月

20. Ozaki H, Ozaki M, Machida S, Naito H. The changes of muscle and subcutaneous fat thicknesses in an infant for a year after birth. International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles, Chiba, Japan, 2015年11月
21. Funakoshi T, Otsuka Y, Izomo T, Shibata H, Machida S. Quercetin inhibits the adipogenesis of muscle satellite cells. The 6th International Conference on Food Factors, Seoul, Republic of Korea, 2015年11月
22. 張 碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 不同時間点実施運動對於肌肉萎縮後恢復期的自體吞噬 (Autophagy) 的影響. 2015年體育運動學術團體聯合年會暨學術研討會, 台湾, 2015年12月→日本語訳 張碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 筋萎縮からの回復期における運動実施のタイミングの違いがオートファジー関連タンパク質に及ぼす影響. 2015体育運動學術団体連合年會・学会, 台湾, 2015年12月
- 〈国内学会〉
1. 中瀧 崇, 町田修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久士. 日本人勤労者を対象としたロコモティブシンドロームの実態調査. 第22回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015年3月 (優秀賞受賞)
2. 吉原利典, 柿木 亮, 関根紀子, 都築孝允, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 発育期の運動がラット骨格筋のHDAC 発現量に及ぼす影響. 第22回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015年3月 (奨励賞受賞)
3. 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 町田修一, 内藤久士. 月経周期に伴う卵巣ホルモンの変動が筋厚および筋力に与える影響. 第22回日本健康体力栄養学会大会, 千葉, 2015年3月
4. 尾崎隼朗, 棗 寿喜, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. サイクリング運動の強度の違いが細胞内シグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
5. 張 碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 概日リズムによるラット骨格筋における細胞内シグナル伝達の変化. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
6. 野崎理沙, 川西範明, 吉原利典, 内藤久士, 町田修一. 繰り返し温熱負荷による骨格筋萎縮抑制効果には筋線維特異性が認められる. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
7. 吉原利典, 柿木 亮, 関根紀子, 高嶺由梨, 棗 寿喜, 張 碩文, 杉浦崇夫, 町田修一, 内藤久士. 若年期の運動経験はマウス腓腹筋におけるアセチル化ヒストンH3 発現を亢進させる. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
8. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木 亮, 町田修一, 内藤久士. ヒト骨格筋に対する筋電気刺激が筋肥大に関わる細胞内シグナル伝達経路に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
9. 亀岡 舞, 尾崎隼朗, 内藤久士, 町田修一. 月経周期の違いがレジスタンス運動後のコルチゾール分泌応答に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
10. 上水研一朗, 位高駿夫, 有賀誠司, 町田修一. 柔道選手の筋力のトレーナビリティとACTN3 遺伝子多型の関連性について. 日本武道学会大会第48回大会, 東京, 2015年9月
11. 古市真也, 北田友治, 町田修一, 内藤久士. 酸素摂取動態がスプリントエコノミーに及ぼす影響—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
12. 野崎理沙, 高木香奈, 内藤久士, 町田修一. 生薬の黄耆が廃用性筋萎縮に及ぼす影響—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
13. 川西範明, 野崎理沙, 内藤久士, 町田修一. ギプス固定誘導性の筋萎縮におけるTLR4 の役割—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月
14. 中瀧 崇, 町田修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久士. 日本人勤労者のロコモ予備軍の実態調査—新基準に基づいて—第70回日本体力医学会, 和歌山, 2015年9月



15. 北田友治, 町田修一, 内藤久士. 筋線維組成が最大走運動中の筋酸化に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会. 和歌山. 2015年9月.
16. 亀岡 舞, 尾崎隼朗, 内藤久士, 町田修一. 月経周期および卵巣ホルモン濃度がレジスタンス運動後の骨格筋タンパク質分解に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
17. 尾崎隼朗, 棗 喜寿, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. サイクリング運動の強度の違いがレジスタンス運動後のシグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
18. 都築孝允, 吉原利典, 関根紀子, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. 運動時の体温上昇の有無が2型糖尿病ラットの骨格筋における糖代謝シグナル伝達系に与える影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
19. 張 碩文, 吉原利典, 高嶺由梨, 町田修一, 内藤久士. 筋萎縮からの回復期における運動実施のタイミングの違いが細胞内シグナル伝達に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
20. 大野佳南子, 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 今井由佳, 内藤久士, 町田修一. 月経周期の違いが膝伸展運動時の仕事量と筋持久力に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
21. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. 筋電気刺激がヒト骨格筋におけるオートファジーに及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
22. 柿木 亮, 吉原利典, 棗 寿喜, 関根紀子, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. タンパク質摂取がヒト骨格筋 mTOR シグナル伝達に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
23. 位高駿夫, 上水研一郎, 有賀誠司, 町田修一. 柔道競技力を規定する候補遺伝子の探索—CNTF, CNTFR, IL15Ra 遺伝子の検討—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
24. 小野寺由美子, 朽木 勤, 加藤由華, 北川瑛梨子, 町田修一. 仰臥位軽体操が不眠有訴者の感情・ストレス反応に及ぼす影響—第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
25. 位高駿夫, 井上康生, 宮崎誠司, 町田修一, 上水研一郎. 計量日と試合日の柔道選手の体水分均衡の特徴. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015年11月
26. 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 大野佳南子, 今井由佳, 町田修一, 内藤久士. 若年女性におけるスクワットジャンプ中の動作スピード及びジャンプ高に月経周期のフェーズの違いが与える影響. NSCA ジャパンカンファレンス 2015, 東京, 2015年12月
- ⑤
- 介護寝たきり（ロコモ）予防対策, 北総よみうり, 2015年4月24日
  - 高齢者のロコモ防止へ, 毎日新聞, 2015年11月26日
  - 健康寿命延ばす筋トレ, 毎日新聞, 2015年12月24日
  - ロコモやサルコペニア対策, 今日の健康, NHK 出版, 2015年12月4日
  - 月刊健康づくり誌, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 2015年3月号
  - 月刊健康づくり誌, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 2015年4月号
  - 月刊健康づくり誌, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 2015年5月号
  - 月刊健康づくり誌, 公益財団法人健康・体力づくり事業財団, 2015年6月号
- ⑥
- 講演
- 町田修一, サルコペニアのメカニズム解明とその対策—骨格筋幹細胞からのアプローチ—, 第38回日本基礎老化学会大会シンポジウム, 横浜, 2015年6月.
  - 町田修一, 培養細胞から見えてきた骨格筋の性差, 第70回日本体力医学会大会シンポジウム, 和歌山, 2015年9月.
  - 町田修一, 文京区健康教育推進事業健康教室講演（駒本小学校）平成27年1月
  - 町田修一, 成田市シニア健康カレッジ講演, 平成27年

4月

- 町田修一, 日本フィットネス協会主催高齢者運動指導のセミナー講演, 平成27年7月
- 町田修一, うらやす市民大学うらやす介護予防リーダー養成講座講演, 平成27年7月
- 町田修一, 四街道市保健推進員研修会講師, 平成27年11月
- 町田修一, 千葉県総合スポーツセンター健康づくり県民講座講師, 2015年11月

## ➤ 公開講座

- 平成27年度 順天堂大学市民公開講座: 介護寝たきり(ロコモ) 予防対策, 6回
- 平成27年度 順天堂大学市民公開講座: 筋力アップで生涯を幸福に, 2015年11月

## ➤ 社会連携

- 成田市シニア健康カレッジ企画・運営, 平成27年4月~12月
- 白井市高齢者福祉課主催バランスウォーキング教室介入前体力測定, 平成27年7月
- 白井市高齢者福祉課主催バランスウォーキング教室介入後体力測定, 平成27年12月
- 第10回酒々井町スポーツ・レクリエーション祭体力測定, 平成27年10月

## ➤ TV・雑誌などの解説・インタビュー

- NHK Eテレ「団塊スタイル」の取材協力と番組出演
- NHK ステラ, 暮らし&健康, 解説

## ➤ 学会誌等の査読経験(雑誌名記載のこと)

- European Journal of Sport Science
- PLOS ONE
- Geriatrics & Gerontology International
- The Journal of Physiological Sciences
- Juntendo Medical Journal
- 体力科学

## ➤ 外部資金(科研費除く)獲得

## 『民間研究助成』

- 筋力トレーニングによる筋肉増強効果を加速させるロイヤルゼリーの新たな効果の検証, 2014年度山田養蜂場みつばち研究助成基金(研究代表者: 内藤久士; 研究分担者: 町田修一)

## 『受託研究』

- 筋損傷モデルを用いた筋脂肪化抑制効果の検証(研究代表者: 町田修一)

## 柳谷登志雄

③

1. 柳谷登志雄, 辻 秀憲, 小林 海 [他]. 全国高校総体における男子4×400 m リレーのレース分析(日本陸連科学委員会研究報告 第13巻(2014) 陸上競技の医科学サポート研究 REPORT2013). 陸上競技研究紀要 10, 104-108, 2014
2. 松尾彰文, 広川龍太郎, 柳谷登志雄, 小林 海, 松林武生, 貴嶋孝太, 山本真帆, 綿谷貴志, 渡辺圭佑, 杉田正明; 2012年および2013年の100 m レースにおけるスピード変化と最高スピード出現区間について, 陸上競技研究紀要, 9: 50-55, 2014.3
3. 広川龍太郎, 松尾彰文, 松林武生, 貴嶋孝太, 山本真帆, 齋橋恭平, 渡辺圭佑, 綿谷貴志, 柳谷登志雄, 持田尚, 森丘保典, 杉田正明, 苅部俊二, 土江寛裕, 齋野進; 男子ナショナルチーム・4×100 m リレーのバイオメカニクスサポート研究報告(第3報), 陸上競技研究紀要, 9: 61-65, 2014.3
4. 山本真帆, 松尾彰文, 広川龍太郎, 柳谷登志雄, 松林武生, 貴嶋孝太, 渡辺圭佑; 競技会における男子400 m 走のレース分析, 陸上競技研究紀要, 9: 66-70, 2014.3

④

1. 宮本 彩, 今関豊一, 柳谷登志雄. 小学校5・6年生の持久走動作をどう指導すべきか?. 第66回日本体育学会大会. 312-313. ポスター発表(平成27年8月 東京)
2. 柳谷登志雄, 宮本 彩, 今関豊一. 「長距離走技術の観点」はキネマティック的分析の結果と対応するか. 第66回日本体育学会大会. 362. 口頭発表(平成27年8月 東京)
3. Aya Miyamoto, Toshio Yanagiya. Seasonal changes in physical fitness of adolescent track and field athletes. The 2<sup>nd</sup> congress, International Academy of Sportology. 74. Poster Sessions (2015 Sep. in Tokyo, Japan)

4. Manabu Kosaka, Yoshiki Horiguchi, Toshio Yanagiya. A Validation study for estimating vertical stiffness during running in children. The 2<sup>nd</sup> congress, International Academy of Sportology. 74. Poster Sessions (2015 Sep. in Tokyo, Japan)
  5. Yuri Kimura, Manabu Kosaka, Shuichi Machida, Toshio Yanagiya. The relationship between toe grip strength and physical fitness in elementary school children. The 2<sup>nd</sup> congress, International Academy of Sportology. 74. Poster Sessions (2015 Sep. in Tokyo, Japan)
  6. 宮本 彩, 今関豊一, 柳谷登志雄. 持久走能力が高い児童の走動作の特徴. 第70回日本体力医学会大会. 273. (平成27年8月 和歌山)
  7. 柳谷登志雄, 上坂 学. 慣性センサは走動作の下肢キネマティクスを正確にキャプチャできるか? 第70回日本体力医学会大会. 273. (平成27年8月 和歌山)
  8. 成ヶ澤史弥, 柳谷登志雄. 長距離の歩行で足部アーチと足趾把持力は変化するののか? 第70回日本体力医学会大会. 273. (平成27年8月 和歌山)
  9. 野呂啓晃, 宮本 彩, 安部孝駿, 山崎一彦, 柳谷登志雄. 400 mH 走選手のハードリング動作に関する研究. 第28回日本トレーニング科学学会大会. ポスター発表 (平成27年11月 鹿児島)
  10. 柳谷登志雄. 『ランニングの距離は体重の減少と比例関係にある?』第28回日本トレーニング科学学会大会. ポスター発表 (平成27年11月 鹿児島)
  11. 堀口芳起, 柳谷登志雄. 『ソルボセインを用いたインソールはトレッドミル走時の足圧を軽減させる?』第66回 日本体育学会 [8/25~27] @国土館大学.
  12. 柳谷登志雄, 宮本 彩, 今関豊一. 『長距離走技術の観点』はキネマティクスの分析の結果と対応するか』第66回 日本体育学会 [8/25~27] @国土館大学.
  13. 吉田 平, 廣瀬伸良, 柳谷登志雄. 大外刈は後受身の何倍か. 第66回 日本体育学会 [8/25~27] @国土館大学.
  14. Satoru Hashizume, Toshio Yanagiya. The influences of the different three-types of foot strike patterns on the mechanical advantage and the forces applied on foot. XXV Congress of the International Society of Biomechanics (ISB), held from 12-16 July 2015 in Glasgow, Scotland.
  15. Satoru Hashizume, Toshio Yanagiya. Forefoot strike requires higher impulse of the Achilles tendon force than rearfoot strike. Footwear Biomechanics Symposium will be held in Liverpool (UK) from 8-10 July 2015.
- ⑤
1. 柳谷登志雄. 睡眠を改善して競技力を向上する コーチングクリニック. 2015年2月号, pp66-71. ベースボールマガジン社. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第31回目. 2015年1月.
  2. 柳谷登志雄. CTで骨格筋をイメージングする コーチングクリニック 2015年3月号, pp78-82. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第32回目. 2015年2月.
  3. 柳谷登志雄. ランニングシューズの工夫を知ってパフォーマンス向上とコンディショニングに役立てよう. コーチングクリニック 2015年4月号, pp68-72. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第33回目. 2015年3月
  4. 柳谷登志雄. 慣性センサー型モーションキャプチャシステムを競技力向上に活用する. コーチングクリニック 2015年5月号, pp69-74. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第34回目. 2015年4月.
  5. 柳谷登志雄. 生体インピーダンス法を用いて, 筋肉や脂肪の量と割合(身体組成)を計測する. コーチングクリニック, 2015年6月号, pp69-74. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第35回目. 2015年5月.
  6. 柳谷登志雄. 地面反力を意識すると動きが変わるかもしれない. コーチングクリニック2015年7月号, pp74-78. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第36回目. 2015年6月.

7. 柳谷登志雄. キネティックチェーンの原則に基づく動作を身に付けて競技力を向上させよう. コーチングクリニック. 2015年8月号, pp75-78. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第37回目. 2015年7月
8. 柳谷登志雄. スポーツ遺伝子から競技力を考える. コーチングクリニック2015年9月号, pp74-78. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第38回目. 2015年8月.
9. 柳谷登志雄. ランニングの腕振りを科学的に評価する. コーチングクリニック2015年10月号, pp72-76. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第39回目. 2015年9月.
10. 柳谷登志雄. インソールの硬度がパフォーマンスやコンディショニングに影響する可能性がある. コーチングクリニック2015年11月号, pp74-78. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第40回目. 2015年10月.
11. 柳谷登志雄. 喫煙習慣がスポーツ競技力に及ぼす影響について. コーチングクリニック2015年12月号, pp76-80. 現場に生かせる, 選手・コーチに役立つスポーツ医科学講座連載第41回目. 2015年11月.
12. 柳谷登志雄, 辻雅 仁, 宮本 彩. 特集 生涯スポーツにつなぐ持久走・長距離走「長距離走の技能をどう評価するか」. 体育科教育 2016年1月号, 18-22.
13. 陸上競技マガジン12月号『2015和歌山 IH バイオメカニクスレポート』

## 取材協力 (コメント)

1. 「育脳ベビー完全ガイド」2015年10月. 晋遊社.
2. 『月刊ランナーズ』鈴木莉紗の「もっと速くなりたい!」拡大版 順天堂大学バイオメカニクス研究室で検証 身体を真っすぐにして「上り坂」を走ると疲労度が軽減する理由とは!?(協力/順天堂大学バイオメカニクス研究室)

## ⑥

## (1)査読

- 体育学研究 (日本体育学会, 和文誌) 2編  
 体力科学 (日本体力医学会, 和文誌) 1編  
 トレーニング科学 (日本トレーニング科学会, 国内誌) 2編  
 International Journal of Sports and Health Sciences (日本体育学会, 英文誌) 2編  
 Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (日本体力医学会, 英文誌) 1編

## (2)受託研究費

1. 科学研究費補助金「校庭の芝生化が下肢の筋骨格系の機能に及ぼす影響」(代表: 柳谷登志雄)
2. 酒井医療株式会社「マイオモーションの精度に関する研究」(代表: 柳谷登志雄)
3. アキレス株式会社「シューズ開発に関する研究」(代表: 柳谷登志雄)
4. イオン株式会社「アスリート用マットレス開発に関する研究」(代表: 柳谷登志雄)

## (3)社会活動

- 1) 日本陸上競技連盟科学委員会委員
- 2) 関東スポーツ推進委員協議会実技. 第三分科会. 「ロコモティブシンドロームと健康寿命の延命」講師
- 3) 米沢興譲館高校・SSH 事業 (スポーツ・保健とライフサイエンスコース) 講師. 平成27年8月10日
- 4) 佐倉市民カレッジ講師 (平成27年12月10・17日)

## 和気 秀文

## ②

Sakata S, Hanaoka T, Ishizawa R, Iwami K, Takada Y, Imagita H, Minematsu A, Waki H, Nakatani A: Poor wheel-running exercise can decrease blood pressure through hormonal control and increase endurance exercise capacity in middle-aged normal rats. Journal of Biosciences and Medicines, 3: 10-24, 2015 (査読あり)

Gouraud SS, Takagishi M, Kohsaka A, Maeda M, Waki H: Altered neurotrophic factors expression profiles in the nucleus of the solitary tract of spontaneously hypertensive rats. *Acta Physiol. (Oxf)*, doi: 10.1111/apha.12618, 2015 (査読あり)

Waki H, Yamanaka K, Takagishi M, Gouraud S: The brain histaminergic system in regulating the cardiovascular system: implications for brain mechanisms underlying exercise-induced cardiovascular responses. *Juntendo Medical Journal*, 2015, in press

## ③

和気秀文, Gouraud Sabine, 向阪 彰: 運動時の中枢性循環調節機序—視床下部結節乳頭核—延髄孤束核系の役割について—. 2012年度-2015年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書

## ④

和気秀文, 高岸美和, Sabine S Gouraud, 向阪 彰, 前田正信: 結節乳頭核—孤束核経路は昇圧反応を惹起する. 第92回日本生理学会大会, 神戸コンベンションセンター, 神戸市, 兵庫県, 2015年3月

中尾友美, 向阪 彰, 北内真理子, 小形 光, Gouraud S Sabine, 和気秀文, 前田正信: 心臓の時計遺伝子の機能異常は糖尿病発症に関与する. 第92回日本生理学会大会, 神戸コンベンションセンター, 神戸市, 兵庫県, 2015年3月

Sabine S Gouraud, 大西真紀子, 橋本 恵, 宮本泰則, 山中 航, 和気秀文: 高血圧ラットの延髄由来培養アストロサイトにおける遺伝子発現プロファイル. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山県民文化会館, 2015年9月

山中 航, 高岸美和, Sabine S Gouraud, 和気秀文: 扁桃体の局所電気刺激がラットの血圧循環応答に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山県民文化会館, 2015年9月

和気秀文, 山中 航, 高岸美和, Sabine S Gouraud: 扁桃体昇圧部による圧受容器反射制御. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山県民文化会館, 2015年9月

Waki H, Yamanaka K, Takagishi M, Gouraud S: Potential brain mechanisms of cardiovascular regulation during exer-

cise: implications for NTS histaminergic receptors in regulating cardiovascular system, 第2回国際スポーツロジック学会学術集会, 順天堂大学本郷キャンパス有山登記念館講堂, 2015年9月

和気秀文, 山中 航, 高岸美和, Sabine S Gouraud: 扁桃体局所電気刺激による循環応答の多様性第51回高血圧関連疾患モデル学会学術総会, 千里ライフサイエンスセンター, 2015年10月

## ⑥

査読

Cytokine

Experimental Physiology

The Journal of Physiological Sciences

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine

International Journal of Sports Medicine

体力科学

学会貢献

第70回日本体力医学会大会実行委員会委員, 同大会プログラム委員長

日本体力医学会評議員, 編集委員会委員, 将来構想検討委員会委員, 学会賞選考委員会委員

日本生理学会評議員, 生理学エディター

日本宇宙航空環境医学会理事, 広報委員会委員

Editor of the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine

Editor of World Journal of Hypertension

高血圧関連疾患モデル学会評議員, ありかた委員会委員

ニューロネットワークと循環研究会(武田薬品)メンバー

国際交流

University of Bristol (ブリストール) 大学(UK)との国際共同研究(共同研究者: Professor Julian Paton)

准教授

鈴木 宏哉

## ②

鹿野晶子, 鈴木宏哉, 野井真吾: 小学生における高次神経活動の実態とそれに及ぼす生活状況の検討: go/no-go課題における誤反応数と型判定の結果を基に. 発育発達研究 66: 16-29, 2015.

Okazaki, K., Suzuki, K., Sakamoto, Y., Sasaki, K.: Physical activity and sedentary behavior among children and adolescents living in an area affected by the 2011 Great East Japan earthquake and tsunami for 3 years. *Preventive Medicine Reports* 2: 720-724, 2015.

## ③

鈴木宏哉, 岡崎勘造: 被災地における子どもの運動環境と支援策. *体力科学* 64(1): 107, 2015.

鈴木宏哉: 被災地における三年間の調査と体育的支援活動から見る子どもたちのからだと心の変化. *保健室* No. 177: 45-54, 2015.

鈴木宏哉: 子どもにおける体力・身体活動の大規模調査と縦断的調査の意義. *体育の科学* Vol. 65 (4): 271-277, 2015.

Suzuki, K., Naito, H., Hui, SS., Balasekaran, G., Song, JK., Liou, YM., Lu, D., Poh, BK., Kijboonchoo, K.: School sports club promotion reduces physically unfit and inactive adolescents: the Asia-fit Study. *Medicine & Science in Sports & Exercise* 47(5S): 523. (doi:10.1249/01.mss.0000466094.18162.fa)

Hui, SS., Suzuki, K., Naito, H., Balasekaran, G., Song, JK., Liou, YM., Lu, D., Poh, BK., Kijboonchoo, K.: How Fit and Active in Asian Youth? The Asia-fit Study. *Medicine & Science in Sports & Exercise* 47(5S): 922. (doi: 10.1249/01.mss.0000466196.61156.12)

鈴木宏哉: 子どものスポーツライフ・データ2013 (SSF 笹川スポーツ財団): 調査の特徴と可能性. *体育の科学* Vol. 65(7): 497-504, 2015.

鈴木宏哉: 被災地の子どもの運動環境支援に取り組んだ4年間と今後の課題. *体育科教育* 11月号: 36-40, 2015.

Suzuki, K., Naito, H., Sakamoto, A., Hui, SS.: Sports club activity does not reduce sedentary behaviours of Japanese female adolescents. *Journal of Science and Medicine in Sport* 18 (6): 40-41, 2015.

鈴木宏哉: アクティブライフが子どもの未来を変える. 第

50回岩手県学校健康教育研究大会報告書: pp. 44-48, 2015.

鈴木宏哉: ALL for Nagai Kids: なが〜いアクティブキッズプロジェクトの意義. 平成26年度文部科学省委託事業幼児期の運動に関する指導資料作成事業実践研究報告書 (長井市版): pp. 112-115, 2015.

スポーツ庁: 平成27年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査報告書: pp. 1-192, 2015. (平成27年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査検討委員会の委員として編集及び執筆に携わった)

## ④

鈴木宏哉, 波多野義郎, 春日晃章: ICHPER・SD学会における子どもの体力・体格・生活習慣等調査とその意義. 第14回日本体育測定評価学会, 金沢. 2015年3月.

Suzuki, K., Naito, H., Hui, SS., Balasekaran, G., Song, JK., Liou, YM., Lu, D., Poh, BK., Kijboonchoo, K.: School sports club promotion reduces physically unfit and inactive adolescents: the Asia-fit Study. *American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting*, San Diego. May 2015.

Hui, SS., Suzuki, K., Naito, H., Balasekaran, G., Song, JK., Liou, YM., Lu, D., Poh, BK., Kijboonchoo, K.: How Fit and Active in Asian Youth? The Asia-fit Study. *American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting*, San Diego. May 2015.

鈴木宏哉, 内藤久士, Stanley Sai-chuen Hui: 日本における組織的スポーツ活動が果たす役割の特異性〜The Asia-Fit Studyによる国際比較データから〜. 第18回日本運動疫学会学術総会, 名古屋. 2015年6月.

Okazaki, K., Suzuki, K., Sakamoto, Y., Sasaki, K., Suzuki, H.: Comparison of physical activity between adolescents living in a coastal area affected by the Great East Japan Earthquake and Tsunami and those outside an affected area. *20th European College of Sports Science Congress*, Sweden. June 2015.

鈴木いづみ, 島村芳崇, 鈴木宏哉, 鈴木良雄: プロサッカー選手の体脂肪と試合中のスプリントパフォーマンスに

関する研究. 日本スポーツ栄養学会第2回大会, 滋賀.  
2015年7月.

鈴木宏哉: 発育発達領域における新たな調査・測定方法及び分析方法に関する提案. 日本体育学会第66回大会, 東京.  
2015年8月.

津田龍佑, 鈴木宏哉: 体力向上と体力に関する知識を理解させることを意図したゴール型・サッカーの指導計画の有効性. 日本体育学会第66回大会, 東京. 2015年8月.

大澤啓亮, 徐 広孝, 澤村信哉, 鈴木宏哉, 安藤 梢, 西嶋尚彦: テニスのショットデータからの攻撃特性尺度の構成. 日本体育学会第66回大会, 東京. 2015年8月.

Suzuki, K., Naito, H., Balasekaran, G., Song, JK., Liou, YM., Lu, D., Poh, BK., Kijboonchoo, K., Hui, SS.: Japanese adolescents are the most physically fit and active in East and Southeast Asia. The 2nd International Academy of Sportology, Tokyo. September 2015.

鈴木宏哉: 被災地の子どもの体力と震災後の取り組みについて. 九州体育・スポーツ学会 第64回大会, 佐賀. 2015年9月.

鈴木宏哉, 岡崎勘造, 佐々木桂二, 坂本 譲: 沿岸部被災地小学生の身体活動量と居住・スポーツ環境: 4年間の追跡調査による関連性と経年変化の検討. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山. 2015年9月.

岡崎勘造, 鈴木宏哉, 佐々木桂二, 坂本 譲: 沿岸部被災地・小中学生における運動・スポーツ活動, 及び座位時間: 4年間の追跡調査からみた経年変化の検討. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山. 2015年9月.

坂本 譲, 岡崎勘造, 佐々木桂二, 植木章三, 鈴木宏哉: 沿岸部被災地小中学生のストレス免疫指標の変化: 3年間の追跡調査. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山. 2015年9月.

Suzuki, K., Naito, H., Sakamoto, A., Hui, SS.: Sports club activity does not reduce sedentary behaviours of Japanese female adolescents. 2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast. October 2015.

⑤  
「スポーツの力」で生まれ変わりつつある被災地のいま: 「女川っ子アクティブクラブ」4年目の躍動. Sports Japan Vol. 18: pp. 12-16, 2015.

石巻かほく2015年1月4日朝刊.

読売新聞2015年6月19日夕刊.

⑥  
講演・講習  
鈴木宏哉: 子どもの頃の良い生活習慣が元気な大人を育む. 第50回岩手県学校健康教育研究大会(助言講師). 岩手県民情報交流センター, 2015年1月8日.

鈴木宏哉: 中学生の基礎体力の向上及び技術の習得〜生徒の体力向上を基礎づける運動の習慣化〜. 大田区教育研究会中学校保健体育研究部一斉部会(講師). 2015年2月4日.

鈴木宏哉: 被災地における子どもの身体活動支援. 中央大学体育の科学(演習)(講師). 2015年7月24日.

鈴木宏哉: 運動の習慣化と子どもの発育発達. 文京区教育委員会平成27年度教育課題研修会(第3回)(講師). 2015年7月27日.

鈴木宏哉: ながいアクティブキッズプロジェクト運動遊び指導(講師). 山形県長井市. 2015年10月27日.

鈴木宏哉: 幼児の発育発達と運動の習慣化. 宮城教育大学附属幼稚園公開研究会(講師). 2015年10月28日.

鈴木宏哉: 児童・生徒の体力向上を目指した教育課程の在り方. 文京区教育委員会平成27年度教務主任研修会(第4回)(講師). 2015年11月13日.

査読  
発育発達研究(編集含む)  
Football Science(編集含む)  
体育測定評価研究(編集含む)  
コーチング学研究  
学校保健研究  
体育学研究(編集含む)

## International Journal of Sport and Health Science

外部資金（科研費除く）獲得課題等

「障害のない児童・生徒におけるアダプテッド・スポーツ教育の有用性の検証」, 平成27年度笹川スポーツ財団研究助成（奨励研究）（研究分担者）

「日本の子どもにおける日常の身体活動の実態およびその変動要因の国際比較に向けた評価法の確立」, 平成27年度日本体力医学会プロジェクト研究（平成27年度～29年度）（研究分担者）

## 深尾 宏祐

②

Yoshihara T, Shimada K, Fukao K, Sai E, Sato-Okabayashi Y, Matsumori R, Shiozawa T, Alshahi H, Miyazaki T, Tada N, Daida H. Omega 3 Polyunsaturated Fatty Acids Suppress the Development of Aortic Aneurysms Through the Inhibition of Macrophage-Mediated Inflammation. *Circ J.* 79(7): 1470–8. 2015

④

深尾宏祐, 島田和典, 福島理文, 塩澤知之, 塩崎正幸, 代田浩之, 大学生アスリートにおける持続的運動と循環代謝マーカーの特徴, 第26回臨床スポーツ医学学会, 神戸国際会議場

⑥

2015年度千葉県運動指導者養成講習会「スポーツ指導者に必要な医学的知識 I」

公益財団法人日本バスケットボール協会スポーツ医科学委員会委員

第37回女子ウィリアム・ジョーンズカップ（台湾）女子バスケットボール日本代表チームドクター

## 助教

## 尾崎 隼朗

②

1. Ozaki H, Abe T, Machida S, Naito H. Progressive training model for muscle hypertrophy and strength gain. *Advances in Exercise and Sports Physiology* (in press)

vances in Exercise and Sports Physiology (in press)

2. Ozaki H, Loenneke JP, Buckner SL, Abe T. Muscle growth across a variety of exercise modalities and intensities: Contributions of mechanical and metabolic stimuli. *Medical Hypotheses.* 88: 22–26, 2016

3. Ozaki H, Abe T, Mikesky AE, Sakamoto A, Machida S, Naito H. Physiological stimuli necessary for muscle hypertrophy. *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine.* 4(1): 43–51, 2015

4. Ozaki H, Loenneke JP, Thiebaud RS, Abe T. Cycle training induces muscle hypertrophy and strength gain: strategies and mechanisms. *Acta Physiologica Hungarica.* 211(1): 97–106, 2015

5. Ozaki H, Loenneke JP, Abe T. Blood flow-restricted walking in older women: Does the acute hormonal response associate with muscle hypertrophy? *Clinical Physiology and Functional Imaging* (Epub ahead of print)

6. Ishihara Y, Naito H, Ozaki H, Yoshimura M. Aerobic Fitness Relation to Match Performance of Japanese Soccer Referees. *Football Science.* 12: 91–97, 2015.

7. Natsume T, Ozaki H, Saito AI, Abe T, Naito H. Effects of Electrostimulation with Blood Flow Restriction on Muscle Size and Strength. *Medicine and Science in Sports and Exercise.* 47(12): 2621–2627, 2015

③

1. 尾崎隼朗. 中央大学理工学部男子学生における簡易体力テスト・ノルム作成の試み. *体育研究* (in press)

2. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults. *Juntendo Medical Journal* (in press)

3. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H. Effect of long-term training program combining increased physical activity and walking with blood flow restriction on



- locomotive syndrome in the elderly. Juntendo Medical Journal (in press)
4. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between physical activities and locomotive syndrome after a 3-month exercise intervention of walking and stair climbing in elderly Japanese individuals. Juntendo Medical Journal (in press)
  5. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Locomotive syndrome relation to daily physical activity, physical function, and body composition in elderly people: a pilot study. Juntendo Medical Journal (in press)
  6. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. Effect of 6-month walking and stair-climbing exercise program and walking with blood flow restriction on body composition and hemoglobin A1c levels in elderly people. Juntendo Medical Journal (in press)
  7. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults. Juntendo Medical Journal (in press)
- ④  
[国際(海外)学会発表]
1. Ozaki H, Ozaki M, Machida S, Naito H. The changes of muscle and subcutaneous fat thicknesses in an infant for a year after birth. International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles, Chiba, Japan, 2015, November
  2. Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Effect of a combination of increased physical activity and walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test scores in older adults. The 20<sup>th</sup> Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015, October (Poster Presentation Award)
  3. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Ishihara Y, Yoshihara T, Natsume T, Machida S, Naito H. Effects of 6-month exercise intervention program on locomotive syndrome risk test scores in Japanese elderly. The 20<sup>th</sup> Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015, October. (Poster Presentation Award)
  4. Ozaki H, Tomoharu K, Shuichi M, Hisashi N, Shizuo K. Cycling inhibits age-related decreases in muscle thickness of the lower extremities and maximum oxygen uptake. 2015 ASICS Sports Medicine Australia Conference, Gold Coast, Australia, 2015, October
  5. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015, September
  6. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H. The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015, September
  7. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Effect of exercise intervention on locomotive syndrome in Japanese elderly. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015, September
  8. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015, September
  9. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elderly people. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015, September
  10. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction

tion in older adults. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015, September

11. Ozaki H, Natsume T, Abe T, Machida S, Naito H. Effect of neuromuscular electrical stimulation with blood flow restriction on muscle size and strength. The American College of Sports Medicine 62th Annual Meeting, San Diego, USA, 2015, May

[国内学会発表]

1. 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 大野佳南子, 今井由佳, 町田修一, 内藤久士. 若年女性におけるスクワットジャンプ中の動作スピード及びジャンプ高に月経周期のフェーズの違いが与える影響. NSCA ジャパンカンファレンス 2015, 東京, 2015年12月
2. 尾崎隼朗, 北田友治, 棗 寿喜, 安部 孝, 内藤久士, 形本静夫. サイクリング運動は加齢による筋サイズと最大酸素摂取量の低下を抑制する. 第28回日本トレーニング科学会大会, 鹿児島, 2015年11月
3. 尾崎隼朗, 棗 喜寿, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. サイクリング運動の強度の違いがレジスタンス運動後のシグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
4. 大野佳南子, 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 今井由佳, 町田修一, 内藤久士. 月経周期の違いが膝伸展運動時の仕事量と筋持久力に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
5. 亀岡 舞, 尾崎隼朗, 内藤久士, 町田修一. 月経周期における卵巣ホルモン濃度がレジスタンス運動後の骨格筋タンパク質分解に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
6. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. 筋電気刺激がヒト骨格筋におけるオートファジーに及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月
7. 尾崎隼朗, 棗 寿喜, 柿木 亮, 小林裕幸, 町田修一, 内藤久士. サイクリング運動の強度の違いが細胞内シグナル伝達経路の活性化に及ぼす影響. 第23回日本運

動生理学会大会, 東京, 2015年7月

8. 柿木 亮, 吉原利典, 尾崎隼朗, 関根紀子, 内藤久士. 筋収縮様式がヒト骨格筋のタンパク質合成関連シグナル伝達に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
9. 亀岡 舞, 尾崎隼朗, 内藤久士, 町田修一. 月経周期の違いがレジスタンス運動後のコルチゾール分泌応答に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
10. 棗 寿喜, 尾崎隼朗, 吉原利典, 柿木 亮, 町田修一, 内藤久士. ヒト骨格筋に対する筋電気刺激が筋肥大に関わる細胞内シグナル伝達経路に及ぼす影響. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月
11. 尾崎隼朗, 亀岡 舞, 町田修一, 内藤久士. 月経周期に伴う卵巣ホルモンの変動が筋厚および筋力に与える影響. 第22回日本健康体力栄養学会大会, 千葉, 2015年3月

⑤

1. 「順天堂大学『介護寝たきり（ロコモ）予防対策』」北総よみうり, 2015年4月24日
2. 「順天堂大 ロコモ対策などで公開講座」月刊千葉ニュータウン, 2015年10月10日

⑥

[科学研究費申請課題名]

1. 「筋サイズと全身持久力を同時改善する新たなトレーニング方法の開発」, 若手研究 (B), (研究代表者, 研究課題番号: 15K16460), 2015年4月1日~2018年3月31日

[民間助成金]

1. 「低強度の筋電気刺激を利用したトレーニングがヒト骨格筋の筋肥大に及ぼす影響—筋繊維タイプ別の検討—」, 平成27年度笹川科学研究助成・学術研究部門 (共同研究)

[その他]

1. 2015年11月. 平成27年度順天堂大学公開講座『筋力ア

ップで生涯を幸福に』講師

2. 2015年10月. サルコペニア克服プロジェクト・シンポジウム2015『予防対策：どんな運動をどれだけやればいいのか』シンポジスト
3. 2015年9月. 平成27年度順天堂大学公開講座～介護ねたきり(ロコモ) 予防対策～第6回(最終回)『まとめ』講師
4. 2015年7月. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, シンポジウム『低負荷運動の筋肥大効果』シンポジスト
5. 2015年7月. 平成27年度順天堂大学公開講座～介護ねたきり(ロコモ) 予防対策～第4回『トレーニング方法のまとめと応用』講師
6. 2015年6月. 平成27年度順天堂大学公開講座～介護ねたきり(ロコモ) 予防対策～第3回『有酸素運動の効果と方法』講師
7. 2015年5月. 平成27年度順天堂大学公開講座～介護ねたきり(ロコモ) 予防対策～第2回『筋力トレーニングの効果と方法』講師

## 川田裕次郎

①

1. Kawata Y, Hirosawa M, Kamimura A, Yamada K, Kato T, Oki K, Wakui S, Izutsu S, Mizuno M. Resilience, psychological stressors, and stress responses in Japanese university athletes. *New Ergonomics Perspective*. Taylor & Francis Group, London, 231-237, 2015.

②

1. 藤後悦子, 浅井健史, 勝田紗代, 川田裕次郎, 藤後淳一, 大浦宗博, 関谷悠介, 谷中風次, 徳永祐典. 中学生のバスケットボールチームへの森田療法を用いた心理サポートの可能性～森田療法的メンタルトレーニングワークアウトの開発と改善～. *モチベーション研究*, 印刷中(査読有)

③

1. 2014年度笹川スポーツ財団研究助成研究成果報告書.

「児童の運動参加を促進するための相対的年齢効果に関する研究」. 奨励研究: 50万円. 306-314.

④

[国際学会]

1. Kawata Y, Kamimura A, Yamada K, Izutsu S, Wakui S, Mizuno M, Hirosawa M. Relationship between resilience and stress coping among Japanese university athletes. The Proceedings of the 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association. Melbourne, Australia, 2015年7月.
2. Izutsu S, Kawata Y, Soutome H, Morita Y. Relationship between physical features and motor abilities among young children: A study of a specialized kindergarten for teaching sports and physical activity. The Proceedings of the 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association. Melbourne, Australia, 2015年7月.
3. Kamimura A, Kawata Y, Hirosawa M. The relationship between birth month, physical fitness, motor ability and evaluation from kindergarten teachers for Japanese young children. Abstract of the 2nd Congress, International Academy of Sportology, 2015年9月.

[国内学会]

1. 川田裕次郎, 上村 明, 沖 和砂, 広沢正孝. 児童の運動の楽しさにおける相対的年齢効果. 日本体育学会第66回大会予稿集, 136, 東京, 2015年8月.
2. 上村 明, 川田裕次郎, 山田 快, 沖 和砂, 広沢正孝. 大学生競技者において1年後のアスリート・バーンアウトは予測できるか. 日本体育学会第66回大会予稿集, 159, 東京, 2015年8月.
3. 中西唯公, 上村 明, 沖 和砂, 川田裕次郎, 山田 快, 小俣貴洋, 広沢正孝. 体育系大学生における自尊感情と特性自己効力感—精神的健康と運動との関係—. 日本体育学会第66回大会予稿集, 159, 東京, 2015年8月.
4. 井筒紫乃, 川田裕次郎, 森田陽子, 浅井正信. 幼児の足蹠形態と足趾の巧緻性と運動能力との関連性について. 日本幼児体育学会第11回大会講演要旨・研究発表抄録集, 59-60, 京都, 2015年8月.

5. 井筒紫乃, 川田裕次郎, 森田陽子. 幼児の足蹠形態と足趾の巧緻性. 日本生理人類学会第72回大会予旨集, 67, 北海道, 2015年5月.
6. 上村 明, 西田敬志, 川田裕次郎, 田中純夫, 広沢正孝. Empathizing-Systemizing モデルと養育態度がメンタルヘルスに及ぼす影響(1). 日本応用心理学会第82回大会発表論文集, 31, 東京, 2015年9月.
7. 西田敬志, 上村 明, 川田裕次郎, 田中純夫, 広沢正孝. Empathizing-Systemizing モデルと養育態度がメンタルヘルスに及ぼす影響(2). 日本応用心理学会第82回大会発表論文集, 32, 東京, 2015年9月.
8. 小俣貴洋, 上村 明, 川田裕次郎, 広沢正孝. スポーツ系大学の学生におけるギャンブル依存の現状. 日本応用心理学会第82回大会発表論文集, 54, 東京, 2015年9月.
9. 朴 明姫, 広沢正孝, 川田裕次郎, 上村 明. メンタルヘルスとソーシャルサポートの関連性に関して～韓国の労働者を対象にして～. 日本ヘルスプロモーション学会第13回学術大会・総会抄録集, 20, 新潟, 2015年11月.

## ⑥

## [研究・社会貢献活動]

東京都足立区教育委員会 ギャラクシティアドバイザー  
 人類働態学会 理事  
 日本応用心理学会 第82回大会 大会準備委員会委員  
 日本スポーツ心理学会スポーツ動機づけ研究会 第13回研究会実行委員長

## [講演]

1. 川田裕次郎. 千葉県社会体育公認指導員養成講習会. 「スポーツ心理学」. 千葉県スポーツ科学センター, 2015年8月.
2. 川田裕次郎. 日本医師会認定健康スポーツ医学講習会. 「メンタルヘルスと運動」. 埼玉県医師会館, 2015年11月.

## [学術雑誌査読]

1. 国際誌査読. 「Football Science」 Japanese Society of Science and Football. 1件.

2. 国際誌査読. 「Journal of Human Ergology」 Human Ergology Society. 1件.

3. 国内誌査読. 「比較舞踊研究」比較舞踊学会. 1件.

## 河村 剛光

## ②

1. Kohmura Y., Murakami S., Someya Y., Aoki K. Effects of Yellow-Tinted Lenses on Visual Attributes Related to Sports Activities and Daily Life in Late Middle-aged Adults. Central European Journal of Sport Sciences and Medicine. 9(1): 27-36. 2015. (査読あり)

2. Aoki K. Kohmura Y., Sakuma K. Koshikawa K. and Naito H. Relationships Between Field Tests of Power and Athletic Performance in Track and Field Athletes Specializing in Power Events. International Journal of Sports Science & Coaching, 10(1). 133-144. 2015. (査読あり)

3. 河村剛光, 村上茂樹, 越川一紀, 青木和浩, 鈴木良雄, 鯉川なつえ, 岡部正明, 田中明雄, 澤木啓祐. DHAの摂取が大学スポーツ選手の視覚機能に及ぼす影響. 日本臨床スポーツ医学会誌, 23(3). 519-527. 2015. (査読あり)

## ③

1. 体格体力累加測定委員会. 2014年度順天堂大学体格体力累加測定. 順天堂スポーツ健康科学研究. 第6巻 Suppl, pp. 17-29, 2015.

## ④

1. 吉井 泉, 石垣尚男, 河村剛光. スポーツサングラスの使用状況に関する研究～大学・実業団の陸上競技選手を対象として～, 第22回スポーツビジョン研究会 東京都, 2015.
2. 河村剛光, 中田 学, 窪田敦之, 青葉幸洋, 青木和浩, 村上茂樹. 打撃練習またはボールを追従視するトレーニングが打撃能力と視覚機能に及ぼす影響—球速と球種に着目して—, 第22回スポーツビジョン研究会 東京都, 2015.
3. 村上茂樹, 河村剛光, 白石安男, 青木和浩, 中田

学, 濱野礼奈, 澤木啓祐. スポーツ系大学生におけるドライアイの現状とその問題点. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会 兵庫県, 2015.

4. Someya Y., Kawai S., Kohmura Y., Aoki K., Daida H. Long term effect of cardiorespiratory fitness for a prevention against diabetes. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, 2015.
5. 富士徳文, 河村剛光, 吉村雅文, 須田芳正, 石原美彦. 大学サッカーチームにおける体力測定の実態. 第28回トレーニング科学学会大会 鹿児島県, 2015.
6. 東中友哉, 河村剛光, 越川一紀, 青木和浩. 走高跳の助走における視線行動. 日本陸上競技学会第14回大会 東京都, 2015.
7. 光川眞壽, 河村剛光, 佐賀典生. ロングティー打撃における打球飛距離とスイング特性の関係. 日本野球科学研究会第3回大会 愛知県, 2015.

## ⑥

## 【TV】

1. 日本テレビ「Going! Sports & News」. 2015年4月18日放送. スポーツにおいて体脂肪がパフォーマンスにどのような影響を与えるのか等をコメント

## 【講師等】

1. 千葉県社会体育公認指導員等養成講習会 講師「トレーニング論Ⅰ」「ジュニア期のスポーツ」. 2015年8月30日. 千葉県.
2. 印西市市民アカデミー 講師. 「運動の効能とその評価(判定)について」. 2015年6月27日. 順天堂大学さくらキャンパス.
3. 順天堂大学スポーツ健康科学部オープンキャンパス公開講座 講師. 「ヒトをはかる! ~身体とこころ~」 鈴木宏哉, 河村剛光, 窪田敦之, 川田裕次郎. 2015年11月1日. 順天堂大学さくらキャンパス.
4. 文京区小学校体力向上アドバイザー 講師 2015年9月24日. 東京都.

## 山中 航

## ②

—Waki H, Yamanaka K, Takagishi M, Gouraud S. The brain histaminergic system in regulating the cardiovascular system: implications for brain mechanisms underlying exercise-induced cardiovascular responses Juntendo Medical Journal, in press

## ④

—和気秀文, 山中 航, 高岸美和, Gouraud Sabine. 扁桃体局所電気刺激による循環応答の多様性 第51回高血圧関連疾患モデル学会, 大阪, 2015年10月 口頭発表

—Kimura M, Yamanaka K, Minamimoto T, Hori Y, Ueda Y. Roles of the centromedian nucleus of thalamus and its projection to the striatum in cognitive and behavioral biases 45th annual meeting of Society for Neuroscience, Chicago, USA, 2015年10月 Nano-symposium

—山中 航, 高岸美和, Gouraud Sabine, 和気秀文 ラット扁桃体の局所電気刺激が循環応答に及ぼす影響 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月 口頭発表

—和気秀文, 山中 航, 高岸美和, Gouraud Sabine. 扁桃体昇圧部による圧受容器反射制御 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月 口頭発表

—Gouraud Sabine, 大西真紀子, 橋本 恵, 宮本泰則, 山中 航, 和気秀文 高血圧ラットの延髄由来培養アストロサイトにおける遺伝子発現プロファイル 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月 ポスター発表

—Waki H, Yamanaka K, Takagishi M, Gouraud S. Potential brain mechanisms of cardiovascular regulation during exercise: implications for NTS histaminergic receptors in regulating cardiovascular system

第2回国際スポーツロジ学会, 東京, 2015年9月  
ポスター発表

—Yoshida J, Saiki A, Soma S, Yamanaka K, Nonomura S, Kawabata Y, Sakai Y, Isomura Y.  
Behavioral evaluation of impairment of response inhibition by habit formation  
日本動物心理学会, 東京, 2015年9月  
ポスター発表

—Yamanaka K, Hori Y, Ueda Y, Minamimoto T, Kimura M.  
Centromedian nucleus of thalamus exhibits neuron circuit-specific signals during a new learning of action-outcome associations  
第38回日本神経科学大会, 神戸, 2015年7月  
ポスター発表

—Yoshida J, Saiki A, Yamanaka K, Sakai Y, Isomura Y.  
A novel operant learning task to evaluate rat behavioral inhibition during habit formation  
第38回日本神経科学大会, 神戸, 2015年7月  
ポスター発表

—Yoshida J, Saiki A, Yamanaka K, Sakai Y, Isomura Y.  
A new stop-signal task to explore inhibitory function in operant learning to habituation process  
第92回日本生理学会大会, 神戸, 2015年3月  
ポスター発表

⑥

—佐藤 翼, 鈴木杏奈, 山田泰行, 鈴木宏哉, 青葉幸洋, 山中 航, 廣津信義  
レッドカードのミカタ～はじまりの予感～  
第5回スポーツデータ解析コンペティション, 立教大学,  
2015年12月26日

—和気秀文, 山中 航  
脳と心臓の話～運動をしても, 恋をしても, なぜ心臓がバクバクするのでしょうか?～  
順天堂大学スポーツ健康科学部 公開講座2015, 2015年11月1日

助手  
門屋 悠香

②

1. Yaginuma S, Sakuraba K, Kadoya H, Koibuchi E, Matsukawa T, Ito H, Yokoyama K, Suzuki Y. Early bedtime associated with the salutary breakfast intake in Japanese nursery school children. *Int Med J.* 22(1): 30-32, 2015

④

〈国内学会〉

1. Suzuki Y, Sakuraba K, Kadoya H, Maruyama-Nagao A, Yaginuma S, Koibuchi E, Matsukawa T, Ito H, Yokoyama K. Physical activity and health in nursery and preliminary school children and their parents at City of Nagano. *International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles.* 2015年11月21日 (土). 印西: 順天堂大学さくらキャンパス

⑥

1. 千葉県佐倉市 佐倉市民カレッジ 講師 2015年7月  
2. 東京都千代田区 生活習慣病予防教室 講師 2015年5月, 11月

中潟 崇

③

1. 中潟 崇, 町田修一, 内藤久土, 石島旨章, 金子和夫, *LocoCure2015*, 特集「ロコモティブシンドロームとは?」ロコモーショントレーニング (*LocoCure vol. 1* P42-47, 5月)

2. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H. The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults. *Juntendo Medical Journal* (in press)

3. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults. *Juntendo Medical Journal* (in press)

4. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between physical activity and locomotive syndrome after a 3-month exercise intervention of walking and stair climbing in elderly Japanese individuals. *Juntendo Medical Journal* (in press)
  5. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people. *Juntendo Medical Journal* (in press)
  6. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elderly people. *Juntendo Medical Journal* (in press)
  7. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults. *Juntendo Medical Journal* (in press)
- ④  
[国際(海外)学会発表]
1. Nakagata T, Ozaki H, Machida S, Ishibashi M, Naito H. The effects of exercise training combined increase physical activity with walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test parameters in the elderly adults. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  2. Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. The effect of the combination of increased physical activity with walking with blood flow restriction on leg muscle thickness and walking performance in older adults. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  3. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Effect of exercise intervention on locomotive syndrome in Japanese elderly. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  4. Ishihara Y, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Machida S, Naito H. Relationship between locomotive syndrome risk test parameters and physical activities in elderly people. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  5. Yoshihara T, Ozaki H, Nakagata T, Natsume T, Machida S, Naito H. Assessment of a University-Based Exercise Program for Locomotive and Metabolic Syndrome in the elderly people. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  6. Natsume T, Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Acute changes in blood lactate concentration, muscle thickness and strength after walking with blood flow restriction in older adults. The 2nd Congress, International Academy of Sportology, Tokyo, Japan, 2015年9月
  7. Ozaki H, Nakagata T, Machida S, Naito H. Effect of a combination of increased physical activity and walking with blood flow restriction on locomotive syndrome risk test scores in older adults. The 20th Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015年10月 (Poster Presentation Award)
  8. Kitada T, Ozaki H, Nakagata T, Ishibashi M, Ishihara Y, Yoshihara T, Natsume T, Machida S, Naito H. Effects of 6-month exercise intervention program on locomotive syndrome risk test scores in Japanese elderly. The 20th Shizuoka Forum on Health and Longevity, Shizuoka, Japan, 2015年10月 (Poster Presentation Award)
- [国内学会発表]
1. 中潟 崇, 町田修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久士. 日本人勤労者を対象としたロコモティブシンドロームの実態調査. 第22回日本健康体力栄養学会, 千葉, 2015年3月 (優秀賞受賞)
  2. 澤田 亨, 松下宗洋, 中潟 崇, 丸藤祐子, 西 信雄, 宮地元彦. 各地域における気象条件が国民健康・栄養調査における歩数測定に及ぼす影響. 第18回日本運動疫学会学術総会, 愛知, 2015年6月
  3. 中潟 崇, 町田修一, 濱田千江子, 石島旨章, 平澤恵理, 石橋雅義, 内藤久士. 日本人勤労者のロコモ予備軍の実態調査—新基準に基づいて—第70回日本体力医学

会, 和歌山, 2015年9月

4. 駒野悠太, 三浦 裕, 藤原大介, 内藤久士, 中潟 崇, 島田和典, 代田浩之. ウイルス感染防御機能を制御するプラズマサイトイド樹状細胞に及ぼす運動の影響, 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 神戸, 2015年11月

⑥

平成27年度 順天堂大学市民公開講座: 介護寝たきり(口コモ) 予防対策, 2015年4月から9月まで毎月1回

平成27年度 順天堂大学市民公開講座: 筋力アップで生涯を幸福に, 2015年11月

日本バイアスロン連盟 科学委員(体力測定, 競技力向上のための医科学サポート)

そごう西武カラダステーション健康づくりアドバイザー

宮本 彩

④

1. 宮本 彩, 今関豊一, 柳谷登志雄. 小学校5・6年生の持久走動作をどう指導すべきか?. 第66回日本体育学会大会. 312-313. ポスター発表(平成27年8月 東京)
2. 柳谷登志雄, 宮本 彩, 今関豊一. 「長距離走技術の観点」はキネマティック的分析の結果と対応するか. 第66回日本体育学会大会. 362. 口頭発表(平成27年8月 東京)
3. Aya Miyamoto, Toshio Yanagiya. Seasonal changes in physical fitness of adolescent track and field athletes. The 2<sup>nd</sup> congress, International Academy of Sportology. 74. Poster Sessions (2015 Sep. in Tokyo, Japan)
4. 宮本 彩, 今関豊一, 柳谷登志雄. 持久走能力が高い児童の走動作の特徴. 第70回日本体力医学会大会. 273. ポスター発表(平成27年8月 和歌山)
5. 野呂啓晃, 宮本 彩, 安部孝駿, 山崎一彦, 柳谷登志雄. 400 mH 走選手のハードリング動作に関する研究. 第28回日本トレーニング科学学会大会. ポスター発表(平

成27年11月 鹿児島)

6. 前鼻啓史, 宮本 彩, 吉村雅文. アンブティサッカーにおける競技中の移動スピードに関する研究. 第36回医療体育研究会/第19回日本アダプテッド体育・スポーツ学会/第17回合同大会. 14. 口頭発表(平成27年11月 神奈川)

⑤

1. 柳谷登志雄, 辻 雅仁, 宮本 彩. 特集 生涯スポーツにつながる持久走・長距離走「長距離走の技能をどう評価するか」. 体育科教育 2016年1月号, 18-22.

⑥

1. Aya Miyamoto, Toshio Yanagiya. Changes in step length and step rate during endurance running in school childhood. 子どもの体力と運動・生活習慣に関する国際シンポジウム. ポスター発表(平成27年11月 千葉)

コーチング科学コース

教授

加納 實

②

1. あん馬における「縦向き旋回1回ひねり(シュピンデル)」のひねり技術に関する分析的一考察  
久住亮介・加納 實  
体操競技・器械運動研究23号: 21-33 (2015.3)
2. マット運動における「ホップ」の練習方法に関する一考察  
中西一弘・加納 實  
順天堂スポーツ健康科学研究第6巻第2号: 86-95 (2015.6)

⑤

加納 實. 世界体操総括, しんぶん赤旗 (2015.11.3) (2015.11.8)

⑥

公開講座

スーパーなわとび教室(浦安市; 2015.3.26)



学術雑誌査読

日本体操競技・器械運動研究23号 (2015.3)

## 佐久間和彦

④

第41回日本整形外科学会スポーツ医学会 平成27年9月11・12日

『一流短距離走者のハムストリングス肉ばなれ発生要因の検討』

—異なるスプリントトレーニングに対する予防プログラム—

○杉浦雄策, 佐久間和彦

第70回日本体力医学会 平成27年9月18・19・20日

『男子短距離走者の骨格筋における ACTN3 タンパク質発現量』

○中村智洋, 柿木 亮, 関根紀子, 小林裕幸, 佐久間和彦, 内藤久士

日本陸上競技学会第14回大会 平成27年11月28・29日

『砲丸投におけるスローイングベンチプレスの有効性』

○黒田章裕, 坂本彰宏, 高梨雄太, 佐久間和彦

日本陸上競技学会第14回大会 平成27年11月28・29日

『男子やり投げにおける試技開始前準備動作の調査』

○山瀬貴雅, 佐久間和彦

## 菅波 盛雄

④

国内学会発表

1. 小崎亮輔, 菅波盛雄 中学校柔道履修者を対象とした柔道授業の効果の検討 武道学研究 第48巻 別冊59, 2015

2. 高田博文, 菅波盛雄 他 柔道競技における中断時間の有効な行動選択についての考察 武道学研究 第48巻 別冊 36, 2015

3. 日向野泰彰, 菅波盛雄 他 柔道競技における前回り受け身についての一考察 武道学研究 第48巻 別冊41, 2015

4. OZAKI RYOSUKE, SUGANAMI MORIO Relationships between club activity stressors, commitment to sports, and resilience in high school athletes belonging to school athletic clubs. The 2<sup>nd</sup> Congress, International Academy of Sportology p34 2015

⑤

1. 菅波盛雄, 小崎亮輔他 平成26年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会. 柔道 86巻1号 25-43 2015

## 長登 健

⑥

講演等

• 富山県南砺市福光中部小学校・楽しい体育実践研究事業 (平成26・27年度県委託事業) 指導助言

• 東京都町田市中学校教育研究会2015年度総会(記念講演)

• 平成27年度関東地区高等学校保健体育研究大会(記念講演)

## 吉村 雅文

②

【原著】

1. Evaluating the risk of a fifth metatarsal stress fracture by measuring the serum 25-hydroxyvitamin D levels. Yu Shimasaki, Masashi Nagao, Takayuki Miyamori, Yukihiro Aoba, Norifumi Hukushi, Yoshitomo Saita, Hiroshi Ikeda, Sung-Gon Kim, Masahiro Nozawa, Kazuo Kaneko, Masafumi Yoshimura, *Foot and Ankle International* 1-5 The Author(s) 2015, Reprints and permissions: [sagepub.com/journalsPermissions.nav](http://sagepub.com/journalsPermissions.nav) DOI: 10.1177/1071100715617042 [Fai.sagepub.com](http://Fai.sagepub.com)

2. Aerobic Fitness Relation to Match Performance of Japanese Soccer Referees. Yoshihiko Ishihara, Hisashi Naito, Hayao Ozaki and Masafumi Yoshimura, *Football Science* Vol. 12, 91-97, 2015

3. スペインにおける Futbol7 に関する戦術的分析—オフサイドラインの突破に着目して—. 松本直也, 廣津信

義, 吉村雅文, 桃山学院大学総合研究所紀要第41巻第1号, 2015.7

4. 日本大学サッカー選抜チームにおけるゲームコンセプトに関する検討—日・韓大学サッカー選抜戦のゲーム分析を通して—. 李ウヨン, 川田尚弘, 大平正軌, 松本直也, 吉村雅文他, 専修大学スポーツ研究所紀要 第38号 ISSN 0288-4143, 2015
5. ブラインドサッカー選手の敏捷性に関する基礎的研究. 前鼻啓史, 吉村雅文, 渡邊貴裕. リハビリテーションスポーツ, 34(1): 20-21, 2015 【抄録】

## ④

## 【学会発表】

1. GPSを用いたサッカー教室中の身体活動量の測定に関する研究. 石原美彦, 内藤久士, 井口祐貴, 島寄佑, 吉村雅文, 第13回日本発育発達学会, 日本大学文理学部, 東京, 2015, 3
2. Relationship between aerobic fitness and match activity profiles of Japanese young soccer referees. Yoshihiko Ishihara, Hisashi Naito, Akihiro Sakamoto, Hayao Ozaki, Masafumi Yoshimura, The European College of Sport Science 20th Annual Meeting, Malmo, Sweden, 2015.6
3. 運動教室に参加する児童の身体活動量. 石原美彦, 鄧鵬宇, 井口祐貴, 島寄佑, 吉村雅文, 内藤久士, 第70回日本体力医学会, 和歌山県民文化会館, 和歌山, 2015, 9
4. Sprinting ability with change of direction involving decision making in female soccer players. IGUCHI Yuki, YOSHIMURA Masafumi, MAEHANA Hirofumi, ISHIHARA Yoshihiko, The 2nd Congress, International academy of sportology, 2015.9
5. Ability for change of direction performance with the reactive and decision-making in soccer players. Maehana H, Shimasaki Y, Koshiyama K. Kawakita G, Iguchi Y, Yoshimura M, 20th Annual Congress of European College of Sports Science (ECSS). PP-UD01-3-10. Malmo, The Kingdom of Sweden. 24-27/6/2015. (e-Poster)

6. アンパティサッカーにおける競技中の移動スピードに関する研究. 前鼻啓史, 宮本 彩, 吉村雅文. 第36回医療体育研究会 第19回日本アダプテッド体育・スポーツ学会 第17回合同大会. 1-A-2. 平成27年11月28・29日(口頭発表) 於: 神奈川工科大学
7. アンパティサッカー選手における幻肢痛および断端痛の「痛み」に関する研究. 前鼻啓史, 鄧鵬宇, 井口祐貴, 越山賢一, 吉村雅文. 日本体育学会 第66回大会 アダプテッドスポーツ科学領域. 26-ポ-04. 平成27年8月25・27日(ポスター) 於: 国土館大学
8. 大学サッカーチームにおける体力測定の実態, 福士徳文, 河村剛光, 吉村雅文, 須田芳正, 石原美彦, 第28回日本トレーニング科学大会(鹿屋体育大学), 2015.12

## 【シンポジウム発表】

1. Study of body composition in female soccer players  
IGUCHI Y, ISHIHARA Y, AOBA Y, YOSHIMURA M  
子どもの体力と運動・生活習慣に関する国際シンポジウム, 2015.11
2. A trial of side step test for visually impaired children.  
MAEHANA Hirofumi, KOSHIYAMA Kenichi,  
YOSHIMURA Masafumi. International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles. Exercise Physiology & Biomechanics, 9. Chiba, Japan. 21/11/2015. (Poster)
3. Effects of different visual class on agility in the visually impaired soccer players. MAEHANA Hirofumi, IGUCHI Yuki, YOSHIMURA Masafumi. The 2nd Congress, International Academy of Sportology. P-5-16. Tokyo, Japan. 12/9/2015. (Poster)

## ⑥

## 【記事】

1. 文武両道の達人が語る教育「“他人を補完する力”がないと選手としても人間としても成長しない」ウェブサイト「サカイク」2015.4.7

## 【講演】

1. 理学療法科学学会 第16回教育FD研究会 特別講演「サッカーと学生教育」—リーダーの役割—, 2015.1.24

2. 「Criacao Leaders College」新宿野村ビル9F株式会社アセットリード会議室, 2015.10.5
3. 「Criacao Leaders College」新宿野村ビル9F株式会社アセットリード会議室, 2015.12.20

### 先任准教授 青木 和浩

#### ②

1. Aoki K, Kohmura Y, Sakuma K, Koshikawa K, Naito H. Relationships Between Field Tests of Power and Athletic Performance in Track and Field Athletes Specializing in Power Events. *International Journal of Sports Science & Coaching*, 10(1), 133-144, 2015
2. Kohmura Y, Murakami S, Someya Y, Aoki K. Effects of Yellow-Tinted Lenses on Visual Attributes Related to Sports Activities and Daily Life in Late Middle-aged Adults. *Central European Journal of Sport Sciences and Medicine*, 9(1), 27-36, 2015
3. 藤田芳正, 窪田敦之, 青木和浩, 桜庭景植, 藤田真平, 福士徳文. 高校男子サッカー選手における足趾把持筋力とターン動作時の足底圧分布の関係. *日本整形外科学会雑誌*. Vol. 35. No. 1. 47-51. 2015
4. 河村剛光, 村上茂樹, 越川一紀, 青木和浩, 鈴木良雄, 鯉川なつえ, 岡部正明, 田中明雄, 澤木啓祐. DHAの摂取が大学スポーツ選手の視覚機能に及ぼす影響. *日本臨床スポーツ医学会誌*. Vol. 23. No. 3. 519-527. 2015
5. 広瀬健一, 大山卞圭吾, 藤井広明, 青木和浩, 尾縣貢. ハンマー投におけるレジスティッドトレーニングの負荷特性—高重量ハンマーによる投てきに注目して—. *コーチング学研究*. Vol. 29. No 1. 31-40. 2015

#### ③

1. 青木和浩, 廣瀬伸良, 他6名. 2014年度順天堂大学体格体力累加測定. *順天堂大学スポーツ健康科学研究* 6, supplement, 17-29, 2015
2. Aoki K, Yamazaki K, Torikai K, Sakuma K, Kano M,

Kominami E: Juntendo University's Joint Efforts in Omotenashi—Hospitality for Team USA Training Camp ahead of the IAAF World Championships, Beijing 2015. *Juntendo Medical Journal* 61(5), 474-475, 2015

#### ④

1. 村上茂樹, 河村剛光, 白石安男, 青木和浩, 中田学, 濱野礼奈, 澤木啓祐. スポーツ系大学生におけるドライアイの現状とその問題点. 第26回日本臨床スポーツ医学会, 2015.11
2. 東中友哉, 河村剛光, 越川一紀, 青木和浩. 走高跳の助走における視線行動. *日本陸上競技学会第14回大会*, 2015.11

#### ⑤

- ※講演, 公開講座, TV・雑誌などの解説・インタビュー
1. 平成26年度第3回千葉県スポーツ指導者研修会 講師「子どもから大人まで手軽にできる体カトレーニング」2015年1月31日
  2. 平成26年度葛飾区スポーツ指導員養成講習会 講師「発育・発達・老化とスポーツプログラム」2015年2月22日
  3. しすい青樹堂2・3期生講座 講師「中高年の体カづくり」2015年9月17日
  4. 「トレーニング講座 高校編 走幅跳 4・5月」月刊陸上競技 2015年4月号
  5. 「トレーニング講座 高校編 走幅跳 6・7月」月刊陸上競技 2015年6月号
  6. 「トレーニング講座 高校編 走幅跳 8・9月」月刊陸上競技 2015年8月号
  7. 「トレーニング講座 高校編 走幅跳 10・11月」月刊陸上競技 2015年10月号
  8. 「トレーニング講座 高校編 走幅跳 12・1月」月刊陸上競技 2015年12月号

⑥

学会誌等の査読経験 (雑誌名記載のこと)

日本コーチング学研究	編集委員長
日本体育学会	編集委員
日本陸上競技学会	1本
陸上競技研究	2本
日本トレーニング科学会	1本

## 鯉川なつえ

②

長距離ランナーの鉄欠乏とラクトフェリン：鯉川なつえ，  
体育の科学， vol65(1) 6-10, 2015.1.

DHAの摂取が大学スポーツ選手の視覚機能に及ぼす影響：河村剛光，村上茂樹，越川一紀，青木和浩，鈴木良雄，鯉川なつえ，阿部正明，田中明雄，澤木啓祐，日本臨床スポーツ医学会誌 vol23(3)，519-527, 2015.5

④

女性アスリートのためのスポーツ医学を考える (シンポジウム)：鯉川なつえ，小笠原悦子，鈴木志保子，桜庭景植，松田貴雄，第70回日本体力医学会プログラム予稿集，103, 2015.9

女性としてのアスリート活動 (シンポジウム)：鯉川なつえ，千葉麻美，福本 幸，赤羽有紀子，日本陸上競技学会第14回大会，P12, 2015.11

大学女子駅伝ランナーにおける Female Athlete Triad のリスク調査：平尾朋美，鯉川なつえ，鈴木志保子，桜庭景植，日本陸上競技学会第14回大会，P30, 2015.11

成長期女子アスリートのエネルギー不足は体重増加曲線ソフット・アプリから判断する，鯉川なつえ，松田貴雄，後藤美奈，佐藤弘樹，関口晃子，伊藤真紀，小笠原悦子，女性スポーツ医学研究会学術集会抄録集，P11, 2015, 12

⑤

女性アスリートへのサポートを考える：コーチング・クリニック 3月号，18-21, 2015.1

Women's SHARE and Sports 6月増刊号 Vol11, 106-109, 2015, 6

ランの未来学「RUN & EATの未来予想図」，Number Do, vol23, 62-65, 2015.10

突撃！研究室訪問：コーチング・クリニック 2月号，83-85, 2015, 12

⑥

(講演および講習会)

2020年東京五輪に向けた日本学連の強化策を考える：日本学生陸上フォーラム2015(第60回指導者会議)パネリスト，2015.2.28

女性アスリートのコンディショニング Up date：第4回千葉県アスレチックトレーナー研究会特別講演，2015.4

女性の体力・運動能力の特徴と運動：公益財団法人健康・体力づくり事業財団，健康運動指導士養成講習会，2015.5

女子選手の育成と支援：公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者養成講習会，2015.7

(公開講座)

女性アスリートのコンディショニング：読売教育ネットワーク，2015.10

成長スパートを見逃すな！～女性アスリートのヘルスサポート～：順天堂大学スポーツ健康科学部公開講座，2015.11.1

(テレビ解説)

第33回全国都道府県対抗女子駅伝：解説，NHK，2015.1.11

第36回まつえハーフマラソン兼第18回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会：解説，フジテレビ，2015.3.15

第27回全国高校女子駅伝：解説，NHK，2015.12.

(論文査読)

論文査読「陸上競技研究」

## 中村 恭子

## ①

1. 宮本乙女・中村恭子・中村なおみ編著者代表『みんなでトライ！表現運動の授業』全国ダンス・表現運動授業研究会編，大修館書店（東京），2015.1
2. 中村恭子：エスニックダンス，フォークダンス．中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則他編『21世紀スポーツ大事典』スポーツ種目，分担著，大修館書店（東京），pp1011-1012, p1232, 2015.1
3. 中村恭子：中学校の実態調査：ダンス男女必修化に伴う変容と課題．猪崎弥生他編『ダンスとジェンダー 多様性ある身体性』分担著，一二三書房（東京），pp102-119, 2015.12

## ②

- 宮本乙女・中村恭子：体育系大学における中学校ダンス必修化に対応したダンス指導法授業の検討—ダンス指導法授業を受講した学生の意識の変容を通して—．日本女子体育大学紀要 45, pp141-153, 2015.3

## ③

- 中村恭子，広沢正孝，細見 修，山倉文幸，鈴木利人：精神科リハビリテーションにおけるスポーツ活動の有効性—生理的ストレス反応の評価—．科学研究費助成事業研究成果報告書．2015.6

## ④

1. 宮本乙女，鈴木直樹，中村恭子，中村なおみ，奥野知加，笠井里津子，津田博子，平田利矢子，高野美和子：教員養成課程・教職課程におけるダンスの指導法に関するカリキュラム論的検討．日本体育学会第66回大会予稿集（東京）p369, 2015.8
2. 中村なおみ，宮本乙女，中村恭子：「問いかけ」（学級全体への発問）をとらえなおすダンス授業の研究—主体的探究的な学習を引き出すための問いかけ，動きで応える相互作用の分析—．日本体育学会第66回大会予稿集（東京）p386, 2015.8

## ⑤

1. 中村恭子：足ジャンケンからヒップホップへ・ロック

のリズムで「8・8・16・止・止」～動きやリズムに変化をつけて，ひとまとまりのフレーズで踊る～．女子体育 57(8・9), pp68-73, 2016.7

2. ダンスコン「自分たちらしさを」審査員・中村恭子さん．インタビュー記事，朝日新聞デジタル，<http://www.asahi.com/articles/ASH5M44B5H5MUTTO001.html> 2015.5.22
3. 子どもたちの創意が見たい．第3回全日本小中学生ダンスコンクール審査員座談会，朝日新聞2015.10.10朝刊．

## ⑥

1. 東京都女子体育連盟ダンス発表会（東京）審査員．2015.3.1
2. 全国ダンス・表現運動授業研究会春季研修会（東京）講師．2015.3.27・28
3. 東京都女子体育連盟ダンス講習会（東京）講師．2015.6.28
4. 女川体操「サンマ DE サンバ」制作（宮城県女川町）指導．2015.7.30
5. 朝日新聞社主催・全日本小中学生ダンスコンクール，審査員．東日本大会（東京）2015.8.13～15，西日本大会（兵庫）2015.8.19・20，全国大会（東京）2015.9.13
6. SAKAE リバーサイド・フェスティバル2015「第3回ダンスコレクション in SAKAE」（千葉）ダンス部5位入賞，指導．2015.8.22
7. （公財）日本体育施設協会公認スポーツプログラマー養成講習会（東京）専門科目・エアロビックダンス講師．2015.9.16
8. 第49回全国女子体育研究大会（東京）大学分科会指導助言者．2015.11.6
9. 千葉県教育委員会主催千葉県学校ダンス発表会（千葉）講師．2015.11.25
10. 比較舞踊学会第26回大会（東京）一般研究発表座長．

2015.11.29

11. 千葉県女子体育連盟研究発表会(千葉)指導助言者.  
2014.12.1
12. 学会誌等の査読:比較舞踊研究5編,(公社)日本女子体育連盟学術研究1編.

**中村 充**

②

Kiyoshi Ito, Nobuyoshi Hirose, Naoya Maekawa, Masahiro Tamura, Mitsuru Nakamura. Alterations in Kumite Techniques and the Effects on Score Rates following the 2013 International Judo Federation Rule Revision. Archives of Budo, Vol 11, 2015.

⑥

中村 充「一本」剣道日本, 14, 2014.2.

千葉県社会体育協会公認指導員講習会「コーチの役割」  
「指導計画と安全管理」講師(2015.8)

**原田 睦巳**

③

**【報告書】**

第28回ユニバーシアード競技大会 日本代表選手団報告書  
原田睦巳・坂本周次・岡田修司  
(公財)日本オリンピック委員会 活動報告書 213-222  
(2015.10)

④

**【研究発表】**

Nobuyoshi Hirotsu, Mutsumi Harada, Minoru Kano (2015):  
A Method for Calculating Probability of Scores for Men's Team Competition in Artistic Gymnastics, Proceedings of the 12th International Symposium on Operations Research and its Applications in engineering, technology and management (ISORA 2015), 66-69. (査読付国際学会発表)

⑥

**【講師等】**

柴町オリンピックフェスタ「誰もがオリンピックを目指し

て」講師(2015.3)

順天堂大学公開講座(親子体操教室)講師(2015.11)

**【その他】**

第29回日本体操競技・器械運動学会大会 一般研究発表  
座長(2015.12)

**廣瀬 伸良**

②

1) 剣道の正面打撃動作に関する研究 一腰の移動に着目  
して—  
大野達哉, 中村 充, 中野雅貴, 廣瀬伸良  
武道学研究第47巻第2号 p85-101. 2015

2) Alterations in Kumite Techniques and the Effects on  
Score Rates following the 2013 International Judo Federa-  
tion Rule Revision  
Kiyoshi Ito, Nobuyoshi Hirose, Naoya Maekawa, Masa-  
hiro Tamura, Mitsuru Nakamura  
Archives of Budo: 11(1). 87-92. 2015

3) 東京学生柔道連盟登録選手における *Trichophyton tonsu-  
rans* 感染症の感染対策(2008年-2013年)に関する研究  
貞政裕子, 廣瀬伸良, 比留間政太郎, 池田志孝  
皮膚の科学: 第14巻第2号57-61. 2015

4) 2013年全日本選抜体重別選手権大会を対象とした柔道  
選手の競技力の評価指標の検討  
前川直也, 石井兼輔, 越野忠則, 矢崎利加, 伊藤 潔,  
金持拓身, 田村昌大, 廣瀬伸良  
千葉体育学研究第37巻17-23. 2015

③

1) 柔道指導者における柔道競技力の主観的指標の国際比  
較  
前川直也, 廣瀬伸良, 柏崎克彦, 石井謙輔, 越野忠則,  
矢崎利加  
武道・スポーツ科学研究所年報第20号 1-6. 2014

④

1) 柔道コーチによる柔道競技力の評価重点項目の国際比  
較

前川直也, 廣瀬伸良, 伊藤 潔, 柏崎克彦, 石井兼輔,  
越野忠則, 矢崎利加, 大島修次  
日本体育学会第66回大会予稿集 p. 293

- 2) 柔道競技における中断時間の有効な行動選択についての考察  
高田博文, 前川直也, 田村昌大, 日向野奏彬, 廣瀬伸良  
武道学研究第48巻別冊 p36.
- 3) 柔道競技における前回り受け身についての一考察  
日向野奏彬, 菅波盛雄, 前川直也, 田村昌大, 高田博文, 廣瀬伸良  
武道学研究第48巻別冊 p41.
- 4) 柔道選手の練習前後における血液成分の変化の検討  
田村昌大, 平山 哲, 上野 剛, 笹本健太, 長尾侑紀,  
小野塚麻里, 杉原匡美, 川上智弘, 坂本大記, 廣瀬伸良, 三井田孝  
臨床病理 第63号補冊 2015 P107

## 山崎 一彦

### ②

特集企画：山崎一彦, 「今, なぜタレントトランスファーなのか」, 陸上競技紀要, 第10巻, p-26-28, 2014, 2015年3月発行

### ③

- 1) 資料：渡邊將司, 森丘保典, 伊藤静夫, 三宅 聡, 森泰夫, 山崎一彦, 榎本靖士, 遠藤俊典, 木越清信, 繁田進, 尾縣 貢, 「日本代表選手におけるスポーツ・種目転向(トランスファー)の特徴—日本代表選手に対する軌跡調査—」, 第10巻, p13-21, 2014, 2015年3月発行
- 2) 成果報告書：エリートアスリートのパフォーマンス向上の要因, 福岡大学研究部論集, 推進研究プロジェクト成果報告書, Vol. 2, 2015, 3, p200-204.
- 3) 資料編集者及び執筆：2015競技者育成プログラム, 日本陸上競技連盟, 第3章 (p16-19), 第5章 (p28-38), 第6章. 4. (p50-53), 第7章. 2., 3. (p55-56), 4月
- 4) 報告：大橋祐二, 山崎一彦, 第9回世界ユース陸上競技選手権大会, 陸上競技研究, No. 4, 103, p43

### ④

- 1) 発表：野呂啓晃, 宮本 彩, 安部孝駿, 山崎一彦, 柳谷登志雄, 「400 mH 走選手のハードリング動作に関する研究」第28回日本トレーニング科学会大会, 11月15日
- 2) 発表：山中 亮, 松林武生, 佐伯徹郎, 榎本靖士, 山崎一彦, 杉田正明, 「高校トップレベル男子長距離走者のパフォーマンスと体幹下部の筋サイズ, 最大酸素摂取量およびランニングエコノミーの関係」, 第12回 JISS スポーツ科学会議, 12月10日

### ⑤

- 1) 専門誌：「U19ダイヤモンドアスリート海外研修合宿報告」, p94-96, 月刊陸上競技, 4月号 (3月発刊)
- 2) 専門誌：「第9回世界ユース選手権報告」, 月刊陸上競技, p114-120, 9月号 (8月発刊)
- 3) 専門誌：「ダイヤモンドアスリート」2年目の強化方針とプログラム概要, 月刊陸上競技, p66-69, 2016年1月号 (12月発刊)

### ⑥

- 1) テレビ解説 (NHK)：「織田記念陸上」, 全国放送, 4月19日
- 2) テレビ解説 (NHK)：「日本陸上競技選手権」全国生放送, 全国録画放送, 6月26, 27, 28日
- 3) テレビ解説 (NHK)：「全国高校総体」全国生放送, 7月30, 31日
- 4) テレビ解説 (NHK)：「国民体育大会」, 全国生放送, 10月3, 4日
- 5) テレビ解説 (東海テレビ)：「日本ジュニア・ユース選手権大会」東海関西エリアおよび全国放送 (録画), 10月18日
- 6) シンポジウム：「オリンピックによるパネルディスカッション」明海大学, 11月1日
- 7) シンポジウム：箱根駅伝シンポジウム, 読売新聞, 11月19日

- 8) 講義:「一歩踏み出そう」, 日本陸連オリンピック育成競技者長距離指導者研修会, ナショナルトレーニングセンター, 2月9日
- 9) 講演:「2020東京オリンピックに向けた日本陸上競技連盟の強化方針」, 日本学連, 東京, 2月28日
- 10) 講義:「コーチング」, U19ジュニア研修合宿, 高知県, 3月
- 11) 講義:「全てが育成に通じ, 全ては強化に通ず」～強化育成の考え方～, JOC ナショナルコーチアカデミー, ナショナルトレーニングセンター, 6月22日
- 12) 講義:「日本陸連オリンピック育成競技者指導者研修会」, ナショナルトレーニングセンター, 11月24日
- 13) 講義:「東京オリンピックプロジェクト経過報告」, 日本陸連全国強化責任者会議, 11月27日
- 14) 講演:「大分から世界へ～ジュニア世代から才能を伸ばすためには」, 大分県スポーツ学会, 大分市, 第7回学術集会, 12月13日
- 15) 講義:「関東から東京オリンピックへ」(競技者対象), 全国高体連関東高校選抜合宿, 群馬, 12月27日
- 16) 講義:「関東から東京オリンピックへ」—ジュニア世代から才能を伸ばすためには—, 全国高体連関東高校選抜合宿参加指導者, 群馬, 12月27日
- 17) インタビュー記事:「小泉進次郎が若手アスリートに託した言葉」東京五輪に向けて平等主義を捨てた日本陸連, 日経ビジネス, 12月7日  
<http://business.nikkeibp.co.jp/atcl/opinion/15/221102/120400119/>
- 18) インタビュー記事:オリンピック関連, 西日本新聞, 3面, 1月1日
- 19) インタビュー記事:「世界目指せる原石磨く」, 読売新聞, 24面, 2月27日(全国版)
- 20) インタビュー記事:300人リレーコラム, 日刊スポー

ツ, 3月11日(全国版)

21) インタビュー新聞記事:「種目替え「原石磨け」」読売新聞, 26面, 5月12日(全国版)

22) 記事:第92回箱根駅伝シンポジウム, 読売新聞, 23, 24面, 12月9日(全国版)

## 准教授

### 中嶽 誠

④

1. 中嶽 誠, 木藤友規. バスケットボール競技における長身者の2ポイントフィールドゴールでの有利性. 日本体育学会第66回大会. 2015年8月. 東京; 国土館大学

2. 丸山麻子, 櫻庭景植, 鈴木良雄, 中嶽 誠. 大学男子バスケットボール選手における栄養状態と骨量および骨代謝関連マーカーとの関係. 第17回日本骨粗鬆症学会. 2015年9月. 広島; 広島国際会議場

⑥

1. 第20回成田市スポーツ教室講師. 2015年2月

2. 文京区こどもの体力向上推進事業講師. 2015年3月.

3. 公開講座「高校バスケットボール公式大会に向けたコーチミーティング」. 2015年11月.

### 仲村 明

⑤

1. Gsport, 2016新春号, 60号, p13 (2015)

2. 箱根駅伝2016完全ガイド, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン1月号増刊 p51 (2015)

3. 箱根駅伝速報号, ベースボールマガジン社, 陸上競技マガジン2月号増刊 p49 (2016)

### 堀池 巧

①

MAEHANA Hirofumi, IGUCHI Yuki, HORIIKE Takumi,



KOSHIYAMA Kenichi, YOSHIMURA Masafumi. Effects of different visual class on agility in the visually impaired soccer players. The 2nd Congress, International Academy of Sportology. Juntendo Med J Suppl, 2016. (印刷中)【査読無】

④

MAEHANA Hirofumi, KOSHIYAMA Kenichi, HORIIKE Takumi, YOSHIMURA Masafumi. A trial of side step test for visually impaired children. International Symposium on Children and Adolescents: Fitness Levels and Active Lifestyles. Exercise Physiology & Biomechanics, 9. Chiba, Japan. 21/11/2015. (Poster)

⑤

- 1) 義務づけられた優勝とシルバーコレクターという呪縛. S-PULSE NEWS 9号, vol. 208.
- 2) 大学出身の日本代表とJリーガーを, もっと育てたい. CS-Column Number 600.
- 3) 多くの選択肢を与えて, 応援すること. サカイク 2015.07.
- 4) 子どもと一緒に考えてあげることが大切. サカイク 2015.07.

⑥

(外部資金)

第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会一回戦勝利に伴う給付金 2015.10

## 助教

青葉 幸洋

④

河村剛光, 中田 学, 窪田敦之, 青葉幸洋, 青木和浩, 村上茂樹. 打撃練習またはボールを追従視するトレーニングが打撃能力と視覚機能に及ぼす影響—球速と球種に着目して—. 第22回スポーツビジョン研究集会

⑥

査読: 順天堂大学スポーツ健康科学研究 1編  
講演: 順天堂大学コーチングワークショップ  
公開講座: 順天堂大学公開講座(親子サッカー)

大島スポーツフェスティバル

## 窪田 敦之

②

藤田芳正, 桜庭景植, 窪田敦之, 藤田真平, 青木和浩, 福士徳文. 高校男子サッカー選手における足趾把持筋力とターン動作時の足底圧分布の関係. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌. 35(1): 47-51, 2015

Wada Y, Sakuraba K, Kubota A. Effect of the long-term care prevention project on the motor functions and daily life activities of the elderly. J Phys Ther Sci. 27(1): 199-203, 2015

Ishikawa K, Omori K, Obinata M, Mshima K, Osaka H, Oode Y, Kubota A, Sakuraba K, Yanagawa Y. A field survey of spinal cord injury in bodyboaders. Am J Emerg Med. 33(1): 112-113, 2015

④

【国外学会発表】

Wakamatsu K, Sakuraba K, Fujita S, Sanomura M, Mukai-moto T, Kubota A. Effect of performance characteristics on bone metabolism in female collegiate athletes. American College of Sports Medicine 62 Annual Meeting. 2015.5. San Diego.

Nakaniida A, Kubota A, Shikakura J, Tsujita J, Sakuraba K. Physical activities for elders; new approach for day care in japan. American College of Sports Medicine 62 Annual Meeting. 2015.5. San Diego.

Endo S, Kubota A, Sakuraba K. The effect of cooling on muscle weakness and muscle atrophy caused by detraining. The 20th annual Congress of the European Collage of Sport Science. 2015.6. Malmö

【国内学会発表】

窪田敦之, 桜庭景植, 遠藤慎也, 洪 定男, 梶原 一. 血流制限下で行う他動的運動のトレーニング効果. 第41回日本整形外科スポーツ医学会学術集会. 2015.9. 京都

桜庭景植, 藤田真平, 窪田敦之, 鯉川なつえ, 和気秀文, 鈴木良雄, 山澤文裕. 女性トップアスリートに対する医科

学サポート～疲労骨折を中心に～. 第70回日本体力医学会大会. 2015.9. 和歌山

中新井田敦子, 窪田敦之, 鹿倉二郎, 辻田純三, 櫻庭景植. Physical Activities for Elders; Its Effect at Day Service in Japan. 第70回日本体力医学会大会. 2015.9. 和歌山

藤田真平, 桜庭景植, 山澤文裕, 窪田敦之. 女子長距離選手における疲労骨折の発症が尿中I型コラーゲン架橋Nテロペプチド(u-NTX)に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会. 2015.9. 和歌山

岸本康平, 桜庭景植, 窪田敦之, 藤田真平. 求心性収縮運動及び遠心性収縮運動による均衡度変化の相違. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2015.11. 神戸

遠藤慎也, 桜庭景植, 窪田敦之, 鹿倉二郎, 鈴木良雄. 血流制限が脱トレーニングによって生じる筋力低下および筋萎縮に及ぼす影響. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会. 2015.11. 神戸

鈴木 恒, 桜庭景植, 梶原 一, 鹿倉二郎, 窪田敦之. 成長期サッカー選手におけるストレッチング実施タイミングと大腿前面の柔軟性改善効果. 第26回日本臨床スポーツ医学会. 2015.11. 神戸

藤田真平, 桜庭景植, 若松健太, 窪田敦之, 山澤文裕. 女子長距離選手の疲労骨折の発生要因に関する研究～骨代謝動態, 身体組成, 月経状況に着目して～. 第29回女性スポーツ医学研究会. 2015.12. 東京

⑤  
窪田敦之, 桜庭景植. 正しいストレッチング実施のポイント. 保健ニュース. 78: 8-9, 2015

⑥  
論文査読: Clin Physiol Funct Imaging. 1編

順天堂大学スポーツ健康科学部公開講座「ヒトをはかる! ～身体とところ～」講師. 2015.11. 印西

成田市介護予防普及啓発事業「シニア元気アップ教室」講師. 2015.10-11. 成田

## 高梨 雄太

④  
砲丸投におけるスローイングベンチプレスの有効性. 黒田彰裕, 坂本彰宏, 高梨雄太. 日本陸上競技学会第14回大会. 平成27年11月28日. 日本女子体育大学.

男子やり投における試技開始前準備動作の調査. 山瀬貴雅, 高梨雄太, 佐久間和彦. 日本陸上競技学会第14回大会. 平成27年11月28日. 日本女子体育大学.

## 鷹見由紀子

- ⑥
- 1) Vメシ! JAPAN (フジテレビ) 2015.5.10放送
  - 2) 西日本新聞 2015.5.28記事掲載
  - 3) 西日本スポーツ新聞 2015.5.29記事掲載
  - 4) NEWS ZERO (日本テレビ) 2015.6.4放送
  - 5) WEDGE Infinity「あの負けがあつてこそ」2015.12.1記事掲載
  - 6) 全日本剣道連盟女子強化訓練講習会 2015.12.3～6 講師

## 武田 剛

④  
武田 剛, 酒井 紳, 鈴木大地: ワイヤレスLEDマーカーを用いた競泳スタートの水中運動情報収集の試み 日本コーチング学会第26回大会兼第8回日本体育学会体育方法専門領域研究会 演題番号 POS-57 大阪: 大阪体育大学 2015年3月7日

⑥  
順天堂大学社会連携プロジェクト 体力向上アドバイザー 講義 (文京区礪川小学校): 「児童の体力向上の手立て, 運動実施の手立て」2015年2月13日

順天堂大学社会連携プロジェクト 体力向上アドバイザー 講義 (文京区林町小学校): 「児童の体力向上の手立て, 運

動実施の手立て」2015年2月20日

順天堂大学社会連携プロジェクト 体力向上アドバイザー  
講義 (文京区礪川小学校):「小学校水泳指導のポイント」  
2015年9月16日

## 富田 洋之

②  
「児童の学力, 体力, 身体組成の向上に寄与する生活習慣  
と活動量を解明するコホート研究」研究課題番号:  
26350844 (科研費基盤研究 (C):平成26年4月~平成29  
年3月)

④  
・第70回日本体力医学学会 県民公開講座「五輪と体操競  
技」

⑤  
・スポーツ報知 インタビュー  
・読売新聞 富田洋之の眼

⑥  
・NHK「スポーツ酒場」収録  
・アジア選手権 解説  
・ボートレース ゲスト出演  
・日本テレビ「power フレーズ」ナレーション収録

## 講演・実技指導

- ・籠町小学校 講演会・実技指導
- ・大阪国際マラソン ゲスト
- ・杉並区「スーパーキッズ講座」講演会・実技指導
- ・長峰小学校 第1回研究報告会
- ・日比谷区 オリンピアン・パラリンピアンによるトーク  
セッション  
題目「未来に夢を. オリンピック・パラリンピックに向  
けて私たちができること」
- ・長峰小学校 第2回研究報告会

## その他

- ・世界体操競技選手権大会 国際技術委員
- ・豊田国際体操競技大会 大会審判長

## 中田 学

④  
河村剛光, 中田 学, 窪田敦之, 青葉幸洋, 青木和浩, 村  
上茂樹. 打撃練習またはボールを追従視するトレーニング  
が打撃能力と視覚機能に及ぼす影響—球速と球種に着目し  
て—, 第22回スポーツビジョン研究会 東京都, 2015.

村上茂樹, 河村剛光, 白石安男, 青木和浩, 中田 学, 濱  
野礼奈, 澤木啓祐. スポーツ系大学生におけるドライアイ  
の現状とその問題点. 第26回日本臨床スポーツ医学会学術  
集会 兵庫県, 2015.

⑥  
7月5日 仙台オープンキャンパス 公開講座バレーボー  
ルクリニック  
11月1日 オープンキャンパス 公開講座バレーボールク  
リニック  
2~12月 毎週火曜 バレーボール教室 (小・中学生)  
毎週木曜 J・Uジュニアチーム指導

## 中丸 信吾

④  
1. 中丸信吾. キャンプ経験が大学生の自己概念に及ぼす  
影響. 野外教育学会第18回大会, 2015年6月

⑥  
1. 文京区体力向上アドバイザー 講演, 2015年3月  
2. 中央区教育委員会 オリンピック・パラリンピック教  
育実践校 (コーディネーショントレーニングモデル実践  
校) 校内研修 講師, 2015年4月~2016年3月  
3. 千葉県消防学校初任科教育 講師「ストレッチング・  
体ほぐしの運動」, 2015年4月  
4. JOC エリートアカデミーキャンプ 講師, 2015年5  
月  
5. 習志野市こども健康大学 講師「レクリエーション」,  
2015年8月  
6. 千葉県社会体育公認指導員等養成講習会 講師「対象

に合わせたスポーツ指導」, 2015年8月

7. 順天堂大学スポーツ健康科学部公開講座 講師「チームの雰囲気ガラッと変えるレクリエーションを学ぼう!」, 2015年11月

## 助手

### 高木 邦義

②

高木邦義. 保健分野における学習評価テストに関する検討. 順天堂大学大学院修士論文.

⑥

全国体育系大学学長・学部長会主催シンポジウム. 2020年に向けキック・オフ. 運営委嘱.

### 中野 雅貴

⑥

1. 運動競技者における歩行についての研究測定 (2015年1-4月, 順天堂大学)
2. 春季千葉県学生剣道大会 審判員 (2015年6月6日, 千葉)
3. 秋季千葉県学生剣道大会 審判員 (2015年10月31日, 千葉)

### 平尾 朋美

④

平尾朋美, 鯉川なつえ, 鈴木志保子, 桜庭景植. 大学女子駅伝ランナーにおける Female Athlete Triad のリスク調査. 日本陸上競技学会第14回大会, 2015年11月

⑥

順天堂大学公開講座. 成長スパートを見逃すな~女子アスリートのヘルスサポート~. 2015年11月

## 〔スポーツマネジメント学科〕

### 教授

### 小笠原悦子

①

原田宗彦・小笠原悦子共編著 (2015) スポーツマネジメント (改訂版). 第2章スポーツマネジメントの発展」小笠原悦子・伊藤真紀共著 (pp. 27-49), 「第8章トップスポーツ選手のマネジメント (pp. 172-192)」小笠原悦子・伊藤真紀共著. 大修館書店: 東京.

④

1. Arai, A., Ogasawara, E., Watanabe, N., and Itoh, M. (2015). Career Decision-Making Process of Japanese Olympians: Factors Influencing Female Olympians to Be Elite Coaches. The 23rd EASM Conference, Dublin, Ireland, September 10. 2015.
2. Ogasawara, E. & Kurosu, M. (2015). Japanese Situation in Sport for All: Issues and Challenges The 11th Asia Association for Sport Management Conference Proceedings. Asian Summit Forum of Sport Management, Kaohsiung, Taiwan, June 25. 2015. pp. 73-81.
3. Watanabe, N., Ogasawara, E., Arai, A., and Itoh, M. (2015). The Predictors of Coaching Career of Japanese Olympians. The 11th Asian Association for Sport Management Conference AASM 2015, Langkawi, Malaysia, August 26. 2015.
4. 藤崎真琴・小笠原悦子・笠原聡美 (2015). FIFA 女子サッカー発展のための10の重要方針. スポーツマネジメント学会第8回大会号, p. 45.
5. 菅野春奈・小笠原悦子・河野 洋 (2015). 日本バスケットボールリーグの観戦者調査: スポーツ観戦における経験価値尺度 (EVSSC) を用いて. スポーツマネジメント学会第8回大会号, p. 52.
6. 北川純也・小笠原悦子・伊藤真紀 (2015). CoachDISC の有用性に検討: Leadership Scale for Sports との相関. スポーツマネジメント学会第8回大会号.

7. 渡邊夏美・小笠原悦子・新井彬子・伊藤真紀 (2015). 女性のコーチングキャリア選択に関わる要因の検討: 元オリンピックを対象としたコーチ経験による比較検討. スポーツマネジメント学会第8回大会号, p. 31-32.
8. 鯉川なつえ・松田貴雄・後藤美奈・佐藤弘樹・関口晃子・伊藤真紀・小笠原悦子 (2015). 成育期女子アスリートのエネルギー不足は体重増加曲線ソフト・アプリから判断する. 第29回女性スポーツ医学研究会学術集会抄録集. p. 11.
9. 尾崎理恵・北出真理・佐藤雄一・長井咲樹・竹田省・金子晴香・佐藤郁子・鯉川なつえ・小笠原悦子・桜庭景植 (2015). 当院の女性アスリート外来に通う患者の現状～月経異常と骨密度低下を中心に～. 第29回女性スポーツ医学研究会学術集会抄録集. p. 14.

## ⑤

女性スポーツ発展へ. 東京中日スポーツ, 2015年11月11日. p. 20. 掲載

## ⑥

山口 香・小笠原悦子・清水 論・友添秀則 (2015). 女性がスポーツする際に起きること. 現代スポーツ評論, 33. pp. 16-35.

## 黒須 充

## ①

水上博司, 黒須 充: 総合型地域スポーツクラブ～認定NPO法人クラブネットの中間支援活動～. 子どもNPO白書2015 (特定非営利活動法人日本子どもNPOセンター編), 164-171, エイデル研究所, 2015年9月.

## ②

- 蓮沼哲哉, 黒須 充, 福田 慶: 公益社団法人日本トライアスロン連合「強化拠点」が担う地域スポーツクラブとしてのトライアスロンの普及・発展・強化に関する研究. 桜門体育学研究 50(1): 19-30, 2015.
- 蓮沼哲哉, 安田俊広, 黒須 充 (2015) 飯館地区仮設小学校に通う児童の体力低下とその改善を担う体育活動支援のあり方に関する研究, 福島大学総合教育研究センター紀要第20号: 24-36, 2015.

## ③

黒須 充 (委員長). 持続可能な総合型地域スポーツクラブを目指して, 平成26年度文部科学省委託事業「スポーツを通じた地域コミュニティ活性化促進事業」報告書, 公益財団法人日本体育協会, 1-92, 2015年3月.

## ⑥

1. 体育学研究 査読
2. スポーツ社会学研究 査読

## 須藤 路子

## ②

Sudo, Michiko M. and Kaneko, Ikuyo (2015) A “Critical Period” in second language acquisition reconsidered: Production patterns and listening/reading proficiencies of Japanese learners. *Journal of the Phonetic Society of Japan*, 19(3), 24-36.

## ④

1. 須藤路子・金子育世 (2015) 「海外在住経験のない英語上級学習者と帰国生の英語習熟度の比較—英語母音の compensatory shortening と聴解力・読解力の観点より—」『日本音響学会講演論文集』341-342.
2. 望月明人・須藤路子・伊藤憲治・桐野衛二 (2015) 「情動課題処理における運動の社会認知・言語能力に与える影響」『体力科学』64(6), 650.

## ⑥

1. 順天堂大学スポーツ健康科学部 公開講座2015 「英語のPronunciation Clinic—伝わる英語の話し方—」

## 先任准教授

## 大野 早苗

## ②

1. 大野早苗 (2015) 「ある台湾人医学部留学生の初年次の記録—日本語で学ぶにあたって何に苦勞し, どう解決したか—」CAJLE2015 Proceedings, pp. 232-241

## ③

1. 大野早苗 (2015) 「ディベートの型を用いた文章表現指導の試み」『リメディアル教育研究』第10巻2号, pp.

102-107

④

1. 大野早苗 (2015) 「ある台湾人医学部留学生の初年次の記録—日本語で学ぶにあたって何に苦労し、どう解決したか—」 CAJLE Annual Conference 2015, 於 サイモンフレーザー大学
2. 大野早苗・莊 嚴 (2015) 「中国人留学生が母国で学んだ作文の書き方—作文参考書の利用についてのインタビューから—」 日本語教育学会2015年度第7回研究集会, 於 香川大学

⑥

1. 『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』第7号 (日本語教育学会アカデミック・ジャパニーズ・グループ) 編集委員・アドバイザー (2015.7)
2. 朝日カルチャーセンター日本語教師養成講座講師 (文法) (2015.4-6)
3. 朝日カルチャーセンター日本語教育能力検定試験対策講座講師 (日本語の構造) (2015.9)
4. 『言語文化と日本語教育』第50号 (お茶の水女子大学 日本言語文化学会) 「『言語文化と日本語教育』50号刊行に際して—元教員・教員・修了生からのメッセージ」寄稿 pp. 15-16 (2015.12)

## 金子 育世

②

Sudo, M., M., & Kaneko, I. (2015). A “Critical Period” in second language acquisition reconsidered: Production patterns and listening/reading proficiencies of Japanese learners. *Journal of the Phonetic Society of Japan*, 19(3), 1-13.

④

須藤路子・金子育世 (2015). 「海外在住経験のない英語上級学習者と帰国生の英語習熟度の比較—英語母音の compensatory shortening と聴解力・読解力の観点より—」 『日本音響学会2015年春季研究発表会講演論文集』 341-342.

Nagasaki, M., Orimoto, S., & Kaneko, I. (2015). Promoting

EFL learners' speaking ability using rehearsal and developing meaningful assessment. *AAAL Toronto 2015, Annual Conference Program Book*, 76.

⑥

【査読】  
情報文化論

## 神原 直幸

②

1. 朴 恩貞・神原直幸・北村 薫 : 「バンクーバー冬季オリンピック新聞報道の日韓比較研究」 順天堂スポーツ健康科学研究 第6巻2号, pp. 96-105 2015

③

1. 萩原寿枝・広沢正孝・神原直幸 : 「企業における管理監督者の対応と精神不調者の回復状況との関連—情報通信業の一企業における相談記録の分析から—」 順天堂スポーツ健康科学研究 第6巻2号, pp. 106-110 2015

## 工藤 康宏

①

1. 工藤康宏 : 第23章 「スポーツツーリズム」, 原田宗彦 編著 : スポーツ産業論第6版第1刷, 杏林書院, 302-312, 2015年4月10日.

2. 工藤康宏 : 第1章 スポーツツーリズムとは何か, 一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構編 : スポーツツーリズムハンドブック, 12-19, 2015年8月10日.

④

1. 上杉 杏・工藤康宏 : 参加型海外スポーツイベントにおける外国人観光客の消費行動および参加制約要因—日本のインバウンド拡大に向けて—, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日

2. 大塚桃瑚・工藤康宏 : 運動部活動におけるフォロワーシップがチーム成績に与える影響について, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日

3. 岡村奈奈・工藤康宏 : 地域スポーツイベント開催地住民の地域愛着とソーシャル・キャピタル, —チャレンジ

- デーを対象として—日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
4. 佐藤有里子・工藤康宏:トレイルランニング実施者のスポーツ歴とライフスタイルに関する研究, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  5. 塩川知良・工藤康宏:スポーツスタジアム愛着度と会場雰囲気について, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  6. 中村紘子・工藤康宏:女子小学生サッカー選手における活動の現状と継続意欲について, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  7. 野上咲子・工藤康宏:日本人における留学への意思決定過程とスポーツとの関係について—グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて—, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  8. 福本拓真・工藤康宏:民間フットサル施設におけるサービスクオリティに関する研究—個人利用者とチーム利用者を比較して—, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  9. 的場洋介・工藤康宏:アイデンティティ形成意識がランニングシューズの使用と消費に与える影響—ランナーのランニング活動と関与度に着目して—, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  10. 山田敏輝・工藤康宏:社会人におけるスポーツ参加のきっかけについて—社会人チームを事例として—, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  11. 山本純子・工藤康宏:アスリートにおけるエンドースメント契約と契約企業イメージ—国内外で活躍する選手に着目して—, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  12. 野川暁弘・工藤康宏:オリンピック・パラリンピックレガシーに関する研究—2020年東京オリンピックに着目して—, 日本女子体育連盟ウインターセミナー, 2015年2月11日
  13. 上田至海・市川雄大・塚本みなみ・廣田健一・山崎ひかり・工藤康宏:中高年男性の介護に対する意識調査—サッカーおじさんを対象に—, 日本生涯スポーツ学会第17回大会, 鹿屋体育大学, 2015年10月31日
  14. 塚越美紀・小林弘大・小森真帆・平松 純・工藤康宏:中高年男性のセカンドライフに対する意識調査—サッカーおじさんを対象に—, 日本生涯スポーツ学会第17回大会, 鹿屋体育大学, 2015年10月31日
  15. 上杉 杏・工藤康宏:日本の市民マラソンにおける外国人参加者の実態調査, 日本生涯スポーツ学会第17回大会, 鹿屋体育大学, 2015年11月1日
  16. 森川雄樹・松本耕二・渡辺泰弘・工藤康宏:ウルトラマラソン参加者の特性に関する研究—ランナーのランニングアディクションに着目して—, 日本生涯スポーツ学会第17回大会, 鹿屋体育大学, 2015年11月1日
  17. 山田亜沙妃・工藤康宏:日本人一流競技者における生まれ月分布—冬季オリンピック競技種目に着目して—, 日本生涯スポーツ学会第17回大会, 鹿屋体育大学, 2015年11月1日
- ⑥
1. ちばぎん総合研究所 Management Square 2015年3月号「ちば産業発達史—プロスポーツ」取材
  2. 国際貢献事業 SPORT FOR TOMORROW 鹿屋体育大学国際スポーツアカデミー (NIFISA) 第2回セミナー講師, 2015年8月8日
  3. 第3回 Japan Sport Network セミナー (愛知会場)「スポーツと地域活性化—スポーツを活用するには—」講師, 2015年11月11日
  4. 公益社団法人不動産学会シンポジウム「オリンピックと不動産」シンポジスト, 2015年11月14日
  5. 生涯スポーツ学研究 (日本生涯スポーツ学会) 査読
  6. イベント学研究 (イベント学会) 査読

## 水野 基樹

②

1. 水野基樹, 芳地泰幸, 山田泰行稿「チーム医療の実現に向けたチームビルディングの導入とその効果の検討: 看護業務における協同作業認識変容の視点から」『医療看護研究』Vol. 11, No. 2, 8-14頁, 2015年3月
2. 庄司直人, 森口博光, 本多里也子, 北村茉衣, 水野基樹, 北村薫稿「フィットネスクラブにおけるレジリエンス向上支援のためのガイドライン作成の取り組み」『産業保健人間工学会研究』Vol. 16, No. 1, 19-25頁, 2015年3月

③

1. Mizuno M., Yamada Y., Hochi Y., Honda R., Takahashi H., Shoji N., Aida H., Okada A., Mizuno Y. “Behavioral Sensor-Based Organizational Design and Management in Japan: From the Perspectives of Communication Channel in Nursing Organization”, Proceedings 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association.
2. Hochi Y., Yamada Y., Mizuno M. “Effects of the Organization Development of First-Year Experience and Developed Evaluation Scale in Japan: Focused on the Psychosocial Aspects among freshman of University”, Proceedings 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association.
3. Yamada Y., Ebara T., Shimizu T., Mizuno M. “Relationships between Work-Family Spillover, Compensation and Mental Health Condition among Japanese Nurses: Focusing on Multiple Roles Map Descriptions”, Proceedings 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association.
4. 「平成27年度 産業イベント調査報告書 (八千代どーんと祭り来場者アンケート調査報告書)」2015年11月
5. 科学研究費助成事業研究 基盤研究 (B) (研究課題番号: 26285089) 「看護組織における行動センサ解析を用いたコミュニケーションに関する経営学的研究」2014年度研究実施状況報告書

④

1. 「行動センサ技術を用いた電子バッジによる社会的シグナルに関する研究—看護組織におけるコミュニケーション経路の視点から—」第50回人類労働学会全国大会 (於: 大阪市立大学), 『第50回人類労働学会全国大会プログラム』59-60頁, 2015年6月  
報告者: 水野基樹, 山田泰行, 芳地泰幸, 本多里也子, 高橋季子, 庄司直人, 曾田秀子, 岡田 綾, 水野有希
2. 「フィットネスクラブを対象としたレジリエンス向上を目指すガイドラインによる介入—クラスターランダム化比較試験のリサーチデザイン—」第50回人類労働学会全国大会 (於: 大阪市立大学), 『第50回人類労働学会全国大会プログラム』61-62頁, 2015年6月  
報告者: 庄司直人, 森口博光, 河野 洋, 岩浅 巧, 高橋季子, 水野基樹
3. 「看護師の多重役割と精神的健康度の関連—多重役割マップ (質問票版) を用いた横断調査の展開」第50回人類労働学会全国大会 (於: 大阪市立大学), 『第50回人類労働学会全国大会プログラム』63-64頁, 2015年6月  
報告者: 山田泰行, 榎原 毅, 水野基樹
4. 「住民主体のまち興しの実現に向けて—地域イベントにおける着地型観光に関する調査—」第50回人類労働学会全国大会 (於: 大阪市立大学), 『第50回人類労働学会全国大会プログラム』12-13頁, 2015年6月  
報告者: 岩浅 巧, 庄司直人, 水野基樹
5. 「スポーツによるまち興しの可能性—地域住民のスポーツイベントに対する価値意識に関するフィールド調査—」第66回日本体育学会 (於: 国土館大学), 『日本体育学会第66回大会予稿集』122頁, 2015年7月  
報告者: 岩浅 巧, 庄司直人, 水野基樹
6. 「フィットネスインストラクターのレジリエンスの向上を促す経験に対する認知」第66回日本体育学会 (於: 国土館大学), 『日本体育学会第66回大会予稿集』145頁, 2015年7月  
報告者: 庄司直人, 森口博光, 岩浅 巧, 水野基樹
7. 「Behavioral Sensor-Based Organizational Design and Management in Japan: From the Perspectives of Communication Channel in Nursing Organization」IEA 2015 Triennial



- nal Congress (in The Melbourne Convention & Exhibition Centre, Melbourne, Australia), August, 2015  
 Authors: Mizuno M., Yamada Y., Hochi Y., Honda R., Takahashi H., Shoji N., Aida H., Okada A., Mizuno Y.
8. 「Relationships between Work-Family Spillover, Compensation and Mental Health Condition among Japanese Nurses: Focusing on Multiple Roles Map Descriptions」 IEA 2015 Triennial Congress (in The Melbourne Convention & Exhibition Centre, Melbourne, Australia), August, 2015  
 Authors: Yamada Y., Ebara T., Shimizu T., Mizuno M.
9. 「Effects of the Organization Development of First-Year Experience and Developed Evaluation Scale in Japan: Focused on the Psychosocial Aspects among freshman of University」 IEA 2015 Triennial Congress (in The Melbourne Convention & Exhibition Centre, Melbourne, Australia), August, 2015  
 Authors: Hochi Y., Yamada Y., Mizuno M.
10. 「Relationship between resilience and stress coping among Japanese university athletes」 IEA 2015 Triennial Congress (in The Melbourne Convention & Exhibition Centre, Melbourne, Australia), August, 2015  
 Authors: Kawata Y., Kamimura A., Yamada K., Izutsu S., Wakui S., Mizuno M., Hirosawa M.
11. 「An Approach to Make a Guideline to Support for Enhancing Resilience in Japanese Fitness Club」 IEA 2015 Triennial Congress (in The Melbourne Convention & Exhibition Centre, Melbourne, Australia), August, 2015  
 Authors: Shoji N., Moriguchi H., Honda R., Kitamura M., Iwaasa T., Mizuno M., Kitamura K.
12. 「A Field Study towards Revitalization of Aging Cities in Japan」 IEA 2015 Triennial Congress (in The Melbourne Convention & Exhibition Centre, Melbourne, Australia), August, 2015  
 Authors: Iwaasa T., Shoji N., Mizuno M.
13. 「マネジメントの役割が看護師にもたらす葛藤と恩恵」第20回産業保健人間工学会 (於：北浜フォーラム), 『産業保健人間工学研究』Vol. 17増補, 41-44頁, 2015年9月  
 報告者：山田泰行, 榎原 毅, 水野基樹
14. 「フィットネスクラブを対象とした従業員のレジリエンス向上を支援するガイドラインの効果検証に関する予備的研究」第20回産業保健人間工学会 (於：北浜フォーラム), 『産業保健人間工学研究』Vol. 17増補, 45-48頁, 2015年9月  
 報告者：庄司直人, 岩浅 巧, 高橋季子, 森口博充, 水野基樹
15. 「Introduction of diversity fault lines as antecedent to work stress」2nd Congress, International Academy of Sportology (in Juntendo University, Tokyo, Japan), PROGRAM & ABSTRACTS, p. 51, September, 2015  
 Authors: Iwaasa T., Shoji N., Mizuno M.
16. 「Relationship between assertion types and communication networks of a nursing organization at university hospital」2nd Congress, International Academy of Sportology (in Juntendo University, Tokyo, Japan), PROGRAM & ABSTRACTS, p. 52, September, 2015  
 Authors: Takahashi H., Mizuno M., Yamada Y., Hochi Y., Shoji N., Mizuno Y., Honda R.
17. 「Developing a guideline for collecting and using feedbacks in Japanese fitness club」2nd Congress, International Academy of Sportology (in Juntendo University, Tokyo, Japan), PROGRAM & ABSTRACTS, p. 53, September, 2015  
 Authors: Shoji N., Moriguchi H., Iwaasa T., Takahashi H., Mizuno M.
18. 「特別支援学校の教員における人的資源開発のニーズに関する研究」人類働態学会 第44回東日本地方会 (於：横浜 YMCA 専門学校), 『第44回人類働態学会東日本地方会大会プログラム』14頁, 2015年12月  
 報告者：山田泰行, 渡邊貴裕, 水野基樹
19. 「看護組織におけるダイバーシティマネジメントの現状と課題」人類働態学会 第44回東日本地方会 (於：横浜 YMCA 専門学校), 『第44回人類働態学会東日本地方会大会プログラム』15頁, 2015年12月  
 報告者：山田泰行, 清水輝子, 浅野優治, 榎原 毅, 水

野基樹

20. 「大学病院の看護師におけるアサーションのタイプとコミュニケーション経路に関する研究—行動センサによるコミュニケーション評価の技術を用いて—」人類働態学会 第44回東日本地方会（於：横浜 YMCA 専門学校）、『第44回人類働態学会東日本地方会大会プログラム』16-17頁，2015年12月

報告者：高橋季子，水野基樹，山田泰行，芳地泰幸，庄司直人，水野有希，岡田綾，曾田秀子

21. 「中学・高校生の部活動に対する満足感と不満足感に影響を及ぼす要因に関する予備的研究」人類働態学会 第44回東日本地方会（於：横浜 YMCA 専門学校）、『第44回人類働態学会東日本地方会大会プログラム』18-19頁，2015年12月

報告者：中島 豊，庄司直人，岩浅 巧，森口博充，佐川勇太，水野基樹

22. 「フォルトラインの発生状況に関する実証的研究」人類働態学会 第44回東日本地方会（於：横浜 YMCA 専門学校）、『第44回人類働態学会東日本地方会大会プログラム』20-21頁，2015年12月

報告者：岩浅 巧，庄司直人，水野基樹

23. 「チームビルディングを目的としたグループワークがスポーツに及ぼす効果—マッシュマロ・チャレンジに着目して—」人類働態学会 第44回東日本地方会（於：横浜 YMCA 専門学校）、『第44回人類働態学会東日本地方会大会プログラム』22-23頁，2015年12月

報告者：高野 修，庄司直人，水野基樹

24. 「レジリエンス向上を支援するガイドラインを用いた取り組みの効果—フィットネスクラブ2店舗を対象とした事前事後試験デザイン—」人類働態学会 第44回東日本地方会（於：横浜 YMCA 専門学校）、『第44回人類働態学会東日本地方会大会プログラム』24-25頁，2015年12月

報告者：庄司直人，中島 豊，佐川勇太，岩浅 巧，高橋季子，森口博充，水野基樹

## ⑥

## 【学会パネリストなど】

1. 日本体育・スポーツ経営学会第50回研究集会「総合型

地域スポーツクラブ経営の本質を問うV—地域スポーツクラブにおけるダイバーシティ・マネジメント—

パネルディスカッション「総合型クラブにおけるダイバーシティ・マネジメントの推進方策と期待される効果」「ダイバーシティ・マネジメントの意義と課題」

パネリスト：水野基樹

2015年1月24日（於：早稲田大学）

2. 第50回人類働態学会全国大会ワークショップ「人類働態学再考：みんなで作る人類働態学！」

『第50回人類働態学会全国大会プログラム』9-10頁

コーディネーター：水野基樹

2015年6月（於：大阪市立大学）

## 【社会貢献活動】

〈講演・研修講師〉

1. 株式会社ホームケアサービス山口 社員研修会 講師

研修テーマ：「組織を活性化させるリーダーの条件」

2月20日-21日（於：山口セミナーパーク：山口県）

2. 千葉県スポーツ指導者研修会 講師

研修テーマ：「チームビルディングのためのコミュニケーションスキル」

2015年2月22日（於：千葉県船橋市青少年会館：千葉県）

3. アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ 講師

研修テーマ：「チームマネジメントによって目標達成を目指すリーダーの育成」

2015年3月13日-14日（於：ANA クラウンプラザホテル 広島：広島県）

4. 日本ダイバーショナルセラピー協会 DSW 養成講座 講師

講演テーマ：「コミュニケーションの理論と多様な実践」

2015年4月25日（於：順天堂大学本郷キャンパス：東京都）

5. 東京都スポーツ文化事業団 スポーツクラブマネジャー養成講座 講師

講演テーマ：「クラブマネジャーの役割」

2015年5月30日（於：東京体育館：東京都）

6. 早稲田大学規範科学総合研究所・レギュラトリーサイ

- エンス教育講座と公益財団法人労働科学研究所共催「知の市場」産業安全保健エキスパート基礎コース 講師  
講演テーマ：「ストレスマネジメントー考え方と現場での応用」  
2015年7月4日（於：早稲田大学西早稲田キャンパス：東京都）
7. 佐倉市民カレッジ 講師  
講演テーマ：「チームワークを考える」  
2015年7月17日（於：佐倉市中央公民館：千葉県）
8. 石巻信用金庫 経営セミナーイノベーション塾 講師  
講演テーマ：「組織のコミュニケーション」  
2015年7月23日（於：石巻信用金庫本店：宮城県）
9. 千葉県社会体育協会 公認指導員講習会 講師  
講演テーマ：「スポーツ組織の運営と事業」  
2015年8月23日（於：千葉県総合スポーツセンター：千葉県）
10. 日本ダイバーショナルセラピー協会 DSW 養成講座 講師  
講演テーマ：「コミュニケーションの理論と多様な実践」  
2015年9月19日（於：社会福祉法人豊生会：北海道）
11. アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ 講師  
研修テーマ：「チームマネジメントによって目標達成を目指すリーダーの育成」  
2015年10月9日-10日（於：ガーデンシティ品川：東京都）
12. 東京都スポーツ文化事業団 スポーツクラブマネジャー養成講座 講師  
講演テーマ：「クラブマネジャーの役割」  
2015年11月21日（於：東京体育館：東京都）
13. 栃木県体育協会 総合型地域スポーツクラブ養成講習会 講師  
講演テーマ：「クラブマネジャーの役割」  
2015年12月6日（於：栃木県総合教育センター：栃木県）
14. アクサ生命保険株式会社 アクサ・マネジメント・ユニバーシティ 講師

研修テーマ：「チームマネジメントによって目標達成を目指すリーダーの育成」  
2015年12月11日-12日（於：クロスウェーブ梅田：大阪府）

〈学会誌査読・学会理事など〉

日本人間工学会 研究発表奨励賞 審査員

Abstract Reviewer for the Human Factors in the Organizational Design and Management (ODAM) section of International Ergonomics Association 2015.

人類動態学会 理事・副会長

日本人間工学会 評議員

日本マネジメント学会 幹事

日本マネジメント学会 第71回全国研究大会 実行委員

産業保健人間工学会 理事

## 准教授

木藤 友規

②

Kito T., Does vibration-induced kinesthetic illusion accompany motor responses in agonistic and antagonistic muscles? *Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, in press.*

④

中嶽 誠, 木藤友規, バスケットボール競技における長身者の2ポイントフィールドゴールでの有利性, 日本体育学会第66回大会, 東京, 2015年8月

渡 正

③

1. 渡 正, 2015b 「人工物が拓くスポーツの可能性～協働的ネットワークとしてのスポーツ」『戸山サンライズ』265: 16-18.

2. 渡 正, 2015a 「地域におけるスポーツはいかにあるべきか?」『徳山大学紀要』37: 131-142.

⑥

【講演等社会的活動】

過去1年間

2015.7.26：平成27年度千葉県社会体育公認指導者講習会 講師；「文化としてのスポーツ」「地域におけるスポーツ振

興「社会のなかのスポーツ」(千葉県総合スポーツセンター)

2015.10.9：国立国会図書館調査および考査局招待講演  
「パラリンピックの現状と課題：2020年パラリンピックに  
むけて」

【査読】

体育学研究（日本体育学会）

助教

伊藤 真紀

③

Itoh, M. (March 2015). Women Leadership in Sport Conference 2015. Asian Association for Sport Management Newsletter No. 3

④

【国外学会発表】

1. Itoh, M., & Hums, M. (2015 June). Role Models, Women's Leadership and Careers of Women in the Management of Professional Baseball. The 2015 North American Society for Sport Management Conference. Ottawa, Canada.
2. Watanabe, N., Ogasawara, E., Arai, A., & Itoh, M. (2015 August). The Predictors of Coaching Career of Japanese Olympians. The 11th Asian Association for Sport Management Conference AASM 2015, Langkawi, Malaysia.
3. Arai, A., Ogasawara, E., Watanabe, N., & Itoh, M. (2015 September). Career Decision-Making Process of Japanese Olympians: Factors Influencing Female Olympians to Be Elite Coaches. The 23rd European Association for Sport Management Conference, Dublin, Ireland.
4. Itoh, M., Kang, S., & Choi, N. (2015 September). A Comparison of Japanese and American Students' Motives for Using Sport-related Mobile Applications. The 23rd European Association for Sport Management Conference, Dublin, Ireland.
5. Itoh, M., Kang, S., & Choi, N. (2015 November). A

Qualitative Approach of Comparing Japanese and American Students' Sport-related Mobile Application usage. The 20th Sport Management Association of Australia and New Zealand Conference, Tasmania, Australia

【国内学会発表】

1. 渡邊夏美・小笠原悦子・新井彬子・伊藤真紀 (2015). 女性のコーチングキャリア選択に関わる要因の検討：元オリンピックを対象としたコーチ経験による比較検討。スポーツマネジメント学会第8回大会号, p. 31-32.
2. 北川純也・小笠原悦子・伊藤真紀 (2015). CoachDISCの有用性の検討。Leadership Scale for Sports. スポーツマネジメント学会第8回大会号, p. 46.

⑥

【講演・公開講座】

1. “Women and Sport History and Its Current Situation in Japan”. Sport Management Forum 2015. Juntendo University. Chiba. 2015 March.
2. 「プロフェッショナルとしてのコーチング」同時通訳, 女性コーチアカデミー2015, 長野, 2014年9月.
3. 成長スパートを見逃すな～女子アスリートのヘルスサポート～. 順天堂大学スポーツ健康科学部, 千葉, 2015年11月.

【査読】

International Journal of Sport and Health Science 1本

山田 泰行

①

1. Yamada Y, Hochi Y, Mizuno M. 「Key points of procedures of Multiple Role Map program toward Japanese nurses: Differentiation between individual and group approaches」, 『New Ergonomics Perspective』, Ed. Sakae Yamamoto, 2015, 177-80. CRC Press Taylor & Francis Group, London.

②

1. 山田泰行, 大城卓也：分野別人間工学の現状と将来(1)

システムティックレビューによるスポーツ人間工学研究の俯瞰, 人間工学, 51(1): 14-23, 2015.

2. 相撲佐希子, 山田泰行, 鈴村初子, 榎原 毅: 看護における組織安全研修体制が医療安全文化の醸成に与える影響, 労働科学 (印刷中).
3. 水野基樹, 芳地泰幸, 山田泰行, 曾田秀子, 岡田綾: チーム医療の実現に向けたチームビルディングの導入とその効果の検討: 看護業務における協同作業認識変容の視点から, 医療看護研究, 11(2), 8-14, 2015.
4. 山本雅康, 久保博子, 西口宏美, 蜂須賀知理, 森 亮太, 山田泰行: 座談会—2020年東京オリンピック・パラリンピックと超高齢化社会に向けて—, 人間工学, 51(3): 1-7, 2015.

③

1. 山田泰行: 科学研究費助成事業研究 (研究課題番号: 24700779) 「子育てしながらでも働ける!」という意欲を喚起する多重役割マップ看護師版の開発」協力医療機関報告書 2015年11月30日
2. 山田泰行: 「国内大型遊園地における参加型改善アプローチ」協力企業報告書 2015年9月14日
3. 山田泰行: 日本人間工学会大会第56回大会参加報告(2) 「ビッグデータと人間工学」シンポジウム参加報告, 人間工学, 51(4): 270-1, 2015.
4. 山田泰行: 人間工学誌編集後記, 人間工学, 51(2): 156, 2015.

④

1. Yamada Y, Ebara T, Shimizu T, Mizuno M. Relationships between Work-Family Spillover, Compensation and Mental Health Condition among Japanese Nurses: Focusing on Multiple Roles Map Descriptions. Proceedings 19th Triennial Congress of the IEA: Open Access (総4頁), 2015, Melbourne.
2. Mizuno M, Yamada Y, Hochi Y, Honda R, Takahashi H, Shoji N, Aida H, Okada A, Mizuno Y, Behavioral Sensor-Based Organizational Design and Management in

Japan: From the Perspectives of Communication Channel in Nursing Organization. Proceedings 19th Triennial Congress of the IEA: Open Access (総7頁), 2015, Melbourne.

3. Hochi Y, Yamada Y, Mizuno M. Effects of the Organization Development of First-Year Experience and Developed Evaluation Scale in Japan: Focused on the Psychosocial Aspects among freshman of University, Proceedings 19th Triennial Congress of the IEA: Open Access (総6頁), 2015, Melbourne.
4. Miyata M, Yamada Y, Ebata T, Tomizawa M, Ito Y, Wakabayashi C, Katano K, Saitoh S, Kato S, Ando N, Suzuki S, Kojima M, Katano H, Omori T, Sugiura-Ogasawara, Kamijima M. Cohort profile of the Japan Environment and Children's study (JECS) in the center of Aichi Unit, 第25回日本疫学会学術総会抄録集, 2015 (ウインク愛知: 愛知).
5. 山田泰行, 榎原 毅, 水野基樹: マネジメントの役割が看護師にもたらす葛藤と恩恵, 産業保健人間工学会20周年記念大会抄録集: 41-4, 2015 (大阪フォーラム: 大阪).
6. 山田泰行, 榎原 毅, 水野基樹: 看護師の多重役割と精神的健康度の関連—多重役割マップ(質問票版)を用いた横断研究の展開—, 人類働態学会第50回全国大会号: 63-4, 2015 (大阪市立大学: 大阪).
7. 水野基樹, 山田泰行, 芳地泰幸, 本多里也子, 高橋季子, 庄司直人, 曾田秀子, 岡田 綾, 水野有希: 行動センサー技術を用いた電子バッジによる社会的シグナルに関する研究—看護組織におけるコミュニケーション経路の視点から—, 人類働態学会第50回全国大会号: 59-60, 2015 (大阪市立大学: 大阪).
8. 榎原 毅, 山田泰行, 榛原梓園, 山口知香枝, 加藤沙耶香, 上島通浩: 乳児の第2指・第4指比(2D/4D比)は発達過程における自閉症のリスクを予測するか? 第1報: 幼児の手指測定法の検討, 東海公衆衛生雑誌, 3(1): 34, 2015 (岐阜県立看護大学: 岐阜).
9. 沖 和砂, 山田泰行, 広沢正孝: 大学アルペンスキー

選手の心理状態と遠征先での居住環境について—ナラティブアプローチの展開—, 日本スポーツ心理学会第42回大会研究発表抄録集: 240-1, 2015 (九州共立大学: 九州).

10. 榎原 毅, 松河剛司, 山田泰行: 携帯ライフログデータを活用した心理拘束時間解析の試み, 日本人間工学会第56回大会講演集: 88-9, 2015 (芝浦工業大学: 東京).
11. 榎原 毅, 松河剛司, 山田泰行: 携帯ライフログデータの産業人間工学研究への応用可能性, 日本産業衛生学会産業疲労研究会第83回定例研究会プログラム: 3, 2015 (中部大学: 愛知).
12. 山田泰行, 清水輝子, 浅野優治, 榎原 毅, 水野基樹: 看護組織におけるダイバーシティマネジメントの現状と課題, 人類労働学会第44回東日本地方会抄録: 14, 2015 (YMCA 専門学校: 神奈川).
13. 山田泰行, 渡邊貴裕, 水野基樹: 特別支援学校の教員における人的資源開発のニーズに関する研究, 人類労働学会第44回東日本地方会抄録: 14, 2015 (YMCA 専門学校: 神奈川).
14. 高橋季子, 水野基樹, 山田泰行, 芳地泰幸, 庄司直人, 水野有希, 岡田 綾, 曾田秀子: 大学病院の看護師におけるアサーションのタイプとコミュニケーション経路に関する研究—行動センサによるコミュニケーション評価の技術を用いて—, 人類労働学会第44回東日本地方会抄録: 16-17, 2015 (YMCA 専門学校: 神奈川).
15. 大城卓也, 大木祐輝, 小菅裕麻, 山田泰行: 国内大型遊園地が実践する顧客満足度向上のための取り組み, 人類労働学会第44回東日本地方会抄録: 26, 2015 (YMCA 専門学校: 神奈川).
16. 佐藤 翼, 鈴木杏奈, 山田泰行, 鈴木宏哉, 青葉幸洋, 山中 航, 廣津信義: レッドカードのミカタ〜はじまりの予感〜, 第5回スポーツデータ解析コンペティション, 2015 (立教大学: 東京).

## ⑤

1. 山田泰行: スポーツ情報誌「INFORMATIO Vol.01」

監修, INFORMATIO 編集部, 2015.

## ⑥

## 【研究・学会活動】

1. 人類労働学会 理事・事務局長
2. 人類労働学会 第43回人類労働学会東日本地方会 座長
3. 日本人間工学会「人間工学誌」第3期・第4期編集委員
4. 公益財団法人労働科学研究所 協力研究員
5. 日本自転車競技連盟医科学サポートチーム (心理サポート部門) スタッフ

## 【査読】

1. 日本人間工学会「人間工学誌」査読

## 【社会貢献活動】

1. 株式会社ラーニングバリュー 統計講習会 講師  
「データクリーニングと統計解析の基礎」2015年2月12日
2. 株式会社ラーニングバリュー 統計講習会 講師 2015年2月18日  
「t検定, 相関,  $\chi^2$  検定の理論と実践」
3. 株式会社ラーニングバリュー 統計講習会 講師 2015年2月19日  
「分散分析, 重回帰分析の理論と実践」
4. 株式会社ラーニングバリュー 統計講習会 講師 2015年5月18日  
「統計解析を取り入れた報告書の作成」
5. 日本自転車競技連盟ジュニア強化育成事業 2015ジャパントラックカップジュニア強化スタッフ. 2015年7月9-12日.
6. 環境省エコチル調査・愛知ユニットセンター「エコチル! ぶち講座 (一宮市教室)」講師  
「第1回 子どもの成長を支えるためのサイエンスミーテ

- 「インナーエコチルママ・パパと考える発達理論の活用術」2015年8月21日。
7. 環境省エコチル調査・愛知ユニットセンター「エコチル！ぶち講座（名古屋市北区教室）」講師  
「第1回 子どもの成長を支えるためのサイエンスミーティングーエコチルママ・パパと考える発達理論の活用術ー」2015年8月24日。
8. 日本自転車競技連盟ジュニア強化育成事業 講師  
「第1回 カッコ悪く勝つためのサイエンスミーティングーふりかえりを大切にする！練習ノートの活用術ー」2015年10月10-11日。
9. 日本自転車競技連盟ジュニア強化育成事業 講師  
「第2回 カッコ悪く勝つためのサイエンスミーティングー記録が伸びるときの心の特徴に気づく！心理的競技能力の活用術ー」2015年11月13日。
10. 平成27年度日本体育協会公認コーチ養成講習会 自転車競技専門科目 講師  
「自転車競技の心理」2015年11月27日。
11. 日本自転車競技連盟ジュニア強化育成事業 講師  
「第3回 カッコ悪く勝つためのサイエンスミーティングー緊張と不安を武器にする！ストレス理論の活用術ー」2015年12月21日。
12. 高体連自転車競技強化事業 講師  
「カッコ悪く勝つためのサイエンスミーティング」2015年12月21日。
- 〔健康学科〕  
教授  
采女智津江
- ①
- 「保健室経営計画作成の手引」平成26年度改訂版作成委員長，編・共著，采女，岩崎，小高，加藤，塩田，霜田，進藤，中村，（公財）日本学校保健会2015.2
  - 「養護教諭のための学校保健」第13版 編・共著，出井，采女，佐藤，松野，（株）少年写真新聞社，2015.3
  - 「新養護概説」第8版 編集代表・共著 采女，出井，佐藤，松野，（株）少年写真新聞社2015.3
  - 「学校保健の動向」平成27年度版 編・共著，健康教育の動向6心の健康教育 pp144-155，（公財）日本学校保健会2015.11
- ②
- 原著論文「3D 立体映像の被写界深度と融像可能領域」采女智津江<sup>1)</sup> 小寫健仁<sup>2)</sup> 杉浦明弘<sup>1)</sup> 森田一三<sup>1)</sup> 宮尾 克<sup>1)</sup>  
名古屋大学情報科学研究科<sup>1)</sup> 中部学院大学<sup>2)</sup>  
モバイル15研究論文集 pp135-138, 2015.3
  - 原著論文「3D タブレットに表示した眼疲労回復のための3D コンテンツによる視力への効果」山川達也<sup>1)</sup> 田原博史（株 EYRESH）小寫健仁<sup>2)</sup> 森田一三<sup>1)</sup> 杉浦明弘<sup>1)</sup> 木下史也<sup>1)</sup> 采女智津江<sup>1)</sup> 吉川一輝<sup>1)</sup> 本田悠真<sup>1)</sup> 宮尾 克<sup>1)</sup>  
名古屋大学情報科学研究科<sup>1)</sup> 中部学院大学<sup>2)</sup>  
モバイル15研究論文集 pp139-142, 優秀賞, 2015.3
- ⑤
- 全国養護教諭研究大会誌，「課題別研究協議会：保健室経営部会」pp70-75，富山県実行委員会，2015.8
  - 全国学校保健・学校安全研究大会誌，「課題別研究協議会：保健管理」pp27-30，愛媛県実行委員会，2015.12
- ⑥
- 講演・講義
- 「組織的に機能する保健室経営の進め方」，金沢県教育委員会養護教諭研修会，2015.1
  - 「保健室経営計画の作成」，福井県教育委員会養護教諭研修会，2015.2
  - 「保健室経営計画の作成・評価と養護教諭の役割」，郡山市教育委員会養護教諭研修会，2015.5
  - 「児童生徒のメンタルヘルスの理解と対応」，健康教育指導者養成研修，（株）教員研修センター2015.6
  - 「組織的に機能する保健室経営に関する指導講習会」，

(公財)日本学校保健会(文部科学省補助事業),長野県教育委員会2015.8,滋賀県教育委員会2015.10,福岡県教育委員会2015.12

- 「養護教諭の職務」,静岡県教育委員会県立学校養護教諭研修会2015.7
- 「これからの養護教諭の役割と方向性」,福岡県体育研究所2015.8
- 「安全管理・安全指導」,三重県教育委員会研修推進課2015.8
- 「組織的に機能する保健室経営の進め方」,全国養護教諭連絡協議会2015.8
- 「保健室経営計画の作成と評価」,全国養護教諭研究大会,文部科学省,富山県教育委員会2015.8
- 「保健室の機能と養護教諭の職務」,東京都教職員研修センター2015.8
- 「健康相談の進め方と体制づくり」,鳥取県教育センター2015.11
- 「生涯を通じて健康の保持増進を目指す疾病予防と保健管理の進め方」,全国学校保健安全研究大会,文部科学省・愛媛県教育委員会2015.12等

#### ○委員会

- 高校生用科目保健副読本「健康な生活を送るために」作成改訂委員,(公財)日本学校保健会2015.(文部科学省補助事業)
- 保健室利用状況調査委員会委員長,(公財)日本学校保健会2015(文部科学省補助事業)

#### 久保原 禪

##### ②

- (1) Kubohara Y, Komachi M, Homma Y, Kikuchi H, & Oshima Y. (2015). Derivatives of *Dictyostelium* differentiation-inducing factors inhibit lysophosphatidic acid-stimulated migration of murine osteosarcoma LM8 cells. *Biochem.*

*Biophys. Res. Commun.* 463(4), 800-805.

- (2) Nguyen VH, Kikuchi H, Kubohara Y, Takahashi K, Katou Y, & Oshima Y. (2015). Development of novel DIF-1 derivatives that selectively suppress innate immune responses. *Bioorg. Med. Chem.* 23(15), 4311-4315.
- (3) Oladimeji P, Kubohara Y, Kikuchi H, Oshima Y, Rusch C, Skerl R, & Diakonova M. (2015). A Derivative of Differentiation-Inducing Factor-3 Inhibits PAK1 Activity and Breast Cancer Cell Proliferation. *Int. J. Cancer Clinic. Res.* 2, 3.

##### ④

- (1) 牧岡優佳,山本菜々子,久保原禪,細見 修「ヒトがん細胞が高発現するマーカーとオリゴ糖添加による影響」第29回日本キチン・キトサン学会大会 2015年8月20日 熊本
- (2) 桑山秀一,久保原禪「DIF-2による粘菌走化性運動の制御メカニズム」日本細胞性粘菌学会第5回例会 2015年10月10日 弘前
- (3) 河原田律子,中村彰男,高橋克典,菊地晴久,大島吉輝,久保原禪「1型糖尿病モデルラットの血糖値に対するDIF-1(経口投与)の効果」日本細胞性粘菌学会第5回例会 2015年10月10日 弘前

- (4) 中島 徹,田中 進,田中佑季,秋山珠璃,久保原禪,保坂公平「Jurkat T細胞においてミトジェン刺激で活性化される転写調節因子のマンガンによる影響」日本生化学会第88回大会 2015年12月3日 京都

##### ⑥

(講演)

久保原禪「森の微生物『粘菌』は未開拓創薬資源:粘菌由来の物質から新しい薬を創る」

2015年7月11日 学術研究講演会 順天堂大学さくらキャンパス

(公開講座)

久保原禪「ノーベル賞級の大発見(新薬開発)が人類を救う!」

2015年11月1日 順天堂大学さくらキャンパス(オープン



キャンパス時)

## 広沢 正孝

### ①

- 1) 広沢正孝: 学生相談室からみた「こころの構造」—〈格子型/放射型人間〉と21世紀の精神病理. 岩崎学術出版社, 東京, 2015.
- 2) 広沢正孝: 統合失調症患者への面接に臨む姿勢—患者さんの生活を診る姿勢. 統合失調症のひろば編集部編, 中井久夫の臨床作法, pp81-84, 日本評論社, 東京, 2015.
- 3) Kamimura, A., Kawata, Y., Hirosawa, M.: The relationship between birth month, physical size, motor ability and physical activity evaluated by kindergarten teachers among Japanese young children. Yamamoto (ed.), New Ergonomics Perspective. Taylor & Francis Group, London, 2015

### ②

- 1) Kawata, Y., Hirosawa, M., Nirotzu, N., Kirino, E.: Relationship between Empathizing-Systemizing cognitive Styles and Mind Reading among Japanese Adolescents. Juntendo Medical Journal, 60(6); 559-567, 2014. (2015年刊行)
- 2) Kamimura, A., Kawata, Y., Hirosawa, M.: Juntendo Medical Journal (Suppl). Submitted.

### ③

- 1) 広沢正孝: 成人自閉スペクトラム症の内的世界をどう理解するか. 臨床精神医学, 44(1); 25-29, 2015
- 2) 広沢正孝: 「こだわり」の発達精神病理—成人の強迫性障害への道程から. こころの科学, 183; 26-31, 2015.
- 3) 萩原寿枝, 広沢正孝, 神原直幸: 企業における管理監督者の対応と精神不調者の回復状況との関連—情報通信業の一企業における相談記録の分析から—. 順天堂スポーツ健康科学研究, 6(2); 106-110, 2015.
- 4) 岡本隆寛, 広沢正孝, 四方田清, 松本浩幸: 就労継続

支援 B 型事業所を利用する統合失調症患者のリハビリに影響する因子. 医療看護研究, 12(1); 35-43, 2015.

### ④

- 1) 広沢正孝: 成人の ASD 者の生き方と精神症状の理解—成人の精神医療の場面から—. 第111回日本精神神経学会総会, シンポジウム; 成人発達障害の診立てと支援のあり方, 大阪国際会議場, 2015/06/04.
- 2) 広沢正孝: 自閉スペクトラム症の精神病理—そこから見えてくる精神障害の姿とは?. 第19回精神病理ワークショップ東京, アルカディア市ヶ谷, 2015/08/29.
- 3) Kawata, Y., Kamimura, A., Yamada, K., Izutsu, S., Wakui, S., Mizuno, M., Hirosawa, M.: Relationship between resilience and stress coping among Japanese university athletes. The Proceedings of the 19th Triennial Congress of the International Ergonomics Association, Melbourne, 9-14 August, 2015.
- 4) 川田裕次郎, 上村 明, 沖 和砂, 広沢正孝: 児童の運動の楽しさにおける相対的年齢効果. 日本体育学会第66回大会予稿集, p136, 2015. (2015/8/25-27, 国土館大学世田谷キャンパス)
- 5) 中西唯公, 上村 明, 沖 和砂, 川田裕次郎, 山田 快, 小俣貴洋, 広沢正孝: 体育系大学における自尊感情と特性的自己効力感—精神的健康と運動との関係—. 日本体育学会第66回大会予稿集, p159, 2015. (2015/8/25-27, 国土館大学世田谷キャンパス)
- 6) 上村 明, 川田裕次郎, 山田 快, 沖 和砂, 広沢正孝: 大学生競技者において1年後のアスリート・バーンアウトは予測できるか. 日本体育学会第66回大会予稿集, p159, 2015. (2015/8/25-27, 国土館大学世田谷キャンパス)
- 7) 沖 和砂, 山田泰行, 広沢正孝: アルペンスキーにおける自然環境の変化が選手の心理状態に及ぼす影響—インタビューによる実態調査—. 日本体育学会第66回大会予稿集, p165, 2015. (2015/8/25-27, 国土館大学世田谷キャンパス)

- 8) 上村 明, 西田敬志, 川田裕次郎, 田中純夫, 広沢正孝: Empathizing-Systemizing モデルと養育態度がメンタルヘルスに及ぼす影響(1). 日本応用心理学会発表論文集, p31, 2015.
- 9) 西田敬志, 上村 明, 川田裕次郎, 田中純夫, 広沢正孝: Empathizing-Systemizing モデルと養育態度がメンタルヘルスに及ぼす影響(2). 日本応用心理学会発表論文集, p32, 2015.
- 10) 小俣貴洋, 上村 明, 川田裕次郎, 広沢正孝: スポーツ系大学の学生におけるギャンブル依存の現状. 日本応用心理学会発表論文集, p54, 2015.
- 11) 謝 穎, 田中純夫, 広沢正孝: 大学生における愛着スタイルが孤独感および孤独感への対処行動に及ぼす影響. 日本応用心理学会発表論文集, p61, 2015.
- 12) 朴 明姫, 広沢正孝, 川田裕次郎, 上村 明: メンタルヘルスとソーシャルサポートの関連性に関して～韓国の労働者を対象にして～. 日本ヘルスプロモーション学会第13回 学術大会・総会 抄録集, p20, 2015.
- 13) 安藤綾野, 広沢正孝, 四方田清, 松山 毅, 中西唯公: 外出に関する精神障がい者の抵抗感と課題—公共交通機関の利用を中心として—. 日本ヘルスプロモーション学会第13回 学術大会・総会 抄録集, p24, 2015.
- 14) 上村 明, 川田裕次郎, 鈴木美奈子, 広沢正孝: 競技者におけるバーンアウト, 満足度およびエンゲイジメントの関連. 日本ヘルスプロモーション学会第13回 学術大会・総会 抄録集, p33, 2015.
- 15) 中西唯公, 広沢正孝, 櫻井しのぶ: 30代健診を受診した30代女性の健康状態—自己効力感に注目して—. 日本ヘルスプロモーション学会第13回 学術大会・総会 抄録集, p38, 2015.
- 16) 沖 和砂, 山田泰行, 広沢正孝: 大学アルペンスキー選手の心理状態と遠征先での居住環境について—. 日本スポーツ心理学会第42回大会, 2015. (2015/11/22-23, 九州共立大学)
- 17) 遠藤家泰樹, 沖 和砂, 四方田清, 広沢正孝: フットサルが精神障がい者に与える効果について—ナラティブ研究からのアプローチ. 日本精神障害者リハビリテーション学会第23回高知大会, p158, 2015. (2015/12/3. 高知文化プラザかるぼーと)
- ⑥
- 1) 広沢正孝: おとなの発達障害とその支援. そだちの科学, 24(4); 87-91, 2015.
- 2) 広沢正孝: 精神療法再考—学生相談室の経験から. 学術通信111号, pp8-10, 岩崎学術出版社, 東京, 2015.
- 講演
- 1) 広沢正孝: 認知症と特別なニーズを持つ人への配慮と工夫. ダイバーショナルセラピー研修会, (東京), 2015/04/
- 2) 広沢正孝: 自閉スペクトラム症者のこころを理解する—統合失調症との異同を含めて—. 第5回精神科カンファレンス in 浜松, ホテルコンコルド浜松, 2015/10/30.
- 3) 広沢正孝: 認知症と特別なニーズを持つ人への配慮と工夫. ダイバーショナルセラピー研修会, (札幌), 2015/11/
- 四方田 清
- ①
1. 新・精神保健福祉士養成講座2「精神保健の課題と支援」第2版. 編著, 日本精神保健福祉士養成校協会編, pp249-254 (精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割), pp315-323 (地域精神保健と関係法規, 精神保健に関する人材育成), 中央法規, 2015
2. 新・精神保健福祉士養成講座6「精神保健福祉に関する制度とサービス」第4版. 共著, 日本精神保健福祉士養成校協会編, pp111-114 (精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス: 自殺対策), 中央法規出版2015
3. 精神保健福祉士シリーズ7「精神保健福祉に関する制度とサービス」第2版. 共著, 福祉臨床シリーズ編集委員会, pp114-123 (インフォーマルな社会資源), 弘文堂, 2015

## ③

1. 就労継続 B 型事業所を利用する統合失調症者のリハビリに影響する要因. 岡本隆寛, 広沢正孝, 四方田清, 松本浩幸, 医療看護研究, 第12巻 1号, pp35-43, 順天堂大学医療看護学部, 2015
2. 平成26年度厚生労働科学研究費補助金(心の健康問題健康科学研究事業) 分担研究報告書「入院患者の権利擁護に関する研究」「新たな地域精神保健医療体制の構築のための実態把握および活動の評価等に関する研究」. 共著者, 河崎健人, 平田豊明, 浅井邦彦, 東 司, 岡崎伸郎, 鴻巣泰治, 田邊 等, 千葉 潜, 中島豊爾, 永野貫太郎, 藤田健三, 松浦玲子, 松原三郎, 三木恵美子, 光石忠敬, 山下俊幸, 八尋光秀, 吉澤雅子, 四方田清, 2015

## ④

1. 第23回日本精神障害者リハビリテーション学会(一般演題: 高知県高知市), 「フットサルが精神障がい者に与える効果について—ナラティブ研究からアプローチ—」○遠藤泰樹, 沖 和砂, 四方田清, 広沢正孝, 2015
2. 第13回日本ヘルスプロモーション学会(一般演題: 新潟県新潟市), 「外出に関する精神障がい者の抵抗感と課題—公共交通機関の利用を中心として—」○安藤綾野, 広沢正孝, 四方田清, 松山 毅, 中西唯公, 2015

## ⑥

## 講演等

1. 「今, 地域で必要とされている「こと」とは?—精神障害者の理解と支援—」平成27年度 心の健康市民講座(印西メンタルヘルスサポーター養成編), 印西市役所大講堂, 主催: 印西市社会福祉課 (2015.8.4)
2. 「精神障害者の理解と支援」講演及びシンポジウム座長, 佐倉市障害者福祉研修会, 主催: 佐倉市障害者福祉課 (2015.11.1)
3. 「障がいの理解とスポーツ(精神)」障害者スポーツ初級指導員養成研修会, 主催: 千葉県障害者スポーツ協会 (2015.11.15)
4. 「対人援助職のメンタルヘルス—対人援助職のスキルアップに向けて—」千葉県精神保健福祉施設協会研修

会, 主催: 千葉県精神保健福祉士説協会・千葉県 (2015.11.20)

## 科学研究費申請課題

申請あり「ソーシャルワーカーの専門性と精神医療審査会活動の再評価に関する研究」

## 先任准教授

## 飯嶋 正博

## ①

- 1) 九州大学総合臨床心理センター編「基礎から学ぶ動作法—心理リハビリテーション・ガイドブック—」, 「第3章 領域ごとの展開, 12 教育現場で使う動作法—指導実践を通して最近考えていること—」85-89 ナカニシヤ出版

## ②

- 1) 「姿勢にあらわれる子どものこころ—臨床動作法の立場から—」65-73 教育と医学 第63巻 3号(通巻741号)

## ③

- 1) 「運動が苦手な子への指導」平成26年度第2回「運動が苦手な子の教室」に関わるスポーツボランティア技術指導講習会(柏), 資料 1-6

- 2) 「4 知的障害児の動きづくりについて」平成26年度研究紀要久我山青光学園の教育 102-103 CD版 東京都立久我山青光学園

- 3) 「運動発達の理解と指導—動作法を活かした動きづくり—」ダウン症への理解と生涯発達を踏まえた支援—出生前診断も含めて— 発達協会実践セミナー 2-B 資料 16-22

- 4) 「感覚過敏・感覚鈍麻のある子へのリラクゼーション—動作法を中心に—」発達障害・知的障害のある子の「感覚」への支援—集団および個別的な対応を学ぶ— 発達協会秋のセミナー 6 資料20-26

- 5) 「運動が苦手な子への指導」「運動が苦手な子の教室」に関わるスポーツボランティア技術指導講習会(茨木), NPO 法人スマイル 資料 1-18

- 6) 「アクティブ・ラーニングを促進するノート・(メモ)の作成」第1回FDワークショップ 平成26年度学長教育改善プロジェクト報告会 資料1-2
- 7) 「基調講演の内容」, 「シンポジウムの内容」第11回順天堂大学スポーツ健康科学部国際シンポジウム報告書 9-11, 29-31, 34-35, 43-44, 53-57
- ④
- 1) 「心理リハビリテーション研修のためのアクティブ・ラーニング用ノートの試作」, 53-54 日本リハビリテーション心理学会学術大会プログラム・発表論文集
- ⑤
- 1) 「活用事業② 技術指導講習会・安全研修会の開催!!」NPO 法人スマイルニュース 3, 3号 (活動紹介)
- 2) 「平成27年度赤い羽根共同募金による水治療教室」ひとこしだより なかよしネットワークの会 1, 9号 (活動紹介)
- 3) 「ダウン症児の母親支援などで成果, 結成25周年の武蔵野ひまわりの会」広報たまちいき 6, 第29号 (活動紹介)
- ⑥
- 1) 「実技研修I (背中を中心とした訓練: 頭部一首, 円背・側湾, 反りに着目)」第10回情報交換会 平成26年度千葉県心理リハビリテーション連絡会 資料1-4
- 2) 「身体とところはつながっている—もっと自由に使おう—」やちよ福祉塾 講演と実践 特定非営利活動法人にじと風福祉会 資料1-8
- 3) 「知的障害の動きづくりについて—不器用, ぎこちない動きへの指導について—」千葉県立東金特別支援学校全体研修会 資料1-25
- 4) 「知的障害の動きづくりについて—不器用, ぎこちない動きへの指導について—」東京都立久我山青光学園研修会 資料1-25
- 5) 「動きにぎこちなさのある子の支援」千葉県立安房特別支援学校夏期研修会 資料1-10
- 6) 「不器用な子どもの理解と支援—すぐに役立つ, 学校・園・家庭で楽しく取り組む(動きづくり)—」第2回香取市特別支援教育研修会 資料1-25
- 7) 「研究指導の現状について」平成27年度第2回FDワークショップ 資料1-2
- 8) 「お父さん・お母さんの動作法講習会」千葉たんぼぼの会 ダウン症への理解と生涯発達をふまえた支援研修会 資料1-5
- 9) 「心理リハビリテーション—動作法の理論と実践—2015年度版」千葉県ひまわり会, 千葉さくらんぼの会, 市川なのはな会 夏季集中訓練会 研修会 資料1-12
- 10) 「動作法学習会」習志野市ことばを育てる親の会 学習会 資料1-2  
「赤い羽根共同募金による水治療教室」なかよしネットワークの会 (社会福祉法人 一越会) 実技指導 3回
- 11) 「水泳指導」武蔵野ひまわりの会 実技指導 1回
- 12) 「運動指導」千葉たんぼぼの会 実技指導 1回
- 13) 「動作法」千葉さくらんぼの会, 市川なのはな会, 千葉県ひまわり会, コアラの会, たんぼぼの会, ひなクラブ, デイとくら・輝きデイサービス動作法家族講習会, かりんの会, 青空の会, 武蔵野ひまわりの会 実技指導 毎月
- 14) 「公開実技D: ダウン症への適応」助言者 関東甲信心理リハビリテーション連絡協議会 (千葉大会)

## 牛尾 直行

### ④

牛尾直行. インドにおける RTE 法の施行とその社会的インパクト. 日本南アジア学会第28回全国大会日本語自由論題. 2015.9.26. 東京大学

牛尾直行. インド・チェンナイにおける SC/ST/OBCs 学生の学歴形成と教育制度. 日本比較教育学会第51回大会自由研究発表, 2015年6月13日, 宇都宮大学

⑤

牛尾直行. インド社会の近代化と若者の自殺増加. 児童心理69巻4号. 326-333. 2015年2月

⑥

日本教育制度学会紀要編集委員会編『教育制度研究』常任編集委員

東京地区教職課程研究連絡協議会事務局長

査読『教育制度研究』

『(仮)順天堂国際教養学部紀要』

牛尾直行. 公開講座「モルディブの学校と体育」.(順天堂大学スポーツ健康科学部オープンキャンパス, 2015.11.1.)

## 松山 毅

④

安藤綾乃・広沢正孝・四方田清・松山 毅・中西唯公「外出に関する精神しょうがい者の抵抗感と課題—公共交通機関の利用を中心として—」日本ヘルスプロモーション学会第13回学術集会, 2015年11月

⑥

・八街市社会福祉協議会地域福祉活動計画「八街ひまわりプラン」作成(策定委員・作業部会長)2015年3月

・市原市社協・地域福祉講演会講師「生活課題を抱える地域住民への支援と地域づくり～住民主体・生活支援・地域づくり～」, 2015年3月,

・平成27年度千葉県福祉教育推進員養成研修(千葉県社協)講師, 2015年4月～8月,

・酒々井町・酒々井町社協「地域福祉フォーラム」シンポジウムコーディネーター, 2015年2月

・山武市社協・福祉教育研修会講師「地域でつくる福祉教育」, 2015年5月

・成田市社協・福祉教育講演会講師「地域と学校が連携した福祉教育の推進について」, 2015年6月

・成田市西部北地域包括支援センター講演会講師「お互いさまの地域づくり」, 2015年9月

・「地域に生きる!ともに輝き続けるために～地域福祉とダイバーショナルセラピー」, ホームケア山口職員実践研究発表会&講演会, 2015年10月

・大網白里市社協・ふれあい福祉大学講師「生活課題を抱える地域住民への支援と地域づくり～地域組織化・ソーシャルワーク」2015年11月

・佐倉市障害者自立支援協議会・障害について学ぶ市民講座シンポジウム講師「地区社協実践を通した障がい児者とのかかわり」2015年12月

・八街市社協・地域福祉活動計画推進委員会(委員長)・講師「地域福祉活動計画の推進と評価について」2015年12月

## 涌井佐和子

①

1) 井上 茂, 涌井佐和子. (2015). II. 各論, 3 行動変容の応用, 運動・身体活動. 日本行動医学会 野村忍, 堤明 純, 島津明人, 中尾陸浩, 吉内一浩(編). 行動医学テキスト, pp. 119-123. (2015年10月21日)

2) Kawata Y, Hirosawa M, Kamimura A, Yamada K, Wakui S, Izutsu S, & Mizuno M. (2015). Resilience, psychological stressors, and stress responses in Japanese university athletes. 10th Pan-Pacific Conference on Occupational Ergonomics (Tokyo metropolitan university, Tokyo), In: S., Yamamoto, M., Shibuya, H., Izumi,, Y. C. Shih, C. J. Lin, & H.K., Lim (Eds.) New Ergonomics Perspective: Selected papers of the 10th Pan-Pacific Conference on Ergonomics, Tokyo, Japan, 25-28 August 2014. Taylor & Francis Group, UK, London (2015年1月6日).

②

1) 佐藤 馨, 涌井佐和子. 余暇に対する態度と人口統計学的変数ならびにスポーツ阻害要因との関連. 日本体育学会第66回大会体育社会学専門領域発表論文集. 第23号, pp. 153-157. (2015年8月7日)

2) 宇井美佳, 涌井佐和子 (2015). ジャマイカにおける知的障がいがある生徒を対象とした体操競技普及の取り組みと課題. 生涯スポーツ学研究. 12(1): 27-35. (2015

年10月)

③

- 1) 濱野光之, 中村 充, 神原直幸, 涌井佐和子, 伊藤真紀, 白石知己, 高橋佐江 (2015). 2014年度さくらキャンパス学生実態調査報告. 順天堂大学スポーツ健康科学研究. 6(Supplement), 30-37. (2015年3月)

④

【国際学会】

- 1) Machida, M., Wakui, S., Kamemoto, K., & Sakamaki-Sunaga, M. Stress as a source of sport-confidence in female athletes: the effects of a menstrual cycle. 62nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine. (26-30 May 2015/U.S.A, San Diego, CA)
- 2) Sakamaki-Sunaga, M., Kamemoto, K., Tominaga, Yamauchi, R., Machida, M. & Wakui, S. Effects of menstrual cycle on stress biomarkers and sport performance. Stress as a source of sport-confidence in female athletes: the effects of a menstrual cycle. 62nd Annual Meeting of American College of Sports Medicine. (26-30 May 2015/U.S.A, San Diego, CA)

【国内学会】

- 1) 佐藤 馨, 涌井佐和子. レジャー志向性の性差・年代差・職業形態の検討. 第18回日本運動疫学会学術総会(名古屋市昭和区, 中京大学名古屋キャンパス, 2015年6月20日~21日)抄録ページ
- 2) 涌井佐和子. シンポジウム2「特定健康診査・特定保健指導制度の課題と改善対策: ハイリスクアプローチの限界とポピュレーションアプローチの展望」身体活動(座位行動)のポピュレーション戦略の実践例. 第24回日本健康教育学会学術大会(群馬県前橋市中央公民館, 2015年7月4日~5日)抄録ページ
- 3) 町田 萌, 涌井佐和子, 亀本佳世子, 佐藤 馨, 須永美歌子. 日本語版スポーツ・コンフィデンス尺度の信頼性ならびに妥当性の検討. 日本体育学会第66回大会.(東京都世田谷区, 国土館大学世田谷キャンパス, 2015.8.25-27)抄録ページ
- 4) 涌井佐和子, 町田 萌, 亀本佳世子, 佐藤 馨, 須永

美歌子. 大学生女子アスリートにおける月経随伴症状の変化ならびにスポーツ・コンフィデンスとの関連. 日本体育学会第66回大会.(東京都世田谷区, 国土館大学世田谷キャンパス, 2015年8月25日~27日)

- 5) 佐藤 馨, 涌井佐和子. 余暇に対する態度と人口統計学的変数ならびにスポーツ阻害要因との関連. 日本体育学会第66回大会.(東京都世田谷区, 国土館大学世田谷キャンパス, 2015年8月25日~27日)

- 6) 原口 晃, 黒田 豊, 西尾進也, 涌井佐和子. 体力測定結果と最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値との関連性. 第70回日本体力医学会大会(和歌山県和歌山市, 和歌山県民文化会館/ホテルアバローム紀の国, 9月18日~20日)

- 7) 西尾進也, 黒田 豊, 原口 晃, 西尾進也, 涌井佐和子(2015). 高齢者における最大酸素摂取量と変形性膝関節症・腰椎症第70回日本体力医学会大会(和歌山県和歌山市, 和歌山県民文化会館/ホテルアバローム紀の国, 2015年9月18日~20日)

- 8) 黒田 豊, 原口 晃, 西尾進也, 涌井佐和子(2015): 運動療法実践前後における運動時血圧の変化.(和歌山県和歌山市, 和歌山県民文化会館/ホテルアバローム紀の国, 2015年9月18日~20日)

- 9) 涌井佐和子, 町田 萌, 亀本佳世子, 佐藤 馨, 須永美歌子. 大学生女子アスリートにおける月経関連症状の類型化ならびにスポーツ・コンフィデンスとの関連.(和歌山県和歌山市, 和歌山県民文化会館/ホテルアバローム紀の国, 2015年9月18日~20日)

- 10) 宇井美佳, 涌井佐和子(2015): 知的障がい者のバランス能力に関する研究動向と課題. 日本生涯スポーツ学会第17回大会.(鹿児島県鹿屋市, 鹿屋体育大学, 2015年10月31日~11月1日)

⑤

涌井佐和子. 日本スポーツ体育健康科学学術連合 日本運動疫学会企画シンポジウム: 「スポーツ体育学研究における疫学的研究手法」に参加して. 運動疫学ニュースレター No. 5. 平成27年12月10日発行

## ⑥

## (1)査読

日本生涯スポーツ学会  
日本スポーツ産業学会  
日本体力医学会  
日本体育測定評価学会  
日本ストレス学会

## (2)座長

- 1) 第70回日本体力医学会大会. 「生活・健康①」(和歌山県和歌山県民文化会館/ホテルアバローム紀の国, 2015年9月18日~20日)
- 2) 日本生涯スポーツ学会第17回大会 11月1日(日) B会場 (205教室)

## (3)講演・講習会

- 1) 第4回健康運動指導士養成校全国連絡協議会総会「養成校の取り組み(順天堂大学)」.(千葉県勝浦市, 国際武道大学, 2015年2月27日)
- 2) 香取保健所管内食生活改善協議会研修会: 「手軽に楽しく!健康づくりのための運動」(千葉県, 香取健康福祉センター, 2015年6月5日)
- 3) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課「平成27年度特定健診・特定保健指導実践者育成研修会(身体活動・運動に関する保健指導)」(千葉県, 千葉文化センター, 2015年6月25日)
- 4) 文部科学省委託事業 女性アスリートの育成・支援プロジェクト. 日本体育大学「月経周期を考慮したコンディショニング法開発事業」一月経周期を考慮したコンディショニング法一. 女性アスリート&指導者向けセミナー. 「女性アスリートのコンディション管理: 心理・行動・環境マネジメント」.(北海道, 北海道教育大学岩見沢校, 2015年7月18日)
- 5) 千葉県健康福祉部健康づくり支援課「平成27年度特定健診・特定保健指導実践者スキルアップ研修会」講師, (千葉県千葉市, 千葉県文化会館, 2015年10月16日)
- 6) 神崎町工業団地連絡協議会講演会「職場で出来る運動習慣づくり」(千葉県香取郡, サンゴバン・ティーエム

株式会社神崎工場, 2015年10月5日)

- 7) 東京都文京区健康教室(講演会)第1回「アタマを鍛える運動」(東京都文京区, 文京区教育センター2階研修室, 2015年11月21日)
- 8) 文部科学省委託事業 女性アスリートの育成・支援プロジェクト. 日本体育大学「月経周期を考慮したコンディショニング法開発事業」一月経周期を考慮したコンディショニング法一. 女性アスリート&指導者向けセミナー. 「女性アスリートのコンディション管理: 心理・行動・環境マネジメント」.(滋賀県大津市, びわこ成蹊スポーツ大学, 2015年11月26日)

## 准教授

## 大久保菜穂子

## ①

メディカルタウンのヒューマンサポート. 共著, p12-18 (ヘルスコミュニケーションとヒューマンサポート), 30年後の医療の姿を考える会, 2015

## ③

一般市民に開かれた無料健康相談において看護職がとる相談パターンと利用者の満足度. 菱沼典子, 高橋恵子, 松本直子, 山田雅子, 印東桂子, 石川道子, 山岡栄里, 吉田千文, 大久保菜穂子, 内田千佳子, 聖路加看護学会誌 19(1) 11-18, 2015

## ⑥

## 査読

ヘルスプロモーション・リサーチ

## その他

東京都中央区「中央区区民カレッジ連携講座」講師

## 渡邊 貴裕

## ①

渡邊貴裕(分担執筆): 成人期ダウン症者の理解とサポートプログラムダウン症者とその家族でつくる豊かな生活: 福村出版, 2015.

渡邊貴裕(分担執筆): キーワードで読む発達障害研究と

実践のための医学診断/福祉サービス/特別支援教育/就労支援福祉・労働制度・脳科学的アプローチ：福村出版，2015.

## ④

Takahiro Watanabe: Health and physical education in special needs schools for intellectual disability in Japan. International Association for the Scientific Study of intellectual and Developmental Disabilities Americas Regional Congress Program pp. 32.

渡邊貴裕・尾高邦生・橋本創一・菅野 敦：知的障害特別支援学校保健体育科における保健の指導に関する実際と課題：日本特殊教育学会第53回研究大会発表論文集，pp. 3-6

渡邊貴裕・霜田浩信・橋本創一・三浦巧也・井上 剛：感情コントロールとソーシャルスキルトレーニング（SST）の臨床研究‘ちゃんと人とつきあいたい’支援パッケージの開発：日本特殊教育学会第53回研究大会発表論文集，pp. 46

渡邊貴裕・藤野 博・木村 順・金森克浩・大伴 潔：こころ・からだ・ことばを通じた関わり—発達障害児におけるコミュニケーションの評価と支援，日本発達障害学会50回大会論文集，pp. 44-45

渡邊貴裕・尾高邦生・橋本創一・菅野 敦：特別支援学校中学部における職業教育に関する一考察：日本発達障害学会第50回研究大会発表論文集，pp. 161

## ⑥

日本発達障害学会理事・編集幹事  
日本発達障害支援システム学会理事  
平成27年度千葉県初級障害者スポーツ指導員養成講習会講師「(講習科目) 障害の理解とスポーツ (知的)」  
平成27年度千葉市初級障害者スポーツ指導員養成講習会講師「(講習科目) 障害の理解とスポーツ (知的)」  
東京都杉並区立済美養護学校校内研究授業講師

## 講師 中西 唯公

## ②

1. 奥野愛海，櫻井しのぶ，中西唯公：保健室における不良行為少年と養護教諭の関わり—養護教諭が認識しているかかわりの実態—，思春期学，vol. 3 No. 3, 323-333, 2015

## ④

1. 中西唯公，上村 明，沖 和砂，川田裕次郎，山田快，小俣貴洋，広沢正孝：体育系大学生における自尊感情と特性自己効力感—精神的健康と運動との関係—。日本体育学会第66回大会予稿集，p159, 2014

2. 安藤綾野，広沢正孝，四方田清，松山 毅，中西唯公：外出に関する精神障がい者の抵抗感と課題—公共交通機関の利用を中心として—。日本ヘルスプロモーション学会第13回 学術大会・総会 抄録集，p24, 2015

3. 原田静香，櫻井しのぶ，中山久子，岡本美代子，堀内朋子，中西唯公：保健師教育におけるディープラーニングの取り組みとその評価。日本ヘルスプロモーション学会第13回 学術大会・総会 抄録集，p37, 2015

4. 中西唯公，広沢正孝，櫻井しのぶ：30代健診を受診した30代女性の健康状態—自己効力感に注目して—。日本ヘルスプロモーション学会第13回 学術大会・総会 抄録集，p38, 2015

5. 荻野妃那，中西唯公，樋江井晴子，三厨千尋，城田圭子，本田純久，櫻井しのぶ：特定健診における国民健康保険加入者と協会けんぽ加入者の運動習慣の比較。第74回日本公衆衛生学会総会 抄録集，p282, 2015

6. 岸本麻里，齊藤尚子，原田静香，櫻井しのぶ，中山久子，岡本美代子，中西唯公，堀内朋子：看護系大学の統合カリキュラムにおける保健師学生の学習意欲とコンピテンシーの実態。第74回日本公衆衛生学会総会 抄録集，p493, 2015

## ⑥

## 1) 講演

・三重県三重郡菟野町役場「データヘルス菟野モデル」事



業スーパーバイズ (2015年度)

- 千葉県白井市教育委員会生涯学習課 平成26年度白井市民大学校シニア学部 講演「地域でのつながりを考えてみよう～被災地からみえてきたもの～」(2015年1月)
- 千葉県白井市教育委員会生涯学習課 平成27年度白井市民大学校シニア学部 講演「地域でのつながりを考えてみよう～被災地からみえてきたもの～」(2015年10月)
- 千葉県立船橋北高等学校 平成27年度保健講演会「思春期における性に関することについて」(2015年6月)

## 助教

佐々木 啓

②

Sasaki H, Awais R, Takahashi J, Tanji Y, Tada C, Nakai Y. 2015. Effect of grazing on fecal shedding of pathogenic *Escherichia coli* in beef cattle. J Integr Field Sci 12: 39-42.

佐々木啓, 川本英一. 2015. 細菌の病原性解析: 肺パスツレラの全ゲノム配列から見えてきた病原性. LABIO 21 59: 11-14.

④

Sasaki H, Ishikawa H, Asano R, Ueshiba H, Matsumoto T, Kawamoto E. Draft genome sequence of the rodent opportunistic pathogen *Pasteurella pneumotropica* ATCC 35149<sup>T</sup>. 2015 (3月岐阜) 第88回日本細菌学会総会

佐々木啓 肺パスツレラの全ゲノム配列から見えてきた病原性 2015 (6月東京) 第90回実験動物コンファレンス

⑥

学会誌等の査読経験

Clinical Medicine Insight

鈴木美奈子

③

渡邊いよこ, 鈴木美奈子, 島内憲夫. 地域づくり型ヘルスボランティア活動の機能に関する研究: ヘルスプロモーションリサーチ 7(1): 36-47, 2015.

鈴木美奈子. 生涯にわたる女性のヘルスプロモーション: ヘルスプロモーションリサーチ 7(1): 14, 2015.

④

【座長】

第13回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会 シンポジウム: 「meaning of life～生きることの意味～」座長

【発表】

鈴木美奈子, 島内憲夫. 幸福・健康感覚尺度 (Happiness & Health Feeling Scale: 2HFS) の検討—第2報—: 第24回日本健康教育学会・大会講演集, 90, 2015.

上村 明, 川田裕次郎, 鈴木美奈子, 広沢正孝. 競技者におけるバーンアウト, 満足度およびエンゲイジメントの関連: 第13回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会抄録集, 33, 2015.

⑥

【講演】

2015年1月30日 千葉県成田市「成田市健康ぼらんていあ研修会」講師

2015年9月2日 千葉県習志野市「健康なまちづくり審議会」委員

2014年10月23日 愛知県東郷町「健康で元気なまちづくり推進研修会」講師

【公開講座】

2014年11月1日 順天堂大学公開講座「学生と地域住民との交流会」講師

## 助手

飯泉 恭一

②

Uda M, Kawasaki H, Iizumi K, Shigenaga A, Baba T, Naito H, Yoshioka T, Yamakura F. Sumoylated  $\alpha$ -skeletal muscle actin in the skeletal muscle of adult rats. Mol Cell Biochem. 409(1-2): 59-66. 2015

④

飯泉恭一, 富永光俊, 川崎広明, 重永綾子, 加茂敦子, 鎌

田弥生, 高森建二, 山倉文幸 6-ニトロトリプトファン修飾免疫グロブリンはアトピー性皮膚炎のマーカーになり得るか? 2015 (6月大阪) 第15回日本 NO 学会学術集会

川崎広明, 馬場 猛, 重永綾子, 飯泉恭一, 高森建二, 山倉文幸 2型糖尿病モデルマウスでのトリプトファンニトロ化による Glutathion s-transferase の機能障害 2015 (6

月大阪) 第15回日本 NO 学会学術集会

高宮信三郎, 杉山 広, 柴田勝優, 飯泉恭一, 川崎広明, 山崎 浩, 吉村堅太郎, 美田敏宏 岐阜県中津川市蛭川および千葉縣市原市養老川支流におけるサワガニの肺吸虫メタセルカリア感染状況: 教育・研究材料供給の観点から 2015 (7月岩手) 第9回蠕虫研究会